実行団体 事後評価報告書	特定非営利活動法人アイダオ	活動地域	長野県 東信地域

孤独を生み出さないための居場所作りの整備 ～コミュニティシネマの活用～

E-mai info@aidao.jp
URL https://www.aidao.jp/
https://uedakodomocinema.localinfo.jp/

資金分配団体名 一般財団法人 中部圏地域創造ファンド
資金分配団体事業名 NPO による協働・連携構築事業
事業の種類 草の根支援事業 2019
実施期間 2020 年 4 月～2023 年 3 月

1 事業概要

社会課題	長野県の子ども・若者を取り巻く現状はより深刻になっていると言える。依然として若者の平均自殺死亡率は高く、全国平均を上回る 4.1 名という数値を記録している。若年無業者は 6374 人、若年ひきこもりは 7900 人、不登校は 3235 人という数値が出されている中で、数値にはでて来ない課題も多く、なるべく早期の段階で不登校の時代から子どもたちが抱える課題を把握していくことが求められる。
事業概要 対象者	**事業概要：**学校に行きにくい・行かない子どもたちの新たな「居場所」として映画館を活用し、子どもやその家族が孤立しない環境を整えていく **対象：**不登校のこどもたち、中間教室に通うこどもたち、保護者、学校関係者、芸術関係者等
中長期 目標	1、コミュニティシネマを活用した包括的支援体制により、家にこもりがちな子どもたちやその家族が社会とつながり、孤立しない環境を整えられている 2、コミュニティシネマをはじめとする地域にある様々なセクターの存在が寄り添い方支援につながり、生きづらさを解消するセーフティネットとして機能している 3、孤独を生み出さないための居場所が地域社会に継続的に増えていること。そうした支援モデルが、他地域にも波及している
活動方針	1、子ども若者の課題を把握し、セーフティネットとして機能するための連携協議体をつくる。 2、子ども若者の課題解決のため地域資源を増やすため、多様な分野の団体と連携していく。 3、子ども若者が抱える課題を地域社会で包括的にささえる仕組みをつくる。 4、子ども若者の包括的な支援体制がつくられ、行政施策にも反映させるための政策提言を行う。 5、本事業の支援モデルを他地域で紹介し、波及させていくための情報交換や公開の場をつくっていく。

3 年 間 の 活 動 の 成 果	
子ども若者の支援に関わる団体や個人と連携体制を組むことができた	30 団体
子ども若者やその保護者が悩みを吐き出すことができるようになった	登録者の 8 割
子ども若者が気軽に関われる団体や場がシネマクラブ以外にもできた	9 団体
子どもの新しい居場所の活動事例としてシネマクラブを紹介する機会ができた	5 事例

2 事後計画の記載内容

2－1 主な活動とアウトプット

※アウトプットの目標達成時期は、断り書きがない限り、2023 年 3 月

活動 1

・映劇担当スタッフとサムガク（地域協議会担当者）スタッフでまずコアチームを作り、年間計画をたてる。その後随時開催。
・各地区の中間教室等へのヒアリング調査し、その結果を協議会で共有する。
・協議会に他団体を招き、情報共有を行う。それらを踏まえて、協議会のメンバー及び協力体制を拡大する。
・協議会の運営体制を整備する。

<table>
<tr><td>アウトプット</td><td colspan="3">連携協議会が設立され、関係団体が地域の課題を把握し、課題解決に向けた取り組みを行う。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">指標　1</td><td colspan="3">①開催回数　②出席者数、出席団体数　③連携協議会で意見交換した団体数</td></tr>
<tr><td>初期値</td><td>目標値</td><td>実績</td></tr>
<tr><td>初期値）①12 回
②3 名、3 団体
③行っていない</td><td>目標値）①12 回
②6 名、6 団体
③10 団体</td><td>実績）
コアチーム 5 団体（3 回以上協議した団体、★は毎月協議した団体）
★NPO 上田映劇／★NPO 侍学園スクオーラ・今人／長野県動物愛護センターハローアニマルのこどもサポート／個別のスクールソーシャルワーカー／長野県子ども・若者サポートネット

関係機関 30 団体（個別に協議した団体）
教育行政：長野県教育委員会 東信教育事務所、上田市教育委員会、東御市教育委員会、小諸市教育委員会、佐久市教育委員会、軽井沢町教育委員会、御代田町教育委員会、長門町教育委員会

教育支援機関：上田市教育相談所、上田市の中間教室（4 箇所）東御市教育支援センター、小諸市教育支援センター、佐久市教育相談室、軽井沢教育支援センター</td></tr>
</table>

活動 2

・2 年目、3 年目に「未来をつくる新しい学びの場（仮称）」「居場所としての映画館のあり方、活用の仕方（仮称）」と題して、関係者、専門家、当事者が一同に介し、一般市民を対象にしたシンポジウムを開催する。

<table>
<tr><td>アウトプット</td><td colspan="3">関係者、専門家、当事者が一同に介した公開シンポジウムを通じて、子ども若者に関わる問題への関心・認知が高まり、支援が必要な当事者やその家族の新規開拓につながる。
また、シンポジウムを通じて、地域資源を活用した支援の取り組みが、地域社会に周知される。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">指標　2-1</td><td colspan="3">①参加者数　②参加者からの評価シート（アンケートで理解が深まった旨の回答率）</td></tr>
<tr><td>初期値</td><td>目標値</td><td>実績</td></tr>
<tr><td>①30 名
②数値なし</td><td>①　100 名
②60％</td><td>●第 1 回シンポジウム「映画館は未来をつくる学びの場」
2022 年 2 月 24 日（土）13 時～16 時／会場：上田映劇

ゲスト：野村政之さん（演劇制作者／ドラマトゥルク／長野県文化振興コーディネーター）早坂淳さん（長野大学 社会</td></tr>
</table>

			福祉学部 教授）進行役：長岡秀貴（NPO 法人アイダオ、NPO 法人侍学園、NPO 法人上田映劇 理事長） 新型コロナウイルスの感染状況の影響により、上田映劇の会場以外にも急遽オンライン配信も行ったため、海外からも含め 100 名を超える多くの方に参加していただくことができた。①当事者の声を聞く、②映画関係者の声を聞く、③教育と芸術文化の専門家の話を聞くという 3 部構成で行う。特に、当事者である子どもたち（中学生 2 名、大学生 1 名）が自分たちの言葉で発した言葉がインパクトがあったことがアンケートから伺えた。 教育の専門家である早坂淳氏、芸術文化の専門家である野村氏をゲストに招き、それぞれの視点から映画館（地域資源）を活用した居場所の意義について、話をしていただく。海外の事例や、教育、文化芸術の本質的な役割の視点からみても、多様な地域でそれらを育む仕組みを作ることの意義が確認でき、アンケートからも参加者に伝わったことが伺えた。 **●第 2 回 シンポジウム「映画館は未来をつくる学びの場」2022 年 11 月 5 日（土）13 時～16 時／会場：上田映劇** **ゲスト：諏訪敦彦さん（映画監督/東京藝術大学教授/一般社団法人こども映画教室専務理事）・土肥悦子さん（一般社団法人こども映画教室代表理事/（有）シネモンド代表）・野村政之さん（信州アーツカウンシル［一般財団法人長野県文化振興事業団］）・續木奏絵さん（長野県動物愛護センター「ハローアニマル」ふれあい課 動物介在活動コーディネーター）・伊藤茶色さん（一般社団法人 シアター＆アーツうえだ / 犀の角 / うえだイロイロ倶楽部）・臼田瑞希さん（長野県教育委員会 東信教育委員会 学校教育課）** 1 年め同様に、第 1 部ではシネマクラブのメンバーみずからが「シネマクラブってこんな場所！」を語る場を設定。第 2 部ではこどもの居場所の事例報告。そして 3 部ではこども・居場所・芸術文化・学のキーワードでそれぞれの分野から専門家を招き、フリーディスカッションを展開した。こどもの居場所の多様性を再確認する場となった。

活動３

・「うえだ・こどもシネクラブ」「カタリバ」「放課後映画クラブ」の活動周知と、各機関との連携強化、方向性を協議していく。
・「長野県子ども若者サポートネット」との連携
・課題分析、情報共有、先進事例調査
・自治会や市民、地域社会への周知と連携強化

<table>
<tr><td>アウトプット</td><td colspan="3">行政、教育委員会等、地域資源である関係団体と連携協議会との協力体制が強化され、包括的な支援体制がつくられる。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">指標　3</td><td colspan="3">協力団体数</td></tr>
<tr><td>初期値</td><td>目標値</td><td>実績</td></tr>
<tr><td>3 団体</td><td>10 団体</td><td>●コアチーム以外の団体や個人との連携
協力団体が増えていくにつれ、相談件数も上がってくる。コアチームを中心に、各市町村の教育相談所や教育支援センター、行政の福祉課等からも対象者がつながってくる。それぞれつながる機関がすでにありつつも、支援の枠組みには収まりきれない子どもや若者たちがシネマクラブを利用することにつながった。

●のきしたとの連携
特筆すべきは、映劇から徒歩５分圏内にある小劇場・犀の角で展開される「のきした」の取り組みとの協働である。困りごとを抱える女性たちが一時的に宿泊する「やどかりハウス」、お金ではなく時間で困りごとやコミュニティ創造をしていく「時間銀行 ひらく」、子どもたちの放課後の居場所として地域文化創造倶楽部「うえだイロイロ倶楽部」との連携が進んでいった。

コアチーム５団体
NPO 上田映劇／NPO 侍学園スクオーラ・今人／長野県動物愛護センターハローアニマルのこどもサポート／個別のスクールソーシャルワーカー／長野県子ども・若者サポートネット

連携機関 30 団体
教育行政：長野県教育委員会 東信教育事務所、上田市教育委員会、東御市教育委員会、小諸市教育委員会、佐久市教育委員会、軽井沢町教育委員会、御代田町教育委員会、長門町教育委員会、千曲市教育委員会

教育支援機関：上田市教育相談所、上田市の中間教室（４箇所）、東御市教育支援センター、小諸市教育支援センター、佐久市教育相談室、軽井沢教育支援センター

その他行政機関：上田市福祉課、上田市子育て子育ち課、地域若者サポートステーション・しなの／生活就労支援センターまいさぽ

その他関連機関：信州かんもく相談室（上田）、ほっちのロッジ（軽井沢）おけまる食堂（上田）、だらっと（上田）、長岡由貴さん（野澤館女将・「不登校は不幸じゃない」主催）、信州子どもカフェ（長野県）

のきした：犀の角／NPO 場作りネット／NPO リベルテ
信州アーツカウンシル、長野大学、（一社）こども映画教室®</td></tr>
</table>

活動 4

・子ども・若者支援に関わるホームページを開設する。
・子ども・若者支援に関わる地域の NPO の実態調査、新たな連携体制整備
・実行団体に対する、社会的インパクト評価の実施
・報告書作成

<table>
<tr><td>アウトプット</td><td colspan="3">アイダオが中間支援 NPO として、子ども若者支援に多様な NPO が連携できることにつながる新たな政策を提言する。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">指標　4</td><td colspan="3">①政策提言書　②政策提言に含まれる協働・連携例数</td></tr>
<tr><td>初期値</td><td>目標値</td><td>実績</td></tr>
<tr><td>①無　②0</td><td>①有　②5</td><td>●シネマクラブへの参加が学校と同等の出席認定につながる

これまで 4 校 5 生徒を対象にシネマクラブの登校扱いが実現。全国で初の「映画館登校」。
これは不登校の子どもたちの数が年々増え続けていくことを受け、既に 2018 年に文科省から学校現場に通知されている「教育機会確保法」をもとに、具体化していった取り組み。多様な学びの場の実現に向けて、大きな一歩を踏み進んだことになる。

長野県教育委員会が策定した「はばたき ～不登校児童生徒の学びのサポートガイド～」にシネマクラブの事例が紹介される。

●上田市住民自治基本条例の検証委員としての参加（2021 年度）

こどもの権利にまつわる条文設置について提言。

●長野県文化振興計画の有識者懇談会への参加（2022 年度）

社会包摂・社会的処方・社会処方の側面から意見を述べる。誰もが文化芸術を享受できるようになること、また文化芸術が人が生きる上で欠かせないものだということを強調。</td></tr>
</table>

活動 5

・子ども・若者への支援活動の成果・課題を整理し、文化庁や県の文化政策の専門家等へヒアリングを行い、事業のモデル性を検証する。
・映画や映画館がもたらす子ども若者支援活動の「社会的投資収益率」について、その指標の測り方、活用方等をヒアリングする。
・調査結果をまとめ、発信・共有する機会を設け、上田モデルの波及を図る。

<table>
<tr><td>アウトプット</td><td colspan="3">専門家による知見を反映して本事業がより効果の高い支援内容になる</td></tr>
<tr><td rowspan="3">指標　5</td><td colspan="3">①ヒアリング・事例研究数　②専門家の知見を事業に反映した数　③社会的投資収益率</td></tr>
<tr><td>初期値</td><td>目標値</td><td>実績</td></tr>
<tr><td>①　行っていない
②　無
③　実施していない</td><td>①　5 件
①　3 事業
④　70%</td><td>●専門家へのヒアリング
こども映画教室 土肥悦子さん／チャイルドフィルム 工藤さん／三島由紀子監督／長野大学 社会福祉学部　早川淳先生／信州アーツカウンシル 野村政之さん／可児市文化創造センターala 衛紀生さん／可児市文化創造センターala 栗田康弘さ／株式会社ケイスリー 落合千華さん／こども映画教室 諏訪敦</td></tr>
</table>

２－２　３年間のインプット

	計画値		実績値	
資金	事業費　（自己資金含む）		事業費　（自己資金含む）	
	直接事業費 管理的経費 コロナ緊急支援	18,010,349 円 1,098,237 円 113,970 円	直接事業費 管理的経費 コロナ緊急支援	17,687,645 円 1,420,941 円 113,970 円
	評価関連経費	412,700 円	評価関連経費	412,700 円
人材	内部：　合計２人（担当者１人、事務局１人） 外部：　合計１０人（うち、教育専門家、文化専門家５名）		内部：　合計２人（担当者１人、事務局１人） 外部：　合計１０人（うち、教育専門家、文化専門家５名）	
資機材・その他				

１）資金インプットの特徴、主要な支出項目

主に人件費、企画周知のための広報宣伝費と郵送代が主な支出であった。

２）自己資金の種類、資金調達で工夫した点

中間支援団体としての事業性が今後の課題である。行政の委託以外にもお金を生み出す方法を見つけられたら良かったが、そこが難しかった。

３）人材インプットの役割分担等

長岡秀隆（進捗管理）
直井恵　（全体進行、企画、コーディネート）
高橋華恵（会計、事務局）

3 事後評価の方針

3-1　評価の体制

外/内	氏名	所属・役職	評価の分野
内部	直井恵	アイダオ	直接対話、聞き取り、登録フォームやメールでのやりとり、アンケート調査の実施と精査
内部	高橋華恵	アイダオ	直接対話、聞き取り、アンケート調査の実施と精査
内部	長岡俊平	上田映劇	直接対話、聞き取り、アンケート調査の実施と精査
内部	平形有子	侍学園スクオーラ今人	直接対話、聞き取り、アンケート調査の実施と精査
外部	續木奏絵	ハローアニマル	直接対話、聞き取り、アンケート調査の実施と精査
外部	平方素樹	若槻養護中学校	直接対話、聞き取り、アンケート調査の実施と精査

3-2　事後評価のポイント

1	**孤立しがちな子ども若者を含める潜在的な課題が把握できるセーフティネットができたか。**
2-1	**要支援者やその保護者が相談できる窓口やつながりが増えたか。相談機能はどのようにひきこもり状態の改善に寄与したか。**
2-2	**課題解決のため地域資源がコミュニティシネマ以外の場にも波及したか。**
3	**東信地域で、子ども若者が抱える課題への地域社会の理解が進み、協力者が増えるたか。**
4	**子ども若者の包括的な支援体制がつくられ、行政施策にも反映されるようになったか。**
5	**本事業が上田モデルとして確立したか。他地域と経験交流し発展させる見通しができたか。**

4　事業の主要な成果と、それを実現した要因分析

※アウトカムの目標達成時期は、断り書きがない限り、2023 年 3 月

4 - 1　孤立しがちな子ども若者を含める潜在的な課題が把握できるセーフティネットができたか。

成果 1	こども若者の支援に関わる団体や個人と連携体制を組むことができた		
アウトカム指標　1	連携協議会で新たにつながった、要支援者と保護者の人数		
	初期値	目標値	実績
	0 人	支援対象地域全体で 15 機関、約 80 家族	連携した教育行政 8 市町村、支援機関 30 団体 登録者 187 人とその家族
評価方法	直接対話、聞き取り、登録フォームやメールでのやりとり。 シネマクラブの利用者を対象にアンケート調査を実施（実施時期：2023 年 12 月 10 日～2 月 2 日、調査対象：187 人、アンケート回収数 22 人）		

1）確認できた事実・成果

●東信地域の支援機関を把握

始めた当初は左に掲載されている機関と連携しながら、周知を図っていった。学校に行くことができなくなった子どもたちが、どういう場所なら集まれるのか、どんな活動を望んでいるのか、ということを当事者のこどもや保護者にヒアリングしたりリサーチしたりしながら、具体的な体制を組んでいった。まず最初に各地の中間教室へのアンケートを行い、その上で各市町村の教育委員会教育長への事業説明の周知を行った。可能な市町村では校長会や教頭会といった、各学校の先生たちが集まる場で事業説明をさせてもらうこともあった。それと同時に、長野県教育委員会 東信教育事務所が所管する地域のスクールソーシャルワーカーの連絡会、長野県動物愛護センター ハローアニマルの担当職員、長野県東信こども若者サポートネットのスタッフにも協力依頼をし、こちらの 3 団体からは、早速事業開始直後から、直接個別に居場所が必要な子どもたちを繋げていただくことができた。

また行政機関以外にも、さまざまな民間の NPO や支援機関ともつながりを作っていった。特筆すべきは、映劇近くにある小劇場「犀の角」と NPO 場作りネット、NPO リベルテ等と協働でとりくむ「のきした」とのつながりである。

「のきした」について…長野県上田市で、コロナをきっかけに始まった「のきした」は、雨風しのぐ「のき」を作ることで、新たなつながりを作ろうとする試みです。500 円で泊まれる「やどかりハウス」。お金ではなく時間を交換する「ひらく」。小さなコミュニティが繋がっていく「犀の庭」。様々な「のき」生まれています。

ここではやどかり利用者が日中映画を観にきたり、「おふるまい」でつながった、生活保護を受けている地域住民（路上で日中の多くを過ごす）が、真夏や真冬に映画を観るついでに映画館で休む、などの機会も増えていった。またシネマクラブの活動と、のきしたがつながることで、子どもたちが気軽に立ち寄れる場所が上田映劇だけでなく犀の角にもできていった。

●上映会やカフェの参加者の支援機関とのつながりを確認

東信地域の SSW、教育支援センターや相談所とつながった結果、学校にいきづらい子どもたちをシネマクラブに紹介したいということで、子どもたちの新規登録が増えていき、187 名の登録へと至った。またそれらの機関を通じて DV やヤングケアラーといった家庭に問題を抱える子どもたちの登録が出てきたことにより、「学校」と「家庭」のいずれも居場所にならない子どもたちの日中の居場所が急務となることもでてきた。

また義務教育のこどもたちだけでなく、中学校にはほぼ行かず、高校進学もしなかった年代の子どもたち、そしてそれらを経て、所属のない若者たち（バイトも就職もまだすることができない等）の居場所としてシネマクラブを紹介する機関が増えてきた。（まいさぽ、サポステ等）

２）成果につながった要因は何か。

●アイダオの持つネットワーク、拡大連携会議による効果

３つの NPO による連携事業ではあるが、その中でのアイダオのコーディネート業務は本事業ではとても重要な役割を果たした。侍学園と上田映劇のそれぞれの活動の調整以外にも、家庭と学校の中間に立ったコーディネーターとしての役割、そして芸術文化と教育の間でのインタープリター（通訳者）としての役割などが挙げられる（ 専門家へのインタビュー / のきした会議の場などでの意見)。関係団体（拡大連携会議）が３０団体とぐんと増え、そうした団体や組織の内部の担当者や教員、専門家等の方達とも対話をしていきながら、事業の理解を進めていった。

●スクールソーシャルワーカーとの連携

また、今回は関わるスクールソーシャルワーカーの“見立て”が重要な鍵となった。“見立て”とは、その子どもの状況把握を誰の視点で捉えるか、というのことである。「不登校」となった場合に、個人の意思に寄り添ってしまって大丈夫なのだろうか？と周りの保護者や教師たちが思い悩むことが多いのだということを実感した。例えば「まずは一瞬でもよいから学校へ来たら？」という声かけは、決して本人の意思に寄り添ったものではなく、家族や学校の意向を優先させた結果にある。学校にいくことを最優先させてしまう場合、そこへの拒否反応が起こり、結果家に引きこもってしまう。しかし、まず学校が居心地の良くない場所であるという認識を持っている場合、その本人の意思に寄り添った場合には、学校以外に息抜きができる場所と時間とゆとりの確保が必要である。

そうした視点を持って「学校以外にこの子がどんな場なら行きたくなるだろうか？」を考えられるスクールソーシャルワーカーとの連携がとても大切なポイントであった。今回そうした視点を持ったスクールソーシャルワーカーとつながったことがとても大きな要因である。（はじめて出席認定を実現させた学校の SSW、特別支援級の先生との面談より）

3）成果を表すエピソード・参加者の声・データ等

●いつも会っている場所以外で子どもや保護者に会えることに意味があると感じています。 上映中は、他の人の気配も感じながら、個の時間が確保されていることもいいなと感じます。選択肢（映画を観る、サムカフェにいる、誰かと話をする、ワークショップに参加する、ポップコーンを食べたり飲み物を飲むなど）参加している人の意思決定、行動選択が保証されていていいと思います。それぞれが思い思いの参加の仕方ができる所が良いと思います。 シネマクラブ参加時に、共通の趣味を持つ子ども同士が出会える場になっているのもいいなと思います。出会いが少ない子どもたちにとって、貴重な出会いの場になっていると感じます。 日常の仕事の延長ではありながらも、シネマクラブの時間は職場以外の人と出会う時間、情報共有できる時間、日常業務から離れて自分自身の気持ちをリセットする時間になっています。（ スクールソーシャルワーカー）

●子どもたちが安心した表情で初めて会う同世代や大人と接している姿に触れて「場」の生み出す力に驚いた。（支援機関）

●映劇、シネマクラブ、サムカフェ、そこにかかわる皆さんの存在に助けられています。 ありがとうございます。“子ども”“保護者”はもちろん、“居場所”そして、“そこにかかわる人”同士がつながることができる場所になっていると感じています。一つの場所、一人の人が子どもたちや保護者とつながるだけでは限界があり、広い関係性の中で、つながっていることが必要だと感じています。地域にある映画館が、人と人とをつなぎ、居場所と居場所をつなぎ、様々な役割を果たしているように感じます。 今後ともよろしくお願いいたします。（ スクールカウンセラー）

4）気づきと今後に向けて

今回、まずはじめに教育委員会に理解を得られたことが走り出しとして大きかったように思う。それには、やはり中間支援 NPO という立場がとても有効であり、個別の映画館やフリースクールのみでは実現し得なかったかもしれない（教育長や教育委員会との懇談の中でそういった旨の発言が聞かれた）。なかなか個別の団体や個人というのは、行政機関としても連携体制を取りにくいという点もあるのかもしれないし、実際に映画館にしてもフリースクールにしても、通常の事業運営をするだけでも体制的に精一杯のところがあるので、プラスアルファの行政とのつながりを作るという点では中間支援団体は最適であった。そういった意味でも、今後も連携団体を増やしていき、さまざまな団体のハブとして地域社会で活動していていきたいと思う。

4-2-1 要支援者やその保護者が相談できる窓口やつながりが増えたか。相談機能はどのようにひきこもり状態の改善に寄与したか。

成果 2-1	うえだ子どもシネマクラブを通じて、子ども若者やその保護者が悩みを吐き出すことができるようになった		
アウトカム指標　2-1	支援対象地域の相談窓口数		
	初期値	目標値	実績
	0件	支援対象地域全体で１０機関 約５０家族	シネマクラブ登録者（187名）のうち、相談が寄せることができた家族数（156名）
評価方法	直接対話、聞き取り、登録フォームやメールでのやりとり。 シネマクラブの利用者を対象にアンケート調査を実施（実施時期：2023年12月10日～2月2日、調査対象：187人、アンケート回収数22人）/シンポジウムの登壇者によるトーク＆アンケートより（実施：2022年2月&2022年11月）/ 拡大支援会議、個別のケース会議		

1）確認できた事実・成果

●「映画館」という場だからこそ、来ることができた

引きこもり状態にあった小学生にSSWが家庭訪問を続けていく中で、なかなか本人には会えずに保護者や教員との面談を続けていたケースがあったのだが、ある日、本人が「この映画が観たい」と言って映画館に来ることになったという。SSWが語るには、小学校高学年に入る頃から不登校だったため、担任の先生も本人とは会ったことがない状態であったが、映画館には普通に来ることができた。それはすごいことである。それから自分の興味のあるところには出かけられるようになるなど、ひきこもりからの脱却が可能になった。SSWとの定期的な情報共有により、駐車場登校ができるようになったこと、中学に進学して保健室登校できるようになったことの報告を受ける。

● 本音を安心して吐き出す場

多くのこどもたちが「家庭」と「学校」で日々の多くを過ごしている。そうした中で、家庭や学校に関する愚痴を吐き出す場というのがなかなかない。学校だと先生や学校の愚痴が言えたなかったりするが、シネマクラブ（特に平日シネマクラブ）では、誰が聞いているわけでもない、当事者同志の共感により、自然と学校に対するあれこれや、日頃の悩みを共有する時間が生まれる。

利用する中学生からは「家の次に安心できる場所だ」という言葉をもらう。

2）成果につながった要因は何か。

● “支援らしくない”ということ

関わる子どもたちについての事前の情報はあまり入れないまま関わりを持ち始めた。私たちが子どもたちと接する時に「支援者」と「被支援者」の関係を作らなかったからこそ成りたつ会話がたくさん生まれた。「困難を抱えた子どもたち」という目線ではじめから関わってしまうと、なかなかそうでない関係性を構築するのが難しくなってしまう。あくまで「映画館のひと」として

話を聞くことで、彼らは本音を語ることができ、何もなくてもふらっと立ち寄ることにつながった。（シネマクラブの利用メンバーとの対話 / 専門家支援会議チームとの対話から）

● なにもしなくてもいれる場であること/目標を持たないということ

これはほとんどの場が「目的」がないと、その場にいれないということにつながる。例えば病院は治療しにいく場所、学校は勉強しにいく場所、喫茶店はお金を払って珈琲を飲みにいく場所…等々、「場」にはそれぞれ目的があって成り立っている。これ自身は至極当たり前のことではあるが、そもそもこの社会にふらっと立ち寄れる居場所がなくなっている状況で、気軽に立ち寄れる場のあり方としては、「目的を持たない」点はとても大事なポイントである。小学校からはじまる学校教育、進学、就職、（時には結婚）等々、人生では目的を持つように教えられる。が、そうした目標そのものがプレッシャーと感じ、生きることに困難を感じる子ども若者が増えていく中で、「何も目的なくても、何もしなくても、その日１日が安心安全に終わる」という時間と場所の確保はとても大切である。（平日シネマクラブの利用メンバーとの対話より）

そうしたことから、シネマクラブでは「学校に戻ること」や「働くこと」を目標にはおかず、あくまで本人のエネルギーが溜まり、自分から一歩を歩み出せる時間を確保することを意識した。なので、来るも来ないも本人の意思であるということも伝えていった。

● ナラティブアプローチ

中高生の頃から不登校の経験を持つある一人の大学生とは、映画館だからできる関わりを続けてきた。大学を休学中の彼女（→現在は復学）は現在も心療内科で治療中で、周りにはたくさんの支援者がいる。担当医師、担当看護師、作業療法士、スクールカウンセラー、地域の保健士等々の専門家が、常に彼女の動向を見守る中、彼女といろんな会話をする中で、支援者が多いということが逆に彼女自身が決断することを困難にしていることがわかってきた。いま彼女はたくさんの映画を観ることで、登場人物に自分を重ね合わせ、社会と自分を俯瞰しながらみつめなおしている。ダメダメな主人公が出てきては「人ってこれでもいいのかもと思えるようになった」と語り、「これまで私はいい子でいようとしていたなあ」と素直な感情を吐き出せるようになってきました。彼女とは体験してきたことを語りー聞くという行為をしながら、それを“物語”として綴り合うことを始めた。“現実は社会的に構成され、語ることで世界がつくられる”ということばの通り、彼女の生い立ちや経験を聞きながら、架空の少女に希望と不安と葛藤の感情をのせて、一歩一歩を一緒に歩んでいる。これはいわゆる「支援」とは異なるが、映画館という場が自然に行える手法のひとつとして注目すべき役割である。

● 多世代が集まる場になったこと

義務教育時代のこどもたちだけでなく、就労に向き合う若者たちが集うことにより、多世代が映画館に来るようになった。就労に向き合う（仕事がない、仕事が続かない）若者たちの多くは不登校を経験しており、学校や家庭や社会に感じる違和感が共通する場合が多い。そうした中で通信制高校にまつわる情報交換などの会話が生まれたり、世代を超えた悩みの共有や進路に関わるアドバイスが自然と生まれていった（チームでの振り返りから）。

3）成果を表すエピソード・参加者の声・データ等

- 「時間など、しばり無く参加できること」という話が印象に残りました。私個人は学校で生活リズムを保っていたので時間を「障壁」に感じる人もいるということがひとつ大きな気づきになりました。
- 第１部。子どもたちにとって上田映劇が居場所になっているのがわかった。同世代の人だけでなく、他の世代の人とも交流できることで、世界が広がると思った。
- 第一部、３名の実体験としてのお話。なかでもチラシのスタンプやポスターの貼り替えなどお手伝いをしているということ。映画を観に上田映劇に足を運んでいます。緩やかに彼らとの繋がりを感じられた嬉しさがありました。また学校や家庭以外の映画館という場。そこでひらかれている子供シネマクラブは映画を通し、でも鑑賞する場所だけにとどまらない大人、子供の枠にとらわれず、越えるようなフラットな場所、活動だと感じました。素晴らしい活動、応援しています。
- 「家と学校が全て」という子どもたちが、映画館で「今、ここ」から抜け出して世界と仲間とつながりながら、自分のものさしを持って幸せに生きていける、そんなすてきな未来が見えた気がしました。

（シンポジウムアンケートより）

4）気づきと今後に向けて

「うえだ子どもシネマクラブ」という場が、本当に多くの子どもたちや保護者、また若者たちや時に教師の方達にとって、それぞれ大きな意味を持つ場となっていったことが、想像以上の出来事であった。映画館という独特な空間が、少なからず魅力として発信できたかもしれないし、また場の持つ雰囲気が全てを肯定してくれる空間として機能したのではないかと感じる。

ただ、現状では全国的にも上田映劇のようなミニシアターは経営の岐路に立たされている場合が多く、上田映劇も同様の状態ではあるので、社会包摂といった役割を応用していきながら、今後さらに場の在り方を深めていくことが求められる。

4-2-2　課題解決のため地域資源がコミュニティシネマ以外の場にも波及したか。

成果２－２	子どもや若者が気軽に関われる団体や場がシネマクラブ以外にもできた		
アウトカム指標２－２	本事業に関わる NPO や地域団体の数		
	初期値	目標値	実績
	０団体	５団体が関わるようになる	関連団体３０団体のうち、子どもが実際に関わる（またはつながった）場や活動を行う９団体
評価方法	直接対話、聞き取り、登録フォームやメールでのやりとり。 シネマクラブの利用者を対象にアンケート調査を実施（実施時期：2023 年 12 月 10 日～２月２日、調査対象：187 人、アンケート回収数 22 人）/シンポジウムの登壇者によるトーク＆アンケートより（実施：2022 年２月&2022 年 11 月）/ 拡大支援会議、個別のケース会議		

1）確認できた事実・成果

●「のきした」との連携

困りごとを抱えた女性や若者がワンコイン（500 円）で泊まれる宿 ＝ やどかりハウスや、お金を介さずに困りごとを解決するネットワーク ＝ 時間銀行 ひらく や、子どもたちの放課後の居場所

兼、文化系の地域型部活動 ＝ うえだイロイロ倶楽部 など、小劇場・犀の角を拠点に展開される「のきした」の取り組みとの連携が進んだ。

シネマクラブで家と学校以外の居場所を確保でき、安定するようになった子どもたちが、次に誰かのために時間を使う活動として時間銀行でお手伝いに行ったり、家だと休息できない（ヤングケアラー的要素）こどもの場合、日中の居場所としてシネマクラブ以外にもやどかりハウスを利用し、昼寝等をするためにスペースを活用する場面が出てきた。

またやどかりハウスのメンバーとのご飯会を不定期で開催する時には、シネマクラブのメンバーも一緒に夕飯をみんなで作って食べたりしている。

2）成果につながった要因は何か。

●異なるジャンルのメンバーが集まること。

垣根を越えた関係性　／　支援―支援されるの関係性からの脱却

のきしたに関わるメンバーには、精神科病院に勤務する精神保健ソーシャルワーカーがいたり、福祉 NPO の相談支援員がいたりする。また社協やまいさぽのメンバーもいたりする中に劇場のスタッフやアーティストが出たり入ったりする。そうした関係性の中でこそ、当事者の子どもや若者がひとりの人として、街の中で誰かと出会う機会が作られるのである。支援の視点からだと、その当人は“困りごとを抱えた人“として映るかもしれないが、その本人がアイデンティティとして形成しているあらゆる表現は、アーティストの目線からみると魅力あふれる個性となり得る場合がある。そうした異なるジャンルのメンバーが集まることにより本人が感じる「課題」は時に「魅力」「個性」に置き換えられたりする。そうした動きにより、支援するー支援されるという関係性から脱却することができ、そうした場を求める当事者の方たちが多く集まる結果となった（のきした会議/おふるまいの振り返りより）。

3）成果を表すエピソード・参加者の声・データ等

●学校として、どんなことができるのか、家庭や本人とのつながりをどう考えればいいのか、いろいろ悩むこともありますが、いつもその子が「楽しい」「やりたい」と感じることができる場が一つでも多くあることがベストだと思うので、シネマクラブさんの活動がその子にとって居心地の良い場になっていることは本当に良かったと思いました。（2022 年度 シンポジウムアンケート）

●中学生の子どもは、がんばって学校に通っていたけれど、ある日立ち上がれなくなってしまいました。 シネマクラブは、学校がつらい、行きづらいと感じてしまう子ども自身のことを肯定してくれる大事な場所です。そういう場所が今、この子には必要です。 授業のある昼間の時間、映画館というひらかれた場所で、いろんな大人の方が関わってくれて、いろんな活動をしてくれる。そこから大きな安心感と、肯定感をもらっているのだと、参加したあとの子どもの顔を見ていつも思っています。（中学生保護者）

●『地域創造 no47』特集 1　コロナの視座①　レジデンス再考

犀の角/のきした p14　の記事の中で紹介される。

●雑誌「ソトコト」2022 年 3 月号

みんながフラットな関係を築くまち。「のきした」という場作り。　の中で紹介される。

4）気づきと今後に向けて

映画を愛して止まない上田映劇のスタッフや、のきしたでさまざまな活動を展開するスタッフたちがまず「楽しそう」であるということが、子どもたちを惹きつける最大の要因だったように思う。まず「楽しそう」と思えたからこそ、映画館にまず来てくれた訳で、さらに上田映劇を通じて近くに小劇場があって「なんだか他にも楽しそうな場所がある」と次につながる。最初に興味関心で一歩を出せた子どもたちは、次の一歩は軽々進めるのだということをつくづく感じた。

そう思うと、場を作る大人が楽しいかどうかということがまず一番大切なのではないかと思う。地域社会に点在する組織が子どもたちにとって魅力あふれる場所に変化していくということがとても大切であるということに改めて気付かされた。

4-3　東信地域で、子ども若者が抱える課題への地域社会の理解が進み、協力者が増えたか。

成果 3	**地域社会に対して、不登校をはじめとする子ども若者の課題を理解してもらう機会を持つことができた**		
アウトカム指標　3	本事業の中で連携、協力体制がとられた自治会、商店街等の数		
	初期値	目標値	実績
	記録なし	50 自治会、５商店街	２件の地域の視察訪問、１件の商店街の方との連携につながった
評価方法	直接対話、アンケート回収結果		

1）確認できた事実・成果

● 上田市少年育成センター 視察訪問（2021 年 11 月 12 日、2023 年 2 月 17 日（予定））

地域の補導員や民生委員の方達の視察受け入れ。現在のこどもたちを取り巻く環境の説明をしたほか、地域で困難を抱える子ども若者とどう向き合うべきかについて、シネマクラブにくる子達の状況を説明しながら共有。上田市内の上記関係者約 11 名が参加

●商店街の店主による職場体験のお誘い

メディア等で活動を知った商店街の和菓子屋の店主から、シネマクラブのこどもたちに職場体験に来ないかというお誘いを受ける。が、本人の調子により、今回は見送ることになった。

2）成果につながった要因は何か。

メディア（テレビや新聞、ラジオ等）で紹介されたことにより、地域の方たちに知っていただくことができた。それが視察や声かけにつながっていった。直接的なアプローチを取ることが難しく、メディア等を通じた間接的な周知になってしまったが、そうした方法をすでに見聞きしていた方も多かった。

3）成果を表すエピソード・参加者の声・データ等

●今の時代の中で「子どもたちに社会を近づけていく」という取り組みの一つだ、ということが心に残りました。社会と少しづつ繋がって、自分と他者への信頼をまたつないでいくきっかけのひとつになればいいと思いながらお聞きしました。（2020 年シンポジウムアンケートより）

●不登校児童達のために活動していること初めて知りました。子ども達の為にこの様な活動をされていることに驚くと共に、もっと一般の人にも知ってもらいたいと思いました。また登校扱いされる地域とされない地域がありましたが、早く改善し上田市もその様な扱いになればと感じました。（上田市少年育成センター 訪問者より）

●NPO 法人と言う名前は、知っていたが、実際どんなことをやっているのかわかって有意義な時間でした。（上田市少年育成センター 訪問者より）

●この様な活動が、わが地域で出来るよう望んでいます。（上田市少年育成センター 訪問者より）

●不登校の子どもがコロナで多くなったと聞き、居場所のなくなった子どものために居場所をつくっていただけることに感謝したい。（特別補導員）

●当事者の感想や現状を知ることが出来ズシリと響いた。今後に生かしたい。（上田市少年育成センター 訪問者より）

4）気づきと今後に向けて

自治会や商店街といった地域型組織との連携については、なかなか手が回らない状態が続いた。話をすれば理解を得られることにもつながったとは思うが、具体的な連携方法を始め、なかなか関係を構築するまでのゆとりがなくなってしまい、優先順位が後回しになってしまった。教育行政との連携で精一杯の中で、緊急性のある支援機関、そしてスピードと柔軟性がある地域の NPO との連携がスムーズに進む中で、自治会や商店街組合はとても組織的な動きが求められるので、事業の在り方としても、そうしたところと連携する意味や理由の優先度が低くなってしまったところが現状としてあげられる。ただ、上にも述べたようにテレビや新聞、ラジオ等の報道ですでに見聞きしててくださり、自発的に協働企画を持ち込んでいただいた商店街の方もいたので、そういった意思ある「人」を通じて地域とも連携できれば良かったかと思う。

4-4　子ども若者の包括的な支援体制がつくられ、行政施策にも反映されるようになったか。

成果 4	**「学校に行きづらい（不登校）」についての課題が共有され、行政機関等と必要な連携が進んだ**		
アウトカム指標　4	本事業の中で、行政機関と連携で行われた活動の数		
	初期値	目標値	実績
	0 件	共催、後援、協力企画の数が年間 5 企画	上映会 36 回、公開シンポジウム 2 回 学校との出席認定をめぐる連携 4 校 行政の条例・計画への委員参加 2 件
評価方法	事業実績を元にしたアイダオ内での振り返り		

1）確認できた事実・成果

●シネマクラブの参加が、学校の出席認定につながった

現在 4 校の中学校でシネマクラブに登校することが出席と認定される事例につながった。

これまで４校５生徒を対象にシネマクラブの登校扱いが実現。全国で初の「映画館登校」。
これは不登校の子どもたちの数が年々増え続けていくことを受け、既に 2018 年に文科省から学校現場に通知されている「教育機会確保法」をもとに、具体化していった事例。多様な学びの場の実現に向けて、大きな一歩を踏み進んだことになる。

●上田市住民自治基本条例の検証委員としての参加（2021 年度）
こどもの権利にまつわる条文設置について提言。
条文設置には至らなかったが、検証結果として、**▶逐条解説の見直し**と、**▶条例の運用（条例の趣旨を生かす取組の推進）**の箇所に「こどもの権利」にまつわる内容を追記することにつながった。
具体的には以下の文言が上田市住民自治基本条例に加わった。

▶ 逐条解説の見直し
（２）子どもの権利に関する取組について（第６条）

今回の検証の中では、子どもたちが主体的に地域に関わり、意見を述べることが重要であるという意見や、大人は子どもの意見を尊重するとともに、その意見をまちづくりや市政にどう活かすかを考えなければならないという意見が出されました。

日本が「児童の権利に関する条約（子どもの権利条約）」を批准した後、全国の自治体で「子どもの権利に関する条例」を制定する動きが見られ、県内では、松本市が平成２５年４月に「松本市子どもの権利に関する条例」を施行しました。この条例は、「子どもの権利条約」が保障する子どもの権利を、より具体的に、わかりやすく定めるとともに、それを保障するための大人の役割や、松本市の取組について定めています。

上田市自治基本条例は、「子どもの権利」を「市民の権利」に包含するかたちで規定していますが、改めて上田市として、子どもの権利を保障し、大切にしていく姿勢を明確にすることが必要と考えます。

上田市では、未来を担う子どもたちのために、子どもの権利の視点に立った取組の充実を図るとともに、「子どもの権利に関する条例」の制定について検討されることを要望します。

▶条例の運用
（３）子どもがまちづくりに参加し、市政に参画する権利について（第６条）

上田市自治基本条例は、第２条（定義）において、市内に居住、通勤又は通学する個人を「市民」と規定することで、第６条（市民の権利）の中に、子どもや女性、障がい者、高齢者、外国人等の権利が包含される形としています。こうした年齢、性別、心身の状況、国籍、民族等に関わりなく、私たち市民が平等で、お互いに対等な立場で、まちづくりに自由に参加でき、市政に参画できることについて、改めて市民に認識していただくため、逐条解説の中で説明を行うことが必要と考えます。

また、子どもたちの権利については、１９９４年（平成６年）に日本が「児童の権利に関する条約（子どもの権利条約）」を批准して以降、全国の自治体で「子ども権利」を守る取組が進められています。上田市においても、自治基本条例が施行されてから１０年が経過し、未来を担う子どもたちがまちづくりや市政に積極的に関わることはますます重要となっています。これまでの間、上田市や上田市議会では、子どもたちの意見を市政に反映させるための様々な取組を進めています

が、更なる取組の推進と市民への意識啓発を図るため、「子どもの権利」について逐条解説の中で説明を行うことが必要と考えます。

なお、「子どもの権利に関する条例」制定の検討については、「３　条例の運用　（２）子どもの権利に関する取組について」で意見を述べています。

【例文】（１４ページ解説の第１段落１行目の「本条は、自治の主体である市民が有する権利を明らかにするために設けています。」の次に追記）

「市民の権利」とは、年齢や性別、心身の状況、国籍、民族等に関わりなく市民が平等で、お互いが対等の立場で、まちづくりに自由に参加でき、市政に参画することができる権利をいいます。

【例文】（１４ページ解説の「（第１項）」解説の文末に追記）

１９８９年（平成元年）の国連総会において採択された「児童の権利に関する条約（子どもの権利条約）」では、子どもを“権利を持つ主体”と位置付け、大人と同様にひとりの人間としての人権を認めるとともに、「生きる権利」「育つ権利「守られる権利」「参加する権利」の４つの子どもの権利を守るよう定めています。日本は１９９４年（平成６年）に条約を批准し、全国の自治体で「子どもの権利」を守る取組が進められています。

本項は、子ども権利条約の４つの権利のうち、「参加する権利」を保障する条項です。

子どもは自分の考えや意見を自由に表することができ、活動の場に自由に参加することができます。大人が子どもの意見に耳を傾け、ひとりの人間として子どもの権利を尊重しながら、一緒にまちづくりを行い、市政への参画を働きかけることで、子どもが地域を身近に感じ、まちづくりや市政に関心を持つことに繋がります。

▶令和２年度住民自治基本条例の見直しについてのサイト
https://www.city.ueda.nagano.jp/soshiki/mati/37914.html

●長野県文化振興計画の有識者懇談会への参加（2022 年度）

社会包摂・社会的処方・社会処方の側面から意見を述べる。誰もが文化芸術を享受できるようになること、また文化芸術が人が生きる上で欠かせないものだということを強調。

▶次期「長野県文化芸術振興計画」策定に係る有識者懇談会 についてのサイト
https://www.pref.nagano.lg.jp/seibun/r4_advisory_board.html

２）成果につながった要因は何か。

●学校や SSW、教育委員会との密な連携

出席扱いの件については、学校の担当者、SSW との密な連携が欠かせなかった。シネマクラブができることをきちんと示していくとともに、それを理解してもらえるように対話を重ねた。また必要があれば学校と家庭の間に入ることもあり、まだ学校外を学びの場として認めていない市町村や学校も多い中で、説得力のある言葉をきちんと使えるようになることが大切なポイントであった。こうした仲介・連携を行った数は 10 校に及ぶ。

●原理原則に立ち戻ること

学校外の学びの場の認定については、きちんと法律で位置付けられてられていることである。（教育機会確保法）その法律を読み込み、理解するところから始まり、教育行政や学校と対話をするときに、根本的な問題の認識を欠かさないように心がけた。不登校の子どもたちが増えている／学校現場は圧迫している／地域には空いている地域資源が山ほどある→その現状を捉えることで、やっている取り組みの役割が見えてくる。そうした点が浸透してきている学校が増えていることを実感した。

３）成果を表すエピソード・参加者の声・データ等

以下に、出席扱いとしている学校へのアンケートを行なった結果の一部を抜粋する。

うえだ子どもシネマクラブへの参加が出席扱いになった経緯を教えてください。

▶ 教育委員会を通じてＳＳＷの方から紹介をしていただき活動に参加することになりました。また、子どもさんが活動に参加することを通して、本人が意欲的に参加し、成長している様子を感じるので、出席と同じ扱いで考えています。

▶教頭がシネマクラブを訪問、見学。担当者と懇談し、その様子を学校長へ報告。市教委も子どもの学びにつながるとして認めて頂く。

▶ 文部科学省のガイドラインに基き、学校長の判断で出席扱いとした。

▶ 教育委員会が後援していたこと。

▶ 学校長の多様な学びを推進する判断。

参加した子どもたちや保護者にどのような反応・変化がありましたか

▶シネマクラブで子どもや保護者に会った時は、支援される－支援する関係ではなく、一人の人として映画の話をしたり、世間話をしたり、時には子どもの話をしたりすることができているように感じます。映劇以外の場所で親子に会った時に、映画の話をして盛り上がることもありました。 帰りの車の中で、その日に観た映画の話をして帰ったという声もありました。 最初はチラシを受け取るだけだった子どもが、チラシを渡した時に、映画の内容を自ら読む子どもの姿がありました。 保護者がチラシを見て映画に興味を持つことで、その後の子どもとの会話も生まれていました。 家から外になかなか出ることができなかったり、外出先が少ない子どもが、シネマクラブに参加できたことで、“その場にいることができた”“また来てねと声をかけてもらって嬉しかった”“行くことができて自信になった”などという声が子どもや保護者から聞こえてきました。

▶参加している本人がとても、興味を持ち、毎回参加することを楽しみにしています。家庭からも出ることができ、保護者もその時間は、自分の時間がとれるようになったようです。

▶以前よりも登校日数が増えた。自習したり、授業に参加したり自ら決定して行動する様子が伺える。

▶中間教室に通う回数が増えた ・放課後登校等での会話が増えた。

▶映画館などの公共の場所に出れなかった少年が映画館に入れた。（母親は驚いた）

▶学校が大変だったのは、自分の能力不足ではなく、学校の環境と合わなかっただけだと理解できた。

その他、一般の方の反応として

●映画館に通うことで学校の出席になっている学生さんがいるということを知れて映画館が家と学校以外の場所として大切な存在になっていることを実感しました。（シンポジウムアンケートより）

●多様な環境で生きている子どもたちに、学校ではない立場からアプローチしてくださってありがとうございます。学校では教師と生徒という関係があるので、なかなかお互い本音で語り合うという、一番大切なことが素直にできないこともある中で、いろいろな場所で、いろいろな方と本音で話せることは、とても大切なことだと思います。（令和３年度東信地区社会人権教育研修会 参加者の感想から）

●「学校に行きたくないって思う日に『映画館に行って、観た映画をちょっと考えてみよう』ってなったら、それで勉強になる！学校で得難いこと！精神的なというと雑な表現だけど、そんな理由で学校に行けない→欠席！となってしまうとどんどん学校に行けなくなってしまう（個意見）から出席扱いはスゴイ」（twitter より）

●「「学校に行きづらい日は映画館においで」とうたっているミニシアターがあることに感動している。高校時代、いじめられていたわけでもなく上部の人付き合いはあったけど、部活やめて漠然と居場所がなかった１６の私には放課後に過ごす時間が圧倒的に自由を感じて、映画館は居場所だったから凄く分かる。」（twitter より）

●「この４年間で視察を重ね、教育に携わる方々の声を聴き、一般質問等を通じて提案してきた取り組んできた不登校の子どもたち、引きこもりの若者たちへの支援。市の施策として実現したものはありませんでしたが、改めて社会が子どもたちに合わせて変わる時だと再認識。私も引き続きがんばります！#上田市」(twitter　上田市議)

４）気づきと今後に向けて

学校と同等の出席扱いの話題については、まだまだ議論が必要な段階で、さまざまな課題も孕んでいる。シネマクラブを通じて「映画館」といった場が学校に通うことと同等の役割を果たす扱いを受けることができたことは非常に社会にインパクトを与えたとも言える。が、同時に、学校教育の在り方自体を問う議論も必要ではないかと感じる。

４-５　本事業が上田モデルとして確立したか。他地域と経験交流し発展させる見通しができたか。

成果 5	子どもの新しい居場所の活用事例として、シネマクラブを他団体や地域に紹介する機会ができた		
アウトカム指標　5	他地域への波及事例		
	初期値	目標値	実績
	把握できていない	５事例	事例報告５回、関連の報道回数27件　のうち、波及事例は確認できず。
評価方法	事業実績を元にしたチーム内での振り返り（2023 年１月）		

１）確認できた事実・成果

●社会包摂型の映画館/劇場といった新しい取り組みについての事例報告を実施

◆こども映画教室 こどもが映画と出会うとき@オンライン 2021

2021 年 3 月 12 日（金）20:00~22:00
登壇者:諏訪敦彦監督、深田隆之監督、直井恵（うえだ子どもシネクラブ）、
上野克（シネモンド）、樋口裕重子（ほとり座）、土肥悦子（こども映画教室）等
「オンラインで映画のワークショップってどうやるの？」
「このコロナ禍で、映画教育には何が必要なのか？」
「全国の小学校を回った巡回事業報告」 「各地でのこども映画ワークショップ実践報告」など

◆新潟アーツカウンシル 持続可能な文化芸術活動を考える③

「草の根でゆるやかにつながる地域 ～文化による居場所づくりの試み～」
2022 年 2 月 16 日（水） 19：00～20：30
ゲスト：直井恵（うえだ子どもシネマクラブ）
進行役：野村政之（コーディネーター／ドラマトゥルク／演劇制作者）

◆劇場に関わる人のためのアーツマーケティング・ゼミ
あーとま塾 2021 特別篇 ~社会的共通資本としての劇場文化~

2022 年 2 月 24 日(木)~25 日(金)
塾長:衛紀生(ala シニアアドバイザー兼まち元気そうだん室長)
事例報告:村尾剛志(丸亀市産業文化部市民会館建設準備室長)
直井恵(うえだ子どもシネマクラブ/ NPO 法人アイダオ・NPO 法人上田映劇)
栗田康弘(可児市文化創造センター顧客コミュニケーション室長)
トーク進行&グループワーク・ファシリテーター:落合千華(ケイスリー(株)取締役)
会場：可児市文化創造センター ala https://www.kpac.or.jp/
主催:公益財団法人可児市文化芸術振興財団 助成:一般財団法人地域創造

◆丸亀市文化芸術推進サポーター養成講座「文化芸術＆社会課題」トークイベント
「学校に行きづらい日は、映画館に行こう！」

～みんなの力で再起動した映画館で「映画館登校」を実現した NPO の取り組み～
■日時：2022 年 9 月 24 日（土）13:30～16:30（開場 13:00）
■会場：マルタス（丸亀市市民交流活動センター）2 階 ROOM3・4
■講師：直井恵（うえだこどもシネマクラブ）

◆「生きにくさ」と向きあうアートマネジメントの実践研究: 反抑圧的ソーシャルワークを手掛かりに
A Practical Study of Arts Management to Deal with "Difficulties in Living":
A Perspective of Anti-Oppressive Social Work Practice

■日時：2022 年 9 月 24 日（土）17:30～20:30
■会場：静岡文化芸術大学総合演習室+Zoom（ハイブリッド開催）
18:00～ 司会（風間勇助／東京大学・日本学術振興会 DC1）
開催校からのの挨拶（南田明美／静岡文化芸術大学講師）
課題設定：反抑圧的ソーシャルワークとは？（齋藤梨津子／シンガポール国立大学研究員）
18:10～ 上田市「うえだ子どもシネマクラブ」について（大蔵真由美／松本大学准教授）
18:30～ 浜松市における取り組み
浜松市の多文化共生の取り組みについて（鈴木恵梨香／浜松国際交流協会）

「ハマルおんがくプロジェクト」：音楽を通した外国につながる子どもたちの拠点づくり（南田明美／静岡文化芸術大学講師）

鴨江アートセンターにおける子どもを対象としたワークショップの取り組みについて（澤柳美千子／ 浜松市鴨江アートセンター）

●映画関係者による拡散

コロナ禍で立ち上がった「ミニシアタークラブ」という全国の単館映画館のスタッフたちのオンラインセミナー（公開）を皮切りに、それが yahoo ニュースで報道されたことや、シネマクラブについての twitter でのつぶやきなどにより、映画や映画館を応援する監督、俳優、配給スタッフ、劇場スタッフなど、映画に関わる専門家たちが 2021 年 3 月頃からネットや SNS で拡散したことで、一気に「うえだ子どもシネマクラブ」の取り組みが全国に知れ渡った。広告宣伝のプロの方達による拡散のおかげで、一般の方への周知はもちろん、各種メディアの方たちに取り組みをキャッチしていただくことができた。

2）成果につながった要因は何か。

●映画館や劇場の存在意義を問われる時代

事業をはじめたタイミングがちょうどコロナ禍と重なったため、全国で映画館や劇場をはじめとする文化芸術が岐路に立たされる状況であった。そうした中で「果たして芸術文化は不要不急と言われるのものなのか」、「こういう時代こそアートが果たすべき役割が大きいのではないか」という議論が、映画だけでなく、全国の劇場でも同時多発的に起きた。そんな気運も高まり、シネマクラブの取り組みが全国規模で注目されるようになり、映画だけでなく劇場や行政の取り組みの中での事例報告を行う機会が増えた（上田映劇より）。

●専門家による言語化

教育分野や芸術文化分野など、専門家間のネットワークにより、シネマクラブの周知が広がったことが大きな要因だった。専門家によるインタビューや分析等により、この取り組みがさまざまな形で言語化され、言葉としてフィードバックをもらったことにより、それが事業にも反映されたし、対外的に周知されていくことにもつながった。

●当事者の声を取材等を通じて社会に表明していったこと

学校教育や今の時代の生きづらさについて、当事者である子どもや若者たちが、取材やシンポジウムを通して、積極的に語ったこと。学校に行っていないということをネガティブに捉えるだけではなく、この取り組みの中では自分たちの言葉で語ることや語る機会を大切にした。もちろん取材を通じて傷つくこともあるので、その点は注意しながら見守ることが必要ではあったが、当事者自らの思いを社会表明していく機会はとても重要で、そうしたやりとりの中のこどもたちの成長、事業へのフィードバックがとても大きいポイントであった。

3）成果を表すエピソード・参加者の声・データ等

別途添付資料）シンポジウムのアンケート 2 回分、SNS の反響のまとめ、各種メディアのまとめ

4）気づきと今後に向けて

今回、全国のさまざまな地域で事例報告をさせていただく機会が何件かあった。そこでよく言われたこととして、「市民による連携の素晴らしい」ということであった。他の劇場や施設が公的なものであった場合が大きいかもしれないが、どうしても働きかけが行政からになってしまい、市民による自発的な取り組みと言えるのかどうかという点が疑問として残るということであった。そういう意味では、この「うえだ子どもシネマクラブ」は 3 つの NPO による連携事業であることから、市民や地域社会が同じ土壌にあり、市民が繋がりやすい。そうした特徴を活かしながら、今後もこの上田の取り組みをさまざまな場面で紹介していきたい。

5 特筆すべき成果

～予測していなかった成果、副次的な効果、注目すべきエピソード等～

5-1　こどもたちの状況に合わせて、事業内容を変化させていく。

●上映会の回数、作品数を増やしていく

月に一度の上映会で１つの作品を上映するということで始めたが、それだと作品の好みによって参加できる子が限られてしまう様子が見られた。子どもたちの観たい映画のリクエストも考慮していくと、幅広い種類の作品を届けた方が子どもたちが映画館に来るチャンスも増えるのでは、ということになり、上田映劇のスタッフとの話により、上映会を月に２回に増やした。また、上映会だとなかなかこれないという子達に向けて、普段の興行上映でも観にこれるように鑑賞方法と対象作品も増やすという試みも行った。

●映画を観なくても過ごせるという余白を残しておく

また映画を観ることにあまり興味のない子どももいるため、そういう子達が過ごせる余白を残しておく。そうすると、結果的に、ひとりものづくりが好きな中学生がおり、その子は映画を観ることはあまりないが、上映会では自分で作ったクラフトを販売するブースを出店するようになる。親子でその場を切り盛りすることで来るモチベーションにつなげていった。

●平日シネマクラブというオプションを始める

また保護者や支援者と話をする中で平日の昼間に子どもたちがいれる場所が少ないということがわかってきた。そこで新たに「平日利用」のオプションを始める。週に２日、映画館の窓口のコーナーや事務所で作業を手伝ってもらったり、勉強をしたり、本を読んだり、お茶を飲んだり等をして過ごせる場を持つことになった。現在、利用希望者が微増している。

5-2　学習支援の英語の時間がはじまった

子どもたちとの対話の中で、「英語の勉強をしたい」という声があがり、上田映劇の会員でもある大学の英語の先生に学習支援のボランティアを依頼。快く受けてくださり、不定期ではあるが、学習支援の英語の場が始まる。それ以前にも、高校受験を控えた中学生の英語の学習支援を平日に行ったことがあり、その際には、登録していた子の弟（当時小学生）も不登校であったことが発覚し、シネマクラブに来ることにつながった。その姉弟は親の都合により引っ越してしまったが、その後もずっと繋がり続け、進学の際には「合格しました」と報告をもらうなど、遠方にいてもつながりが途切れない関係性が生まれていった。

5-3　食べることをめぐるいくつかのストーリー

平日の受け入れをしていく中で、集う子達が中学生から 20 代後半と幅広く、さまざまな家庭環境や状況を抱える子達が日々ドラマのように出会い、関係性を構築している。上映会に比べて１日を共にすごす平日シネマクラブのメンバーの関係性は独特で、異年齢がいることにより、思いもよらない関係の効果が生まれることがある。そもそも他者との関わりを築いていくことが苦手なメンバ

ーが多いので、お昼を一緒に食べるということから生まれるさまざまなストーリーが関係性を構築する上でとても重要で、それをいくか特記しておく。

●はじめて自分でおにぎりを握る

具体例のひとつとして、お弁当を持参して平日来る中学生の中に、料理好き男子がいる。お弁当を自分で作ってくることが多く、家庭でも料理を担当することが多い様子。一方で、就労に向き合う 20 代後半女子は、料理が苦手である。ほぼひとりで自発的に自炊をしたこがない。食事をめぐる話や、お昼を一緒に食べるという行為を通じて、二人の間に起こったやりとりの中で、20 代の女性がはじめておにぎりを握ってシネマクラブにくることがあった。彼女の中で何か大きな変化が起きたことが見受けられた事例である。

●みんなと一緒にご飯を食べることができるようになる

また中学の頃から不登校で、現在就労に向き合う 20 代女性の場合は「みんなとご飯を食べる」ということが苦手で、学校給食はもちろん、初めて会う人たちとご飯を食べることができないことが多かった。当初きはじめたころはみんながお昼を食べていても、「お腹が空いていない」ということで食べないことが多かったが、平日シネマクラブに通う中で、中学生らと通信制高校の話などで盛り上がったり、平日シネマクラブでは場を切り盛りするリーダー的存在になりつつあるなかで、次第にお昼を持参して一緒に食べるようになっていった。

●ご飯をつくって食べるということ「やどかりご飯会」

もうひとつの事例としては、やどかり利用者でもあり、生活保護を受けている 20 代女性の事例である。彼女はひとり暮らしを始めていく中で、なかなか「食事」のポイントが低く、自分で自炊することが後回しになってしまう状況がみてとれるようになった。コンビニ弁当やお菓子や支援でもらうレトルト食品でお腹を満たすことが繰り返されてりう様子が観られる中で、「みんなでご飯をつくって食べる会」というものを、犀の角で企画することにした。「やどかりご飯会」として不定期開催でご飯会を開催するようになるが、そこには中学生のメンバーや就労に向き合う 20 代男性も、シネマクラブが終わったあとに参加するなど、買い出しからみんなで行って夕ご飯を食べて帰る、といったこども食堂的な取り組みも始まるようになった。

5-4　うえだ子どもシネマクラブ de こども映画教室

2022 年 11 月に企画した子どもたちだけで映画を撮る！というワークショップ企画について。この 2 日間の体験が、シネマクラブの子どもたちに大きな変化をもたらしたことにも触れておきたい。通常の活動だと、映画を観る、映画館で過ごす、といったわりと静かな時間が多いのだが、今回初めて「みんなで何かをする」ということを「一定のプログラム」に乗せて実施してみた。自分たちで撮りたい映画を撮る、とか、映画を深掘りしてみてみる、ということを、ひとりの作業でなく、チームで取り組むということ。日頃集団行動が苦手な子どもたちにとって、不安な一面もあったかもしれないが、終わってみて、何かをみんなで作るという場の設定もとても大事なプログラムだということを実感した。

終わってみて、普段の映画教室とは変わってると思わなかった。集中できる／できないとかも、その子を気にかけながらも、みんなでやってこうという感じや、子ども同士が気にかけ合うというの

も変わらなかった。こんなこと言ったらいけないのかな？と考えてしまったが、いつものように話しかけたら、何も変わらないなと思った。色々チャレンジさせてもらえた。（土肥さん_こども映画教室/当日の振り返り会の中で）

全体については、今までで一番やりやすかった。何も問題を感じなかった。でもそれは、たまたまじゃない。この場所があって、周りの人たちが「これでいいんだ」って気持ちでいるのが大きい。僕たちは何もストレスを感じなかった。（諏訪監督_こども映画教室/ 当日の振り返り会の中で）

こども映画教室のメンバーは口々に「普段の映画教室と変わらない」＝ 通常の一般に行われている映画教室のプログラム（学校に行っている子達対象としているもの）と変わらないということを発言していて、それはとても興味深い点であったが、ここで後述されている諏訪監督の振り返りポイント「**この場所があって、周りの人たちが「これでいいんだ」って気持ちでいるのが大きい。**」について、のちにみんなで深い議論に至った。

通常のシネマクラブでも、みんなで何かをするワークショップ的なものを随時入れてきたのであるが、なかなか時間を共有し、話をしながら作り上げる、という段階まで至ることが少なかった。そうした中でこの 2 日間は 9 時から 18 時くらいまでみっちり時間を共有し、同じことに向かって作りあげるという行為が成り立つのか？が当初から不安であった。

でもこの場で体験したことは、それが実現可能だったということであるが、その前提として、アートを実施する専門チームは通常と同じことをすればよくて、シネマクラブチームはこどもたちの様子をみながらサポート体制に入るケアチームとしてその役割を果たしていけば、場が成り立つのだということを実感した。

みんなで何かを作り上げる、という体験を経たこどもたちには明らかに変化が起きて、そういう場を今後も継続して開催していきたいなという思いに至った。

6．協働・連携による課題解決の体制の充実

6-1　チーム内の協働・連携

1）チーム内で協力した内容　　A1 侍学園、A２上田映劇

(1)行政、教育委員会、地域の関係団体との連携強化			
協力活動の項目	A1	A2	協力した内容
広報	○	○	シネマクラブの取り組みについての周知（チラシ、HP、SNS 等）
内容的な連携	○	○	シネマクラブの上映作品の選定、関連企画の組み立て等。平日の居場所として開放。
作業面の手伝い	○	○	上映会や SAMUcafe の企画運営。当日の参加者の対応等。

●効果＝活動の質の向上、変化に役立ったこと

・それぞれの分野を活かした取り組みとなっているため、映画の作品選定から上映に至るまでの範囲は上田映劇が、そして参加する子どもたちやその保護者たちのフォローアップについては侍学園が役割を担うことで、団体の強みを活かした形で連携を図りながら事業を進めていくことができた。

・映画館を居場所にしたことで、学校や支援の場には行きにくい子どもたちが、家から一歩出る場として映画館を活用することができた。

●参加者層の広がり

・教育関連ではスクールソーシャルワーカーや支援者のつながりで個々に子どもたちに声かけをしてもらい、少しつづ認知されるようになっていった。

・教職員の方や行政担当者が視察や研修として訪れることで、居場所を必要とする子どもたちに情報が届くようになった。

・上映会やコミュニティカフェ、平日の映画館に子どもたちが来るようになって「また次も来たい」「楽しかった」「家の次に安心できる場所だ」と家に帰って話をする子どもたちの様子を保護者を通じて聞くことができている。

・映画館に来ることで出席扱いになる学校が出てきたこと。（＝第３の居場所、新しい学びの場として認められてきている）▶出席認定をする学校が増えてきた。

(2)公開シンポジウム			
協力活動の項目	A1	A2	協力した内容
広報	○	○	シンポジウムの周知
内容的な連携	○	○	会場設営、機材周り
作業面の手伝い	○	○	当日の受付、進行等

●効果

・シンポジウム周知の部分で各団体とつながる方たちに向けて広報することができた。

・当日の進行に関しても、それぞれの役割分担によりスムーズに進めることができた。

●広がり

・大学の研究者や大学生の研究対象としてシネマクラブが扱われる事例が増えてきた。

・ダンスや演劇、美術など、映画だけでなく他ジャンルの芸術文化に関わる方の参加もみられた。

・包括的な居場所づくりを実践している方もみられた。

・シネマクラブを実際に利用している子どもたちに登壇してもらったことで、率直で説得力のある声を社会に発信することができた。本人たちが抱えている課題や問題意識を壇上で語り、それを参加者から受

け取り感想を述べることで、本人たちが抱える「学校に行きづい」という一見ネガティブな経験が彼ら自身の自信にもつながっていった。そして実際にシネマクラブがどんな場所なのかということを伝える大切な機会にもなった。
・「多様なこどもたちの学び／居場所」の必要性を社会に訴えるために、連携団体の方達に登壇してもらった。居場所をもとめている子どもたちやその保護者にとっては周知の大切な機会になり、支援者にとっても「居場所」の理想を考える機会になった。

２）自団体の貢献と体制整備

（1）チームに対して行った協力内容、その効果

●侍学園との関係では、SAMUcafe 運営に関わる上で、当学園の生徒とのコミュニケーションを図ることを積極的に意識した。特にすぐに就労につながらない生徒や、人との関わりを求めている生徒に積極的にシネマクラブのボランティアスタッフとして関わるように声かけをした。また平日シネマクラブにおいても、10 代の子どもたちとの関係性の中で、侍学園の生徒がとても大きな存在を果たすことにつながった。場を和ませたり、話しやすい空気を作ったり、同じ状況を経てきた同志としての、さりげない気配りなど、シネマクラブの場を熟成させていく上で大きな役割を担っていくことができた。積極的な声かけにより、生徒のみなさんがシネマクラブに関わりやすい空気を作り出すことができた。

●上田映劇との関係においては、平日シネマクラブを開いていくために、別館トラウム・ライゼの興行上映中の窓口業務を兼務することで協力体制を築いた。アイダオの業務内容は特定の場所で仕事をする必要がなかったため、窓口で一般のお客さんの対応もしながら、子どもたちの受け入れを行なった。そのことにより、映劇の一般のお客さんや会員さんなど、映劇支援者とつながることができ、シネマクラブに通う子どもたちもそこからつながりが生まれる（学習支援のボランティアなど）こともあった。

（２）自団体の体制整備、知見やノウハウの蓄積についての変化・成果と評価

アイダオについては、改めて中間支援組織としての在り方、役割を問われた三年間であった。シネマクラブを通じて、コンソーシアムで運営していくことのメリットデメリットも見えてきたが、一番はジャンル/分野を超えたところでの共通の言語を見つけ出し、対話をする場をセットする役割だということを感じた。

6-2　チームの運営

1）チーム運営についての取り組み　　※評価の★の数は、別紙１の基準による

A 目標の共有 チーム構成団体が、目標対して共通認識をもって事業に取り組むこと	**評価** ★★★★★
機能したこと・成果が生まれたこと	**難しかったこと・課題が残ったこと**
学校に行きづらい子達の居場所がどうあるべきか？という点について、子どもたちの利用の状況をみながら、３団体のコアチームの毎月の定例会議の場で確認していった。	
B 情報共有 構成団体が、情報を共有して事業に取り組むこと	**評価** ★★★☆☆
機能したこと・成果が生まれたこと	**難しかったこと・課題が残ったこと**
関わる子達の状況について、支援会議を個別で開くなどして、情報共有につとめた。時にコアチームだけでなく、ハローアニマルや長野県こども若者サポートネットなど専門支援チームにも参加してもらい、情報の共有につとめた。	個別の子どもたちの情報の共有が難しかった。子どもたちの状況の変化や特性についてのアップデートが追いつかなかったこともあった。
C 協働・役割分担 構成団体が役割を担い、力を活かし合って事業に取り組むこと	**評価** ★★★★★
機能したこと・成果が生まれたこと	**難しかったこと・課題が残ったこと**
役割についてははっきりそれぞれの団体が担うポイントが分かれていたので、アイダオは①コーディネート　および　包括的な支援体制作り、侍学園は②カフェ運営を通じて変わる子達のケアおよび生徒を通じたピアカウンセリング的なつながり作り　、上田映劇は③映画の選定および上映を通じて子どもたちの居場所と機会をつくる、ということでそれぞれ実施することができた。	
D 知見・ノウハウの蓄積 構成団体の知見をノウハウとして蓄積し、チームで活用すること	**評価** ★★☆☆☆
機能したこと・成果が生まれたこと	**難しかったこと・課題が残ったこと**
アイダオがさまざまな場面で事例報告する機会が増えた。また取材等を通じて、取り組む事業の実績や意味を確かめる機会が増えた。	そうした内容のフィードバックや共有をコアチームでする機会がなかなか持てなかったこと。アイダオの中で蓄積された知見を共有する方法としては事例報告時のアンケートの共有などがあったが、それ以外の直接対話の中で生まれた知見やノウハウの共有が難しかった。

E チーム体制の強化 新たな担い手・団体の参加・協力を得て、チーム体制を強化すること	**評価** ☆☆☆☆☆
機能したこと・成果が生まれたこと	**難しかったこと・課題が残ったこと**
コアチームである３団体を中心として活動しながら、「のきした」との**連携ネットワーク**が構築されていったこと。またハローアニマル／長野県子ども若者サポートネット／SSW による**専門支援会議チーム**が、こどもたちの特性をつかみながら、	次々に生まれていく関係性や全体を網羅していくことが難しかった。 こうした取り組みを、全体的に平等に周知していくためには各市町村の**教育行政**との連携が欠かせないが、今後さらなる連携をつくっていきたい。

必要な場合に支援会議を実施していくことができた。 　また、それ以外に特性や必要性が強い**子ども若者を直接つなぐ行政機関**の存在も生まれた。	

2）コーディネート団体としての取り組みと学び

今回のプロジェクの中でアイダオは、教育、支援、文化芸術といった多様なセクターを繋ぐという役割の中での学びが多かった。それぞれの分野にある諸課題を抽出し、それを一般的な言葉（地域社会）に慣らし、それをさらに違う分野で語り直す、という、いわば通訳者としての役割であったと感じている。

アイダオについては、このプロジェクトを通じて新たに社会的な役割が再認識されたところが大きい。いま全国の中間支援組織が市民活動促進のためだったり、ボランティアセンターの委託業務を受けている事例が多い中で、「子ども若者の居場所作り」という点において、コーディネート団体としての存在意義を示すことができたと実感している。

「**このプログラムの最大の特徴っていうのが、中間支援団体であるというところ。映画館が自分達で始めたわけでもないし、学校が言い出して映画館を貸してるだけっていう活動でもない。そこがやっぱり強さだなと思ってるの。だから全国でやったほうがいいんだけど、そこの真ん中のコーディネートをする人が非常に重要だと思うんですよね**」工藤さん/チャイルドフィルム　ヒアリングより

これは言い換えれば、他の課題に対しても応用できることでもあり、多文化共生や地域活性化など異なる社会課題の解決に向けた取り組みの中でもコーディネート団体の存在は最大限に活かされるのだということがわかった。

6-3　支援対象者・参加者の参加促進、関係形成

1）支援対象者・参加者の増加・広がりの実績、成果につながった工夫・協力等

・教育関連ではスクールソーシャルワーカーや支援者のつながりで個々に子どもたちに声かけをしてもらい、少しずつ認知されるようになっていった。
・教職員の方や行政担当者が視察や研修として訪れることで、居場所を必要とする子どもたちに情報が届くようになった。
・大学の研究者や大学生の研究対象としてシネマクラブが扱われる事例が増えてきた。
・ダンスや演劇、美術など、映画だけでなく他ジャンルの芸術文化に関わる方の参加もみられた。
・包括的な居場所づくりを実践している方もみられた。

2）支援対象者・参加者の変化、変化が生まれた要因・工夫

・上映会やコミュニティカフェ、平日の映画館に子どもたちが来るようになって「また次も来たい」「楽しかった」「家の次に安心できる場所だ」と、家に帰って話をする子どもたちの様子を保護者を通じて聞くことができていることがある。
・映画館に来ることで出席扱いになる学校が出てきたこと。（＝第３の居場所、新しい学びの場として認められてきている）▶出席認定をする学校が増えてきた。

・シネマクラブを実際に利用している子どもたちに登壇してもらったことで、率直で説得力のある声を社会に発信することができた。本人たちが抱えている課題や問題意識を壇上で語り、それを参加者から受け取り感想を述べることで、本人たちが抱える「学校に行きづい」という一見ネガティブな経験が彼ら自身の自信にもつながっていった。そして実際にシネマクラブがどんな場所なのかということを伝える大切な機会にもなった。
・「多様なこどもたちの学び／居場所」の必要性を社会に訴えるために、連携団体の方達に登壇してもらった。居場所をもとめている子どもたちやその保護者にとっては周知の大切な機会になり、支援者にとっても「居場所」の理想を考える機会になった。

6-4　課題解決に取り組む協力関係の変化

1）本事業実施前／実施後の変化

本事業実施前の関係	
アイダオ、侍学園、上田映劇の３団体をコアチームとしながら、間に教育関係者、芸術文化の関係者、地域の NPO 等支援関係者などとの関係作りからはじまった。	

事業を通してできた関係	
チームで取り組んだことで、コアチームを核としながらも、青枠で書かれた長野県教育委員会のスクールソーシャルワーカーSSW、ハローアニマル子どもサポート、東信こども・若者サポートネットの支援専門チームとの連携が進んだ。 その次に地域の NPO 等との連携が進みその間に教育関係者、芸術文化関係者などの専門家が存在していくようになった。	

事業を通してできた関係		
チームで取り組んだことで、これまでゆるくつながっていた横の関係がより確かなものになり、かつ役割も確立してきたように思う。シンポジウムへ実際登壇していただいたり、支援会議に参加していただくなど、直接的な連携により、今後の体制作りのための役割がみえてきた。 また、連携してできたことで引きこもりや不登校児童の特性などから、それぞれの事業ごとにステップを踏んで紹介しあえることがわかった。	コアチーム	アイダオ／侍学園上田映劇
	のきした／コア連携ネットワーク	犀の角 NPO 場作りネット NPO リベルテ
	専門家支援会議チーム	ハローアニマル／長野県子ども若者サポートネット／SSW
	教育行政	長野県教育委員会 東信教育事務所、上田市教育委員会、東御市教育委員会、小諸市教育委員会、佐久市教育委員会、軽井沢町教育委員会、御代田町教育委員会、長門町教育委員会、千曲市教育委員会
	子ども若者を直接つなぐ行政機関	上田市教育相談所、上田市の中間教室（４箇所）、東御市教育支援センター、小諸市教育支援センター、佐久市教育相談室、軽井沢教育支援センター上田市福祉課、上田市子育て子育ち課、地域若者サポートステーション・しなの／生活就労支援センターまいさぽ
	専門家チーム	信州アーツカウンシル、長野大学、（一社）こども映画教室®

２）協力関係を構築する上での工夫

直接、担当者やその団体の人たちと対話を重ねることを大切にした。一番は、目標の共有と現状の共有で、こどもたちがどういう状況に置かれているのかということについて「学校に行けない」「学校に行くのをやめた」「学校に馴染めない」等々、微妙に異なる子どもたちと学校の関係性について触れながら、どの程度の関係性がその子にとって必要かを、共に考えながら協力体制を組むことに努めていった。

7．結論、今後の展望、教訓

7-1　結論：中長期アウトカムに対する本事業の妥当性

1、コミュニティシネマを活用した包括的支援体制により、家にこもりがちな子どもたちやその家族が社会とつながり、孤立しない環境を整えられている 2、コミュニティシネマをはじめとする地域にある様々なセクターの存在が寄り添い方支援につながり、生きづらさを解消するセーフティネットとして機能している 3、孤独を生み出さないための居場所が地域社会に継続的に増えていること。そうした支援モデルが、他地域にも波及している 。			
事業実施プロセス	★★★★★	事業成果の達成度	★★★★★

★★★★★　想定した水準以上にある　　★★★★　想定した水準にある　★★★　想定した水準にあるが、一部改善点が必要
★★　想定した水準に達するのに改善が必要　　★多くの改善の余地がある

●上記のように結論を出した理由（結論の根拠を書くこと）

事業実施のプロセスについては、地域資源の把握からはじまり、課題の整理、関連団体への事前ヒアリングや訪問などを行いながら、協力者を巻き込み、直接対象者へアプローチをしていったという点で、新規事業を始めるプロセスとしてはとても評価できたと言える。
また事業成果については、直接対話の中から抽出したリアクションや、アンケートから読み取れる利用者の反応を参考にしながら、直接対象者や間接対象者がシネマクラブを介してさまざまな機会や場につながっていった成果を残すことができた。また事業終了時に、この場を必要とする声がたくさん寄せられたことからも、シネマクラブの成果が伺える。

7-2　今後の取り組み

1）新しい居場所と学びの場

映画館を活用した取り組みだけでなく、他の地域資源を活用するということにも視野を広げながら、「学校と家庭以外の居場所」と、「学校以外の学びの場」を開いていくべきだという地域社会の意識を高めていく。2 回のシンポジウムを通じて、普段埋もれがちな子どもたちの生の声を社会に届けることができ、そうした場が今後も継続して必要だと感じている。教育面、芸術文化面、支援の側面から多分野の専門家による議論の場を継続することで新しい居場所と学びの場の必要性と在り方を議論して行きたい。

2）アートを活用した新しいネットワーク（こどもアート会議 仮称）

協議体についてはがっちりとした組織のような形でなくても、ゆるやかなネットワークを形成していくことを意識しながら団体とつながり続けていく。映画館だけでなく、小劇場での取り組み（文化系地域型部活動のうえだイロイロ倶楽部）との連携を視野に入れながら、「こども」「アート」「学び」「居場所」といった切り口でネットワークを組んでいく予定。

3）こどもの権利と教育機会確保について

政策提言については、主に不登校児童への対応というところで、第三の居場所と学校との連携の部分で様々なセクターの方たちとともに行政へのアプローチを継続して行う。長野県教育委員会が作成している「はばたき～不登校児童生徒の学びのサポートガイド」にも事例として掲載してもらっており、そうしたことも後押しとなり、各市町村での具体的な対応につながっている側面もある。次年度の上田市の

民間の学びの場の受け入れについてのガイドラインも制定されるということで、教育委員や関係する方達にも実情を訴えていきたい。

7-3　事業から得た知見、類似する課題に取り組む団体等に役立つ教訓

「映画館だから来ることができた」というその一言が、多くのことを表している。つまりそれは、いわゆる支援機関ではなかったから実現したことで、先日、可児市文化創造センターala で行われた「世界劇場会議」の場で、イギリスのリバプールの公共オーケストラの社会的処方の取り組み事例の発表の中で「アートはケアが必要の人たちの“健康な部分”にアプローチすることができる」という趣旨の発言があり、とても説得力があった。今回コミュニティシネマ＝映画館を、家にこもりがちなこどもや家族の居場所として機能させる三年間の取り組みであったが、彼らの多くははっきりと「行きたい場所には行く」という意思が存在していた。「観たい映画を選ぶ」ということにも共通しているが、その場が楽しそう、面白そうということであれば、不登校の子どもたちは自らの意思でその場に何度も足を運ぶのである。そうした子どもたちの意思を大切にしていくという基本姿勢が大事であると、そのことをまず強調したい。
つまり、彼らが抱えているようにみえる「課題」の多くは、社会が抱えている「課題」であって、“不登校の子どもたちの課題“を捉える際に、彼らの健康な部分というのは見過ごしてしまいがちである。個性までつぶしてしまうのである。本来ならば、彼らの中に眠っている力を最大限に引き出し、学びへの意欲や自らの将来につながるような体験を積み重ねる場が「学校」であるはずであるが、悲しいことに現状ではそうはなっていない。彼らの健康な部分も損いかねないくらい、学校という場の何かが過剰に重圧的であったり、規律的であったりして、ただ彼らはそこに合わせることができないのである。自らの足で電車やバスに乗って子どもたちが映画館に来れる、という状態はもうすでに大丈夫なのである。映画館や劇場、アートの持つ最大の役割は、彼らの本来もっている健康的な部分は大切に守りながら育み、本当に困っている個人的な課題を見つけ出し、そこを必要な支援者とつなぐことである。

「ここに来て、家と学校が全てではないということを何回も感じています。家と学校にいると場所が少なくて、家にいると話すのは家族とか親しかいなくて、学校に行っても同級生とか先生とかしかいないんですよね。ここにいるといろんな年代の方が来てくださるので、そういう方と話すのは勉強にもなるし、楽しいし、っていう感じなんです。」という発言の通り、多様な年代や職業や性別の方達との出会いが、彼らの生きづらさの解消のためにいかに作用しているかということが伺える。この三年間で関わった団体や個人のつながりが、彼らが「来たい」と思わせる魅力のひとつであったことは間違い無く、そういうしたセーフティネットが地域の中に育まれていった土壌を引き続き耕していきたいと感じている。多様な人たちとの出会いは、彼らの進路の選択肢の幅を広げ、価値観をも多様に、自由にさせてくれる。

　また地域にどんな団体や人がいるか、という把握から始めることも重要である。それをさまざまなメンバーで取り組みことにより、自分が把握またはつながる団体以外の場や機会を把握することにつながる。プロジェクトに関わるメンバーでこの地域にはどんな潜在的な資源があるのか？を出し合い、それが最終的にどんな関係性に変化していくのか、ということをまとめていくことが地域をより豊かにすることにつながっていく。

うえだ子どもシネマクラブ_アンケートオンライン
2022.2.13 sat @上田映劇

■本日のシンポジウムで印象に残った話や場面があれば教えてください。
・世界とつながる映画館
・最後のお話の中で今の時代の中で「子どもたちに社会を近づけていく」という取り組みの一つだ、ということが心に残りました。社会と少しづつ繋がって、自分と他者への信頼をまたつないでいくきっかけのひとつになればいいと思いながらお聞きしました。
・けいじ君が最後にコメントする場面が印象的でした。恵さんとの日々のやり取りや関係性、けいじ君が感じている安心感が伝わって、うえだ子どもシネマクラブの居心地のよさが垣間見えた気がします。
・三島有紀子さんのお話と早坂淳さんのドイツのお話。
・子ども達の生の声が印象に残りました。映画に支えられて生きてきた１人としては、映画館が居場所になっているというところに大変共感し、とても嬉しくも思いました。
・「家と学校が全て」という子どもたちが、映画館で「今、ここ」から抜け出して世界と仲間とつながりながら、自分のものさしを持って幸せに生きていける、そんなすてきな未来が見えた気がしました。

・たくさん響いた言葉がありました。すいませんズラズラとメモ残します。

ー映画館は映画館だけにあらず、未来を作っていく子どもたちの教室にしよう
ー学校に行きづらい子どもたちに　映画館においでよ
ー交換日記　つぶやきノート　イラストとか
　コミュニケーションの手がかりに。
ーいろんな人と話せるし、安心するし、感謝してもしきれない
ー引きこもっちゃうよりもここにきた方がいい
ーいろんな物語と接することで、その子の人生が広がっていく
ー小さい頃は家と学校が全てだと思ってる
ー映画の中で世界は広いんだなと知れる
ー笑ったり、泣いたり、悲しんだり、生きている価値を感じる
ー選択肢の１つとして映画館
ー創造的で深い学び
ー文化芸術は　人間の持っている力を外に出していく場
　学校に合わせた形ではなく　学校　の隣に文化芸術があるような立ち位置

　どうやってやるか　問い
ー多様性　学校現場にも言われてきている　文化芸術はそもそも多様性
ー受け止めてくれる人と出会う　その人との間に何があるか＝映画、運営の作業
ー自分と社会をつなぐ何か　が見つかることが大事
ー歩入り口が見つかれば、どんどん入っていける。トライできる状況であれば。
ー大人の賛同も必要
ー今じゃない、ここじゃないところに抜け出す、世界につなげられる映画館
ーさぁここからどうする？今とここに戻った後にどうするか。
ー同じ映画を共に観ている人とコミュニケーション取れたらいいね。
ー子どもたちをいかに社会に近づけていくか　その仕組みづくり
ー早く自律しなさいじゃなくて

・学校が行きづらい子どもたちが、立派に登壇していることが、まず素晴らしいですね。あとは、学びの多様化についてですね。学びには、いろんな形があっていいと思います。
・学校に行けていないけれど、シネマクラブに来ている子どもたちが、人前で自分の思いを話していてそれだけで素晴らしいと思った。それに加えて、この子たちが、シネマクラブを居心地がいいと思えていることが、活動の糧になっているんだろうなと思いました。
・映画館に通うことで学校の出席になっている学生さんがいるということを知れて映画館が家と学校以外の場所とし
て大切な存在になっていることを実感しました。
・第 1 部の観ることができましたが、ここだけで十分にこの project の持つ価値が伝わってきました。今日最も印象に残った言葉は、アオバちゃんの発した「目標とやりたいこととは違う」という言葉でした。小さく、物静かなアオバちゃんから、自分が達成すべきと思う等身大の目標となりたい自分との間にしっかりとした「ものさし」があることを感じました。学校がテストや偏差値そしてそれ以外のあらゆる設定された評価基準とは違う、自作の「ものさし」を持つこと。逆説的ですが、それが非認知能力と言われるものじゃないかって、私が住む町の外国籍の幼稚園児たちとの就学前のワークショップを実践しながら、最近ふと思うことです。我慢強く、粘り強く、想像力たくましくなればいいってことじゃない。母親のお腹から旅立って法律上 18 歳で成人する（でも実際にはそれより早くても遅くてもそれはどちらでもよい）までの間に、「ものさし」とは自分で作るものであることを学べるのなら、それはドキュメンタリー映画を通して多様な生きざまに出会うことでも、演劇で発せられた言葉が現実とは異なるもう一つのリアルな世界をそこに現出させる軌跡を見ることでも、「学びの場」として機能していると思うしそこで見つけた自分なりのリアルを誰かに伝え、承認されるプロセスにこそ「学び」の本質があるのではないか、いつしか経済的な生と社会的な生と芸術的な生を区別して規程してきた制度の意味について、わたしたちはもっともっと

語り合わなければならないんだと、今日のアオバちゃんに教えられました。ありがとうアオバちゃん。素晴らしかった！
・学校以外の学びの場。とても大切だと思います。その子にあった地域の中の学びの場、そこに寄り添って受け止めたくれる人がいる増やしていきたいと思いました。
息子にとって図書館だなと思い時間があれば、図書館は行ってましたが、映画を通して共感したり、世界につながれる場として映画館も利用したいなと感じました。
・映画館で映画を見ていると、自分一人の世界なのに、まわりにはちゃんと人が関わっていること。見た後で、役に入り込んでしまうこと。これは、自宅で映画を見ているのとは確かに違うなと、改めて気づき、胸に落ちました。
・早坂教授のおっしゃっていた「居場所が文化芸術の場であることが大事なんだとわかった」というお話に、なるほどと思いました。
・家と学校以外の場所の重要さを思いました。子どものころから、そうした場所があってそこにいていいのだという環境がわかることはすばらしいと思います。
・子どもシネマクラブに来ている子供たちの話が聞けたのがよかった。

・第一部の子どもたちの話は、それぞれが自分の言葉で話していて、どんな思いでシネマクラブの活動に参加しているのかが伝わってきました。安心できる場を作っていただいていて、本当にありがたいことだなと思いました。第三部も今後の仕事をする上で、考えなければならないテーマで、とても参考になりました。
・第１部の子どもたちの話、三島有紀子さんの話、早坂淳さんの気づきのこと。
子どもシネマクラブの皆さん皆さんの前でお話するの緊張されたと思いますがご自身の言葉できちんと応えていただきありがとうございました。諏訪監督のお話まさに『ニューシネマパラダイス』でゾクゾクしました。3 部目お三方のお話興味深く共感することばかりでした。
・新しい学びの場としての映画館の可能性(第二部？)での、野村さんと早坂さんのお話、もっともっと聴きたかったです！途中で途切れてしまってちゃんときけなかったので、アーカイブとかあれば、ぜひ聴きたいです。でも、途切れ途切れでも面白さが伝わってきました。

・昨日はありがとうございました。子どもたちの話の中で「学校より居心地がいい」「作業に集中できる」「話す人がいる」「ここでは何かを言ってもそれ以上その先に広がることなく、ほどよい距離感がいい」‥子どもたちが壇上で、一生懸命自分の言葉でメッセージを伝えてくれる姿が印象的でした。
子どもたちのメッセージが、監督さんたちからのメッセージとも結びつきました。

・シンジさんの映画館に来る日が、登校日数としてカウントされるというお話が、シネマクラブさんの活動が地域に根差しているのが見える気がして、とてもうれしくなりました。
あと、既存の学校システムには文句ない、しかしそうでないひとのために違う道も用意してあげたい、いうお話が印象的でした。全てを変えるのには時間もエネルギーもかかってしまうけど、一部改正なら今すぐできる！そんな希望を持ちました。
三島監督の、“生きている“を選んでいる、のお話も心に残りました。監督と子どもたちのやりとりを聞いてみたかったです。

■その他ご感想、ご意見等
・本業の傍ら、今春から博士後期課程に在学し、映画と教育について研究を継続しますので、いつか自分の研究が皆様のお役に立てることがあると良いなと思います。今後の活動も影ながら応援しております。

・音声や映像の不調が残念でしたが、対応してくださり、ありがとうございました。部分的にしか聞こえなかったですが、それでも子どもの居場所や学びの場としての映画館、文化芸術の持つ役割、教育のこと、いろいろ考えさせられました。こういう取り組みは上田からどんどん広がっていってほしいですね。

・今回、子どもの居場所と映画という画期的な取り組みについて、大変興味深く、シンポジウムに参加しました。 上記にもありましたが、多様化した社会に対して、多様化した学びがあっていいじゃんと率直に思いました。また、映画館を通してのコミュニティが生まれるわけで、そこから学ぶことがたくさんあると思います。 この取り組みが、今後も社会全体に広がることを期待しています。

・居場所が映画館であることの重要性が再確認できました。他者や社会に縛られていて窮屈なあの感情から抜け出せる場所が映画館であり、それをみんなと共有できるのも魅力の一つであると思います。 ふらっと立ち寄ってみたいです！ 本日はありがとうございました。

・オンライン配信では途切れたりと大変だったと思いますがその都度対応ありがとうございました。 私は中学時代不登校で学校に行けず、大学時代に映画館が素晴らしい所だと気付いた者です。そのため皆様のこの取り組みに感動しております。 ぜひ皆様のこの取り組みの何かお手伝いができたらと思いました。

・ありがとうございました。映画の向こう側にいる、映画監督などのお話も聞けて、貴重な機会でした。 途中、画像や音声が乱れてしまい、少し残念でした。もし記録用の動画などがあれば、アーカイブ的に配信していただけるとありがたいです。そして、プログラムすべてとはいかなくても、広く公開していただいて、こういうシンポジウムがあったことを多くの方に知っていただけたらいいなあと個人的に思いました。 そして、この取り組みが全国に広がるといいなあと。 運営の皆さま本日はおつかれさまでした。

・文化や芸術は、すべての子どもにとって必要な感性をもたらしてくれるのではないかと思ったところです。自分の感じ方に自信をもったり、多様性を感じたり。 教科にも音楽や美術があり、観劇等の行事もありますが、学校の仕組みの中に位置づけられると、とたん不自由な印象になりますね。やはり他者からの評価のせいでしょうか。 またあれこれ思索したいと思います。

・我が家の通信状態かもしれませんが、途切れ途切れですべてを聞けたわけではないのですが、取り組みも今回のイベントもすばらしいなと思いました。 さまざまな理由で登校できないしていない子が近い周囲にも何人もいます。居場所の選択肢が少ないのはその子と親のせいではまったくないのに、みんな多かれ少なかれ自分を責めているように見えます。学校なんか行かなくてもいいんだよと言うだけでは解決しなくて、具体的な学びの場としてこのような取り組みがあちこちであって認知されることが必要だと感じました。ありがとうございました。

・たまたま昨夜ネットを拝見していましたら、今日のシンポジウムを知り、子供と一緒にオンライン配信視聴させて頂きました。ありがとうございました。 いつも長野の映画館に子供と一緒に行く事が多いのですが…上田映劇さんで、以前子供とサマーウォーズを観に行ったことを思い出しました。素敵な映画館でした… 現在、そのような取り組みをされている事は知りませんでした。とても良い取り組みですね…子供と一緒に応援しております。 映画監督の方々の貴重なお話も聞く事ができて、参加して良かったと思いました。

・子どもたちの居場所づくりに映画館が関わっていて、すばらしい取り組みだと思いました。こんなことができるんだ、と驚きました。そのためには地域や教育機関との連携が不可欠だし、映画作品のチョイスも大事だし、積極的に場所づくりをしないとできないことだと、改めて考えさせられました。

・配信ありがとうございました。お疲れさまでした。第 3 部、大変興味深いお話でしたが、途中音声が聴きにくい場面があったので文字などで読むことができたら嬉しいです。

・それぞれの生の声を聞くことができ、とても充実した時間でした。教育現場は今後どうしていけばいいのか、理想と現実の中で、どんなことができるのか、色々と考えたいと思いました。なかなか思うようにいかないこともありますが、それぞれが安心して生活できる場になるように協力できればと思いました。今日は貴重な機会をいただき、ありがとうございました。

・オンラインで視聴させていただきました。ネットのトラブルはよくあることなのであまり気にしていません。全体を通しての感想ですが「映画館を必要としているひとはいるんだなぁ」。私ももう 30 年も前のことですが、東京で一人暮らししている時に映画ばかり見ている時がありました。3000 本くらいは見たと思います。居場所ということでいえば、映画はひとりで見るのに誰かと共有しているという微妙な距離感がありますね。でもこういう経験はマイナーなんでしょうね。前から思っているのは、自治体は公共施設として多目的ホールでじゃなく映画館をひとつ持てばいいのにと。そう考える地方自治体が一つくらいあってもいいんじゃないかな。岩波ホール閉館のニュースを聞いてあらためて思いました。

・中学生の娘、小学生の息子が不登校です。学校が居場所でないことはわかっているもののではどうすればいいのか？を模索中です。二人とも映画は好きで気に入ると何度も観ています。私も映画、映画館が好きです。映画館がこどもたちが集まれる場所本当に素敵だと思います。今日もシネマクラブの皆様のお話一緒に拝聴しました。今年できたら子供たちと遊びに行きたいです。 ありがとうございました。

・10 年前、学校に行かなくなった息子のことを思い出しながら参加していました。 どこでもいいから、息子と私を肯定してくれる場所が、必要でした。 病院に行けば、お母さんがんばりましょうと言われ、学校では学校に行かれない理由を聞かれ、もうがんばれない。誰にも会いたくない。ただただ、この子を受け入れてくれる人に会いたいと思っていたあの頃。本当に辛かったあの日々に、こんな映画館があったら、こんな場所があったら、こんな風に考えてくれる人たちがこんなそばにいることを知ることができたら、どんなにか救われていたかと思います。 映画館は、ちょっと暗い中で、誰と話す必要もないけど、でも、知らないだれかと同じ映画を観ることで、同じ空間を共有している、それだけで十分で、それが全てだ、と、(同じようなことをどなたかも今日おっしゃっていましたが、)私は強くそう思っています。 子どもシネマクラブの魅力は、目的も何も無く、なにもしなくていい場所である、ことにあると思います。 未来の目的や夢は、きっと、今、幸せにこの瞬間を生きることを丁寧に積み重ねた先にあるものなんだと改めて思いました。就学就労など、少し先のことを心配するよりも、今の自分の感覚と気持ちに素直になって、自分自身に、たっぷりと心の栄養を与えてあげることが大切なのではないのかな、とも思います。そして、周りの人間は、それでいいんだよ、とただ認めるだけでいいのだなということも、思います。 誰だっ

て、今のままでいいと認められたら、きっと自信をもって更に少し先の楽しんで生きている自分の姿をイメージできるようになるのかな、とか、そんなことをいろいろと考えていました。 今日集まっていたみなさんが、なんだかとても温かくて、優しくて、参加していてとても幸せな気持ちになりました。 ありがとうございました。

・昨日は素敵なシンポジウムをありがとうございました。 今回はオンラインで参加させていただきました。途中、ちょっと途切れてしまい、完全にお話を理解することができなかったのが、少々残念でした。 一部はわからないですが、二部、三部と可能であればもう一度何らかの形で拝見できると嬉しいなと思いました。 みなさんのお話を聴いて、安心して過ごせる居場所、１人でいられる空間だけど孤独ではない居場所、学校とは違う学びの場、ひとつの教育の場‥本当にたくさんの可能性を持った映画館での取り組み、素晴らしいなと改めて感じました。 “居心地がいい”って子どもたちだけでなく、大人にとっても大事だなと感じています。 家庭であっても、学校でも、職場でも、その他さまざまな場所でも‥ひとりひとりが、居心地良く安心して過ごせる場所があって、その上にそれぞれやりたいことや、学びなどが乗っかってくるんだろうなぁと思いました。 少しずつ少しずつ理解は広まっているように感じますが、子どもたちが、堂々と“今は、私はこの場所に行っています！今は、この場所で学んでいます！”と言える日が来てほしいなと願います。 いつもハローアニマルからも子どもたちが何人もシネマクラブを利用させていただいています。子どもたちがハローアニマルに来た時にシネマクラブの話、映画の話をしてくれ、一緒に映画の話で盛り上がることもあります。子どもたちの生の声をまたそちらにお返ししていきたいと思います。 子どもたちを真ん中に置きながら、引き続き、繋がっていただけたら幸いです。 子どもにとっても、大人にとっても、“ひとりでいられる空間だけど、孤独じゃない”大事な居場所をつくってくださり、本当にありがとうございます。 今後とも、どうぞよろしくお願いいたします。

・とても素晴らしい取り組みで、松本に行ってみたくなりました。 一部のほんわかした時間で、いつもの皆さんの雰囲気、感じられましたよ〜！ 人とひととが自然に寄り合える場所っていいですね！ 住んでる場所とか生まれた順番とか関係なしに、ひとが集って感じあえる、 昨日のオンラインの場所も、まさしくそうでした。 インターネットの恩恵にも感謝です。 公開シンポジウムにしてくださいましたこと、たくさんの気付きとあたたかい気持ちのシェアをしてくださいましたことに、心より感謝いたします。 私もこの気づきを行動に移して行こうと思います。 ありがとうございます！

●「映画館」と「学びの場」について、理解が深まりましたか？

・よく理解できた　11

・(理解というより共感できた！という感じです。

・私が理解しているより、はるかに可能性がひろがっていくのだろうと思います)

・まあまあ理解できた　8

・あまりわからなかった　0

・よくわからなかった　0

・無回答　1

●本日のシンポジウムで印象に残った話や場面があれば教えてください。

・「となり町戦争」は、僕も観たので、嬉しかった。あと、けいじ君がイタリア語。
あと「香川１区」も。あと、第３部よかったです。

・登壇者の皆さんのお話から映画館の可能性を感じました。ありごとうございました。

・第三部で早坂氏が言っていたように、学校に子どもがいる時間が長いと思います。
また、野村氏が言うように文化、芸術の場が学校に合わせていくのではなく
学校の形にあるという社会になるといいと思います。それが、文化、芸術に限らず、
スポーツであったり、図書館であったり、あるいは学習であったりと、
本人の好きなものをやる場がどの子にとってもいろいろある。
そうすれば、自分なりの居場所と思う場ができると思います。

・監督の話を聞いて意外と身近な存在なんだなあと思って、ちょっと親近感が湧きました。色んな人の考えを聞ける事が出来て理解が進んで良かったと思います。
こうゆう普段雑談とかでは話さない事を話したり聞いたり出来る機会があるのは、いいなと思いました。

・第１部に３人の子ども・若者が登壇したこと、上田映劇が居心地がいい場所になっていること
第３部　野村さんの話の中にでてきた「受け止めてくれる人と出会うことが大事」
→うえだ子どもシネマクラブがそうなっていること

・「映画館は教育になり得る」「文化芸術だからできることがある」という言葉を聞き、
実際に利用する子どもたちの話を聞き、上田映劇が一つの居場所として
成立していることがすごくよく伝わってきました。私ももっと早く、映画館から
色んなことを学びたかったので、ここを居場所にできている子どもたちはすごくいいなあとうらやましくも思いました。

・映画館に通って来ている３人の発言が素晴らしかったです。
けいじさん　是非イタリア語でレシピを解読し、イタリア料理をつくってください！
そしてイタリアへ行きましょう。

あおばさん　きれいにスタンプのおされたパンフレット、映劇の顔ですネ
みおさん　あたたかい存在感のある素敵な大人へと階段を登っていることが伝わりました。
何のために学ぶのか？自由を得るため…一生を通して獲得していく大きなテーマと思いました

・映画館がいごこちよい場所という言葉が中学生から聞けたこと感動的でした
・第１部で登壇した３人の居場所となっているだけでなく、それを受け入れる大人の存在、３人に役割があること、やりたい事が見えてきているという希望など、
第１部が成立しているということがすごいです。子どもシネマクラブの成果だと思います。
・一番はじめの子供たちの言葉を聞く事ができたこと。ステージに立つ勇気は並大抵ではないと思います。居心地がよいとか、引きこもるならこういう所に来た方がよいって言われるシネマクラブがすてきです。
・「何のために学ぶのか？それは自由になるため」場と時間を越えるための手段として
映画は最高のツールである。
長岡さんの「コロナで全員不登校」は、はっとした、まさに！！
・学校以外の社会の入り口　私自身、小・中・高と通うものだと思ってきたので印象に残りました。映画から学ぶという視点を持って(私は映画をあまり観ないので)改めて映画を観たいと思いました。
・時間とここを抜け出す良い場所だというのは共感出来る
・どの話も大変おもしろかったですが、特に印象に残っているのは、第３部の芸術と人間形成の話です。学校教育、というか日本が芸術を重要視する文化がないので、それが残念だなと思いました。
・うえだ子どもシネマクラブに関わっている方々のお話を聞き、こんなふうに子どもたち　のために何かをしようとする大人がたくさんいて、正直驚いてしまいました。
これから社会に出る立場として、そんな方々から色んな話を聞きたいと思いました。
・第１部　皆さん活き活きとしていてとてもすばらしかったです。
皆さん、各人の意見も立派で良かったです。
・音声が聞きとりにくい場面が多く、その点がとても残念だった、(それもあってか)
第３部は印象的だった。中でも日本が(世界では)特別だということ。
映画館が学びの場となるということ…。(今日、お話を伺うまではほとんど理解できてませんでした)
・3人の若者たちが、主の声を届けてくれたことをうれしく思います。
利用する側と提供する側の声が聞けて良かったです。
・学びの場が学校以外にあっても良いのではないかと思いました。
・日本の学校は刑務所と一緒(システムとして)って本当ですね。

うえだ子どもシネマクラブ_アンケート会場
2022.2.13 sat @上田映劇

●所属について
・教育関係　5
・映画・文化芸術関係　1
・福祉・支援関係学生　0
・学生　1
・保護者　2
・その他　10
(佐久市議会議員・侍学園体験生・報道関係・公務・会社員・主婦・自営業・
今はその他 4 月からはきっと教育関係)

●その他、なんでも　(ご感想、ご意見等)
・そうして僕は佐久でどうやっていこうか？ということを考えさせられました。
ありがとうございました。またお話し、聞かせてください。
・地元の姫路とかではこうゆう取り組みとか空気感とかあまり感じた事がなかったので
すごいなと思いました。
・うえだ子どもシネマクラブの「今」を広く報告していただけたこと、
この企画もとてもすてきでした。ありがとうございました。
・子どもさんだけでなく、20 代、30 代、40 代の若者にも門戸か広がることを期待しています。
大人の居場所作りも大きな課題と思います。映画館だけでなくお茶飲み会ができて、ちょっと話ができる環境があれば良いと思います。映画館に行くことが学校に行くことに認定されるのは素晴らしいことです。
・長岡先生が言っていた社会が子ども達に合わせていくこと、とても大切だと感じでいます。私もがんばります！
・映画は心の世界を広げると思います。
・ゲストトークすごくよかったです！！よい問いをたくさんいただけました！
「場」を持つ意味について改めて考えました、日本の教育のあり方、学びに対してこういった取り組みを通して、多くの方と一緒に考えて作っていけるといいですね！おつかれさまでした〜〜
・映画、映画館だからこその学びがあるのだなと思いました。今とここからの離脱、そしてまた今とここを生きるということを感じ、考えさせられました。

参加できてよかったです。これからもがんばって下さい。

・自分自身が小・中学校にほとんど学校に登校しておらず、かつ今は中学校の教員をしています。いろいろな意味で当事者だったので、いろいろ考えさせられました。ありがとうございました。

・学校がすべてじゃないと、改めて実感しました。今回のシンポジウムに参加したこと自体、私にとっては大きな学びでした。本当にありがとうございました。

・私としても勉強になりました。何かお手伝い出来たらいいなと思います。何でも言ってもらいたいと思います。応援します。

・このシンポジウム、定期的に取り組まれているものだろうと思ってましたが、初めてだったのでしょうか？今後にもつながっていくといいですね。それから、上田だけでなく、全県、全国に広がってゆくといいですね！

・映劇もこの取り組みも長く続くことを願っています。応援しています。

・貴重なイベント開いていただきありがとうございました。

本日のシンポジウムで印象に残った話や場面があれば教えてください。

- こどもたちの居場所について。当人たちの話は一番、素直で率直な意見だと思いました。
- 土肥さんのお話__ブラジルの企業の税金？の一部は文化サポートに充てられるということ。でも日本企業は賛同しないということ。心を豊かにすることに重きをおいてないなと感じます。
- 第 3 部での土肥さんのご発言で、社会的格差が激しい国では、格差を埋めるための一つに芸術が必要と考えていて、行政企業が活動支援を行っている、とのご発言がありました。私は児童館、学童保育、を運営している NPO の者で、運営者の観点から常々なぜ職員(常勤、非常勤)に女性が多い(賃金体系からそうなってしまう。)のだろう？、なぜ子ども達の事をこんなにも考えている職員達がまだまだ低い雇用条件に置かれなくてはいけないのかな、等々ギャップについて考えざるを得ない状況にいます。そっくりそのままとは言えませんが、こうした雇用環境はイコール日本または上田市のジェンダーギャップそのものではないかと感じています。経済的格差やジェンダーギャップを埋めるために文芸が持つ力を信じたいし、本日ご登壇された皆さんのご発言からもやはりそうなんだと確信しました。居場所づくりの観点からは離れた言葉かもしれませんが、差が少しでも埋まりもっとゆったりとした環境が整い文芸に親しむことができればと思います。
- ハローアニマルの子どもサポートは初めて知りましたが、行政が行っている、動物との触れ合い、パーソナルなケアという点が、とても良いと思いました。（こどもシネマクラブもっと充実して欲しいと思いました）
- 一部の子どもたちの姿__自分のことばで人に語れるチカラ※（おそらく）取り戻した or 育まれたのだとおもう・・・自分がここにいていいと思える場を持つことの大切さ
- シネマクラブ利用者の子どもたちの声が印象的でした。シネマクラブでは上映やカフェなど様々な取り組みをされていますが、それは一方的ではなく、子どもたちに伝わっており気軽な“居場所”になっていることが分かり、感銘を受けました。

- 子どもさんが、どう感じてシネマクラブの活動に参加しているのか実際に聞くことができて良かったです。第３部もとても勉強になりました。
- 学校として、どんなことができるのか、家庭や本人とのつながりをどう考えればいいのか、いろいろ悩むこともありますが、いつもその子が「楽しい」「やりたい」と感じることができる場が一つでも多くあることがベストだと思うので、シネマクラブさんの活動がその子にとって居心地の良い場になっていることは本当に良かったと思いました。
- 「みんな何かしなくてもいい、気配は感じてるけど」「町全体が子どもたちの居場所になるにはどうする？」「困ったそこだけつつくのではなく、いろんなところから支える」「一緒に物をつくるところに達するまで大人はがまん」・・・など学校もやらせるだけでなく、子どもの「やるき」「やりたいこと」や安心できることは何かも考えていきたいと思いました。
- いろいろクラブの活動がとても興味深かったです。これが、本来の学びのあるべき姿なのかなと思いました。
- 芸術の時間は全員を芸術家にするためにあるんじゃない
- 子どもにはいやしが必要。映画だけでなく、芝居、歌等、幅広く教育に取り入れられると思いました。まずは教員が文化活動しなければ、アンテナを出すことはできないと思いました。
- 子どもたちの選択肢が増えていく、地域の中に行き先がある（茶色さん）シェルターとしての機能が大事（諏訪さん）地域の中に誰が含まれているのか（直井さん）が印象に残りました。
- 皆さんが、子供たちの幸せの為に知恵を出し合って、実際に行動していることに感銘を受けました。
- 実際に参加している子供たちの話が印象に残りました。
- 1 部で子どもたちが話していることがとても印象に残っています。実際にこの子どもシネマクラブがどういう場所だったのか？そして、どのような助けになったのか？など非常に分かりやすく、また彼らが舞台上に出た行動や、その発言によって、シネマクラブの存在意義を証明しているな。。とも感じました。そして、更にこの場所の意義をきちんと広げていく強い意志も感じられ、本来の元々子どもたちが持っている潜在的な力を発揮していて、それが出来ていく場所なんだな。。と感じることができました。素晴らしい時間でした。
- 我が子がイロイロ倶楽部でお世話になっていますが、茶色さんのお話の中で、地域文化倶楽部創設支援事業の存在を知りました。文化庁を始めとして、クラブや部活動を地域に移していこうという流れがある中で、教育らしいことが一番できているのが部活動なのに、という現場の先生の声があったのも印象的でした。
- 子供達の話が参考になりました。
- 「時間など、しばり無く参加できること」という話が印象に残りました。私個人は学校で生活リズムを保っていたので時間を「障壁」に感じる人もいるということがひとつ大きな気づきになりました。
- 第一部で「家の次に安心できる場所」といっていて、こんな場所が私の地元にあったらなと感じました。

- 第１部。子どもたちにとって上田映劇が居場所になっているのがわかった。同世代の人だけでなく、他の世代の人とも交流できることで、世界が広がると思った。"
- 上田子どもシネマクラブに通っている子どもの話の中で、「決められた時間に来なくていい」というのが印象に残った。決められていない自由さがえいがかんをこどもの居場所にしているんだと感じた。
- 1 部では自分の思いを頑張って話してくれた生徒さんたちの姿に感動。2 部ではハローアニマル以外の 2 つの発表は私にとっては初でした。3 部では子ども・文化芸術・学び・居場所の観点で新しいご意見がきかれた。
- クラブに通っている子どもたちの、うそのない生の言葉が印象的でした。家と学校以外の居場所があることが子どもにとっての安心につながり、成長の機会になるという一連の流れを、これからも影ながら応援したいと思いました。
- 第１部、4 人の子ども若者たちにとって安心できる居場所になっていることがとても伝わってきた。
- イロイロ倶楽部が子どもたちにとってどんな時間になっているかが知れてよかったです。子どもたちのインスタ、チェックしたいです。ハローアニマルも人づてには聞いていたのですが、県の健康福祉部でのとりくみだということや子どもサポートの情報も知れてよかったです。動物も映画も、その世界に触れたときに感じることがどこまでも自由だからいいのでしょうね。
- 映画館　シェルター　余白　子どものチカラ
- 壇上に上がって子どもたちが自分の思いを話せる姿が堂々としていて素敵です。「家と学校しか行けない。考えることが固定されていた。家と学校でがすべてではない」と言っていたことが印象に残っています。色々な人と話せることが安心につながっていると話してもいました。学校にも地域の方が入って地域と学校の協働活動が増えているのは、多様性を広げることにつながっていると思いつつ、学校はどうしても限られた人（先生と子ども）での生活となってしまいます。学校だけで子どものことのすべてを責任をもとうとするのではなく、いろいろな人、団体が連携することが、より求められていると感じます。

子どもたちの学びの場として映画館の活用の他に、子どもたちの学びの場になっている、またなりうる地域資源がありましたら教えてください。

- 空き家バンクを利用して、空き家などくつろげる場所
- お決まりの答えになりますが、居住地が里山環境なのでそこに住む生業を持つ人々と自然でしょうか。
- 図書館
- 一匹でも犬猫を救う会のシェルター
- やまぼうし自然学校
- 高齢者福祉施設

- 子どもの居場所づくりに前向きまたは理解を示してくれる企業（の発掘）
- 診療所
- 福祉の様々な事業所など
- カフェ
- 様々な社会活動の場（子どもの力を信じればどこにでも場はあるのかも）
- 私は東京の世田谷区の劇場でアルバイトをしているのですが、そこでの演劇ワークショップは近いと思いました。
- 学びの場まではいかないかもしれないのですが、児童クラブは子どもたちの居場所として大切な場所だと考えています。
- 提供できるとかではないのでこんな場所が学びの場になってもらえたらという希望ですが、図書館でもそういった取り組みしていただけたら良いなと思います。あと、空き家を利用した居場所作りができれば拠点が増えて誰もが通いやすく、空き家問題の解決にもつながるのではと思いました。
- 商店街
- うーん、思い当たりません。
- 地域資源としてではないのですが。。子どもたちが自分たちで舞台を作るような試みはされてますか？以前に私は舞台制作をやっており、地域は東京でしたが学校の通常のクラスでは問題があるとされてしまう子どもたちと、ワークショップから脚本を作っていき、全て（裏も含めて）子どもたちだけで舞台を作るという企画を一時期手伝っていたことがあります。この企画はこどもたちが自己肯定感だったり、何が自分の興味なのか？を探っていける非常に良い企画でした。舞台は映画制作と違ってライブなだけに、なかなか大変ではあるとは思うのですが。。そういう企画を犀の角さんではされないのかな？とちょっと思って聞いておりました。舞台の場所としては映画館がありますし。。そんな企画があれば是非お手伝いしたいな。。と思いました。
- まだ構想中ですが、自宅の古民家が家族で住むには広すぎるので、少しでも軒先を広げて、子どもたちの学びの場として提供できたらと考えています。明治時代に建てられた歴史のある建物なので、地域の資源として残していきたいと考えて改修しています。すでにある場所としては、創造館がいつもおもしろそうな企画をされているなぁ（けれど実際に行けたことがない）と感じています。
- リゾート施設　観光施設
- 長野大学
- Cafe、本屋、図書館、公民館
- 古本屋で学習室をしていたり（@佐久穂町）くらいですかね。
- 学校の臭いのしない子どもが行けるところが小さくたくさんあるとよいですよね。
- 有機農家（主に佐久・佐久穂）ならいくらでも紹介できるのですが遠いですね。
- 生き物がいる場所（小川・たんぼ）

イベント全体についてのフィードバックがございましたらご記入ください。

- こどもの立場に加え、保護者の希望や願い、こどもたちの様子などを伝える・訴える機会もあれば良いなと思いました.
- シネマクラブに通うお子さんたちが、そこで安心して過ごせていること、自信をつけていることが発言からよく伝わってきました。ハローアニマルのつづきさんがお話されていましたが、そういう一面を学校とより共有できるといいのになと思います。先生↔生徒、組織↔組織との境界が緩やかになると皆が過ごしやすくなりそうですよね。
- 第一部の子ども達の言葉で、決められたことをするのがちょっと苦手、第 2、3 部での大人達からは、あらかじめ知識を与えら準備されたものではない状況でのショッキングな出会いによる感情、という発言からイベントのテーマの底に流れている思考を感じることができた。
- 当事者の子どもたちと実践されている皆さんの生の声を聴くことができたのは非常に良かったと思います！行政側では臼田さんが参加してくださいましたが、上田市役所の関係各課にも聴いて欲しい内容でした。
- 本当に先駆的な取り組みで多くの人に知ってほしい。直井さんが最後に話されていた課題･･･問題意識･･･として持っているところも・・・も、多くの人に伝えていかないと・・・と思いました。
- ３部構成で子どもたちから様々な立場の方々のお話しが聞けてとても勉強になりました。シネマクラブ以外の活動も知れて興味が湧きました。
- どの部もそれぞれの思いを聞くことができ考えさせられました。活動の紹介もお聞きすることができ、子どもたちを支援したいという想いはどこも変わりなく、みんなで支えていけたらといいなぁと思いました。
- またいっぱい考えてしまいました
- 子どもの居場所を文化芸術活動（教育）の 2 論点でした。分けて語り合えると良かったかなと思いました。
- 居場所、地域、学び、といったテーマについて考えるきっかけをいただくことができました。
- 3 部のトークショーで話されていた教育と文化の接点はとても重要だと思いました。文化芸術からの子どもたちへのアプローチがどれだけのプラスになるのか？そこが教育制度に浸透していくことが必要な課題だとは常々思います。どんな形でも子どもたちが自分が大切な存在だと認識できる機会が多方面にて増えていくことを望みますし、そこを分かっている各方面の有識者の方々の相互理解が進むことが重要なんだろうな。。と、トークショーを聞きながら感じていました。
- 素晴らしいファシリテーションでした！子どもたちも壇上で自分の思いをマイクを通して伝えてくれてとても立派でかっこよかったです。みなさんの色々な気づきをシェアしていただけて、とても有益な時間となりました。ありがとうございました。
- ハローアニマルの南信での取り組みに参加してみたいです。
- 開始前、休憩中の音楽が素敵だと思いました。
- とても内容の濃いシンポジウムと思いました。

- 第３部に現役の教師の方がいたら、学校現場の話もきけるのかなと思い、より多面的なディスカッションができるかと思いました。
- "地域×文化×子ども×α（個性的な大人）＝新しい学びやの経験場
- 居場所の視野をぐっと拡げてもらえました。

その他、ご意見ご感想などありましたらお願いします。

- 内容に引き込まれあっという間の３時間でした。参加して良かったです。
- うえだ子どもシネマクラブ、とても素晴らしい活動だなと常々感じていました。
- 自身の事で恐縮ですが、イギリスのケンローチ監督の映画が好きで、絶望しながらもそれでも僅かな希望を感じられる、でもやっぱり現実を直視せざるを得ない、そんな姿勢が好きでよく観ます。今後のご活動に益々期待しています。駄文長くなりすみませんでした。
- 有意義な会であったのと同時に、解決に向けての次の一手がなかなか見えない難しさを感じました。多様な居場所の確保が必要なのは明らかですが、映劇も犀の角もこれ以上に居場所に注力するのは厳しいと思いますし、行政の動きもなかなかすぐには期待できない中、この課題に興味を持ってくれそうなパブリックマインドを持った受入先を増やしていく必要があると感じました。こどもシネマクラブ、イロイロ倶楽部、ハローアニマルの実績をもとにほかの議員仲間も巻き込んで企業や団体に営業に回るとか、皆さんと妄想ミーティングすれば、具体的な妄想ができそうです！よろしければご検討ください。
- このチャンスを作ってくれてありがとうございます。
- 皆さんのお話を全部文字化してほしいですーーー
- 本日は参加させていただきありがとうございました。今後も子どもさんがのびのび安心できる場として活動に参加できるよう、学校としても支えて行けたらと思います。いろいろとよろしくお願いします。
- 今日は参加させていただきありがとうございました。こういった取り組みが有ること、本当に本当にありがたいですし、とても頼もしいです。ただやはり学校以外の場所に通う事は親の負担も大きいです。義務教育中の学校に通うなら発生しなかった交通費、食費もかかってきますし、送迎等で仕事を辞めたり正社員からパートにしたりという必要性が出てきたりします。我が子が生き生きと活動、学びを出来る場に親としては通わせたい思いは有りつつ、そういった障害からその場に行かせる事をためらっている方も多いのでは？と思い、やはり行政の支援が広く行われると良いなと思いました。いろいろクラブもお誘い頂いて、興味もとてもあるのですが、やはり送迎等に問題があり…拠点がもっと増えてもらえると良いのですが。
- 勉強になりました。ありがとうございました。
- 子どもの居場所を地域で創り出したところがすばらしいです。ありがとうございます。
- 映画好きとしては、もっと映画の持つ力について、聞きたいです。

- すごくタメになりました。関西から勢いできましたがこれてよかったです。
  もっと広がって欲しいし、広げたいなと思いました。関西でもやってみたいです。
- 私は今公認心理士を目指しており、過去に経験してきた舞台や、イベント制作に関わってきた経験を生かして子どもたちに芸術的なアプローチでの心理サポートを行いたいと思っています。その上で今回のシンポジウムは非常に興味深く、現状としての多方面での課題なども含めて聞くことができたことは、非常に自分にとってプラスでした。本当にありがとうございました。またこのような機会があれば参加させていただきたいです。
- いつもチラシのデザインが本当に素敵で、つい手に取ってしまい、捨てずにとっておきたくなります。（上田市のコミュニティ・スクールの講座もチラシを見て知り受講しています笑）これから自分に何ができるのか、地域にはどんな課題があって、何が求められているのか、等いろいろと思案できる素敵な時間でした。本当にありがとうございました。
- 時期を見て「子どもシネマクラブ」に参加してみたいです。
- 学校に関わる先生のお話も聞けたら…と思いました。
- 今度私も上田映劇に映画をみにいきたいとおもいます。
- 映画や動物などを通じ、子ども教育を熱心に考えている人がこんなにいるんだと驚いた。
  シネマクラブの活動について気になっていたところ、今回のシンポジウムに参加させて頂き、とても勉強になりました。※恵さん、まーゆへのメールありがとうございました。たくさんの資料ありがたいです。
  "
- 第 3 部のシンポジウムもたくさんの示唆をいただき、とても楽しく参加できました。
- 子どもたちのサポート、やはり楽しみながらというスタンスが大切と改めて感じました。
  機械いただきありがとうございました。
- 子どもも大人もシステムの外に出たくてしょうがないんじゃないか（その中にいると自分を否定するしかない）という思いがあります。場所を開いてくださりありがとうございます。
  つぶやき 1　大学の授業中、寝ていた学生に、「寝てるなら映画館に行け！ここよりずっと学びがあるぞ」と怒鳴っていた教授がいました。それからオールナイトなど映画館によく行くようになったのを思い出しました。
  つぶやき 2　システムの中の人たち（子どもも含めて）は、どんなことを感じますかね、今日のお話
  P．S 最後のシンポジウムもとてもよかったです！自分にとっての映画、映画館を語るっていいですね。
  大人が子どもからもらっているものもたくさんあるんだろうなぁとみなさんの話を聞いて思いました。

アンケート回答者_所属

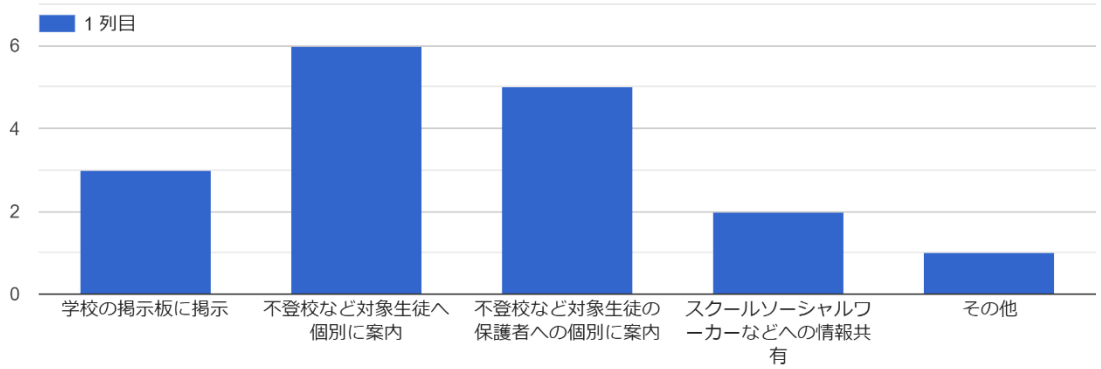
NPO 法人　武石子育て支援を考える会／上田市議会議員／NPO 法人ライフリンク／日本女子大学／青木中学校／佐久市議会／教員／長野大学／ワンダーラボ株式会社／長野大学　社会福祉学部／信濃毎日新聞／こどもの育ちと学び研究所／フリースクール「フェルマータ」／場作りネット・小諸高原病院／よつ葉の会／東信教育事務所生涯学習課 など

うえだ子どもシネマクラブ出席扱い等に関するアンケート結果

対象：14 か所　回答 10 件
≪回答者≫
おけまる食堂　小林みゆきさん
信大付属中学校　3 年 A 組　武井正樹さん　★出席扱い学校
だらっと　堀内泉さん
御代田中学校　教頭　木下智宏先生
プレジョブ　宮尾彰さん
SSW　丸子中央病院　臼井なずなさん
ハローアニマル　続木奏絵さん
青木中学校　新藤円香さん★出席扱い学校
SSW　天野みちる
東御市立東部中学校　中村教頭★出席扱い学校

うえだ子どもシネマクラブの利用状況について

送付・配布させて頂いているうえだ子どもシネマ...・上映会のチラシの周知状況を教えてください。



参加呼びかけの際に苦労した点、工夫した点はありますか？
・予定を確認して約束する。
・不登校傾向、集団不適応の生徒へ直接紹介すること。
・学校に行けない（家から出れない）といった「同じ気持ちのわかる仲間」に会える場所です、とお伝えした。

・主催者が誰か分かりにくいので、細かい説明はせず「映劇で」と言っています。保護者や本人はそれでよいのですが、支援者に理解を得るのが難しいときがあります。たくさんの不登校のお子さんと話しますが、人が嫌、外出に抵抗があるなど、情報提供しても参加に至らないケースの方が圧倒的に多いです。
・直接チラシを渡せない時は、チラシを郵送して周知させていただきました。子どもたちに会えるタイミングが月１回なので、翌月（翌々月）のチラシや日程などの情報を早めにいただけるとより多くの子どもたちに周知できたかと思います。保護者送迎が必要な子どもが多いので、直前の周知だと“連れていってあげたいんだけど、行きたいんだけど仕事で…”という声はありました。チラシを渡す際に、自分自身も行っていることを伝えたり、雰囲気を伝えたりしました。
特にありません。
・その子の状況に応じて参加を促した
・無理させず子どもの情況をみて

子どもたちはどのようなきっかけで利用するようになりましたか？（例：興味のある映画がやっていた・サムカフェに興味があった等）

・その日行ってみようかな！と思った。
・映画や芸術に興味があった。
・単に、映画を見に行くこと自体が、子供にとってイベントになるので、 行こうよと誘いやすい。そして、いくらでも食べても良いポップコーンも魅力です。笑笑
・新たな居場所を求めて。
・学校以外での学びの場を求めて。
・不登校に悩んでいるという同じ境遇の子供や家族との情報交換を求めて。
・魅力的な作品を鑑賞することが出来る。
・学校以外の居場所がほしかった。
・各映画のチラシをシネマクラブのチラシと同時に配布させていただくことで、子どもも保護者も各映画のチラシを見て映画の内容に興味を持ち、“行ってみたい！”という気持ちにつながっていたように感じます。また、保護者の方が仕事の休みをとれる見通しが持てたり、興味を持ってくださったりした時に、“子どもと一緒に行ってみようと思います”という親子もいました。
・学校以外に子どもが活動できる場所の一つとして紹介されたから。
・映画の内容、外に出るきっかけが欲しかった
・SSW や職員の紹介　・親が興味をもって子どもとつれて行く

参加した子どもたちや保護者にどのような反応・変化がありましたか？(子どもや親の反応、学校での状況など)

・楽しんで観てくれた。
・言葉少なだったが、参加できた時はうえだ子どもシネマクラブでの取組を話してくれるようになった。

・子供同士知っている顔をちらほらみつけたり、大人の方に声をかけていただけるのも楽しいみたい。
・最近（10月）、以前よりも登校日数が増えた。自習したり、授業に参加したり自ら決定して行動する様子が伺える。
・映画館などの公共の場所に出れなかった少年が映画館に入れた。（母親は驚いた）
・学校が大変だったのは、自分の能力不足ではなく、学校の環境と合わなかっただけだと理解できた。
・シネマクラブで子どもや保護者に会った時は、支援される一支援する関係ではなく、一人の人として映画の話をしたり、世間話をしたり、時には子どもの話をしたりすることができているように感じます。 映劇以外の場所で親子に会った時に、映画の話をして盛り上がることもありました。帰りの車の中で、その日に観た映画の話をして帰ったという声もありました。 最初はチラシを受け取るだけだった子どもが、チラシを渡した時に、映画の内容を自ら読む子どもの姿がありました。 保護者がチラシを見て映画に興味を持つことで、その後の子どもとの会話も生まれていました。 家から外になかなか出ることができなかったり、外出先が少ない子どもが、シネマクラブに参加できたことで、“その場にいることができた”“また来てねと声をかけてもらって嬉しかった”“行くことができて自信になった”などという声が子どもや保護者から聞こえてきました。
参加している本人がとても、興味を持ち、毎回参加することを楽しみにしています。家庭からも出ることができ、保護者もその時間は、自分の時間がとれるようになったようです。
継続して参加するようになった子もいれば、特に変化のなかった子もいる
・中間教室に通う回数が増えた
・放課後登校等での会話が増えた

ご自身がうえだ子どもシネマクラブに見学・参加してみた後の感想を教えてください。

・居場所がたくさんあることはいいことだと思う。
・映画が好きなので、いつも楽しみです。
・子どもたちが安心した表情で初めて会う同世代や大人と接している姿に触れて「場」の生み出す力に驚いた。
・月に 2 回になって参加しやすくなりました。スタッフの方の雰囲気が良いです。
・いつも会っている場所以外で子どもや保護者に会えることに意味があると感じています。 上映中は、他の人の気配も感じながら、個の時間が確保されていることもいいなと感じます。選択肢（映画を観る、サムカフェにいる、誰かと話をする、ワークショップに参加する、ポップコーンを食べたり飲み物を飲むなど）参加している人の意思決定、行動選択が保証されていていいと思います。それぞれが思い思いの参加の仕方ができる所が良いと思います。 シネマクラブ参加時に、共通の趣味を持つ子ども同士が出会える場になっているのもいいなと思います。出会いが少ない子どもたちにとって、貴重な出会いの場になっていると感じます。 日常の仕事の延長

ではありながらも、シネマクラブの時間は職場以外の人と出会う時間、情報共有できる時間、日常業務から離れて自分自身の気持ちをリセットする時間になっています。
・子ども達が、家庭でも学校でもない場所で、のびのびできる場所があることはよいことだと感じました。
・思ったよりも活気があった
・あたたかい雰囲気が第一印象。
・自然とまた行きたくなる。話をしたくなる。

出席扱いについて

文部科学省では「義務教育段階の不登校児童生徒が学校外の公的機関や民間施設において相談・指導を受けている場合の指導要録上の出欠の取扱いについて校長は指導要録上出席扱いとすることができる」とあります。貴校に関しては、どのような基準やガイドラインをもとに出席扱いが可能になりましたか？

・文部科学省のガイドラインに基き、学校長の判断で出席扱いとした。
・校外において、①民間学校（インターナショナルスクールや教会学校、フリースクール、通通信制高校の不適応生対象教室など）②教員やスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーとの面談や学習等③その他　①、②も含めて本人が将来へ向けての学びに繋がっていると学校長が認める活動
教育委員会を通じて、SSWの方から紹介をしていただき、活動に参加することになりました。本人が意欲的に活動に参加し、担当の方からも頑張っている様子をお聞きし、本人の姓著うを感じられるため、出席扱いとして考えています。
・その子にとって何らかの学びがあったかどうか
・学校長、教育委員会判断

貴校で学校外の活動の出席扱いを許可するにあたり公的機関や民間施設に対して特に重視している点、またどのような条件はありますか？（内容、継続性、学校との情報共有、子どもたちの希望など）

・生徒の希望と取り組み内容
・活動やプログラムが子どもの将来へ向けて
・学校との情報共有をしていただけること。
いつ・どんな内容のことを行ったか、誰とどのようなかかわりがあったのか　保護者とも情報共有

うえだ子どもシネマクラブへの参加が出席扱いになった経緯を教えてください。（校長先生、教育委員会の反応など）

・教育委員会が後援していること
・学校長の多様な学びを推進する判断。

・教育委員会を通じてSSWの方から紹介をしていただき活動に参加することになりました。また、子どもさんが活動に参加することを通して、本人が意欲的に参加し、成長している様子を感じるので、出席と同じ扱いで考えています。
・教頭がシネマクラブを訪問、見学。担当者と懇談し、その様子を学校長へ報告。市教委も子どもの学びにつながるとして認めて頂く形。

現在、学校以外で出席扱いにしている活動・他機関があれば教えて下さい。(例：公民館活動、農業、可能であれば機関名など)

・ハローアニマル・インターナショナルスクール・教会学校・寺子屋学習塾・伊藤幸弘塾
・公共施設での懇談や交流等で参加したときに、出席として考えています。
・ハローアニマル・就労体験
NPO 法人まちの縁側なから
特にありません。
市町村独自の子どもの居場所
蹴艇のサポート支援（市の福祉課運営）「くるみん」？

出席扱いに限らず家庭以外で過ごす時間、場所等で紹介・活用などしている機関はありますか？

NPO 法人まちの縁側なから
特にありません。
市町村独自の子どもの居場所
蹴艇のサポート支援（市の福祉課運営）「くるみん」？

学校にいかない、いくことができない子どもたちの居場所づくりについて

社会で孤立しがちな子どもたちにとってどんな居場所活動が充実していくとよいと思いますか？（例：美術館博物館、地域のお祭り、ダンス、楽器、ボランティア活動等…）

こども食堂もひとつだと思います。
地域で過ごしていく時間が多いことを考えると、地域とのつながりを大切にしてほしい。
子供たちにプレッシャーを与えない、 大人からこれをやれ、あれをやれと言われないただそこにいるだけで安心していられる場所があると良いと思います。
・毎日が職場体験のように、様々な職場が随時体験活動を受け入れていただけるとありがたい。・公民館活動
アート活動（創作）の場
・自分で通えるところに居場所があるといい。 ・同年齢と、いろんな年齢の人がいる居場所。 ・型にはまらない大人に会えるところ。 ・ひとりでいることも尊重してもらえる居場所。
地域にある居場所、地域にいる人が一人でも多く子どもたちの味方になること、寄り添ってくれる人がいること。どんな些細なことでも家庭以外で、助けて！とサインが出せたり、不安なことな

どを伝えられる大人がいること。社会の中で、役に立った！と感じられる経験ができること。社会、地域の中にある居場所でそういったかかわり、つながりをもてることが大事なことなのではないかと感じています。 それと同時に、学校の環境（教員の質も含めて）、安心して過ごせる学校、信頼できる大人やいろんな大人に出会える学校、楽しい学校、自分が必要と感じられる学校など、学校の質も高めていくこと、学校も変わっていくことも必要だと感じています。
本人が安心して過ごせる場所がよいと思います。
人と関われる場所（内容はそれぞれで良いと思う）
・人がいすぎない図書館 ・ゆったり散歩できる公園 ・気軽に話をきいてくれる人がいるカフェ ・動物と静かにふれあえるところ

その他　ご意見・ご感想・要望などありましたらお願いします。
・いつも楽しい場所をありがとうございます。 優しい大人たちがたくさん見守ってくれる場所が、子供たちにとって大事なのだと思います。子供たちの自由な居場所のために、これからもよろしくお願いします
皆さんのこれまでのご尽力に敬意を表します。
・開催日がいつなのか、2か月前くらいに知りたい。 ・今後も継続してほしい。連携していきたい。よろしくお願いいたします。
いつもお世話になっております。 映劇、シネマクラブ、サムカフェ、そこにかかわる皆さんの存在に助けられています。 ありがとうございます。“子ども”“保護者”はもちろん、“居場所”そして、“そこにかかわる人”同士がつながることができる場所になっていると感じています。一つの場所、一人の人が子どもたちや保護者とつながるだけでは限界があり、広い関係性の中で、つながっていることが必要だと感じています。地域にある映画館が、人と人とをつなぎ、居場所と居場所をつなぎ、様々な役割を果たしているように感じます。 今後ともよろしくお願いいたします。
その子にとって安心できる場所の一つであることはとてもありがたいことです。 出席扱いについては様々な意見もあるので、そこにこだわらずとも活動を継続していって良いのではないでしょうか。（教育現場からこどもシネマクラブさんへの風当たりが強くなると、子ども達が利用しづらくなってしまうことも考えられるので…）

うえだ子どもシネマクラブに関するSNS上の反響まとめ

2021年3月19日のTwitterへの投稿
　上記の投稿に対する著名人の主な反応
　上記投稿に対する主な意見

2021年7月1日のTwitterへの投稿
　上記の投稿に対する著名人の主な反応
　上記投稿に寄せられた主な意見

Twitter（2021年11月21日）
　上記投稿への意見

2022年2月13日シンポジウム反響（Twitter）

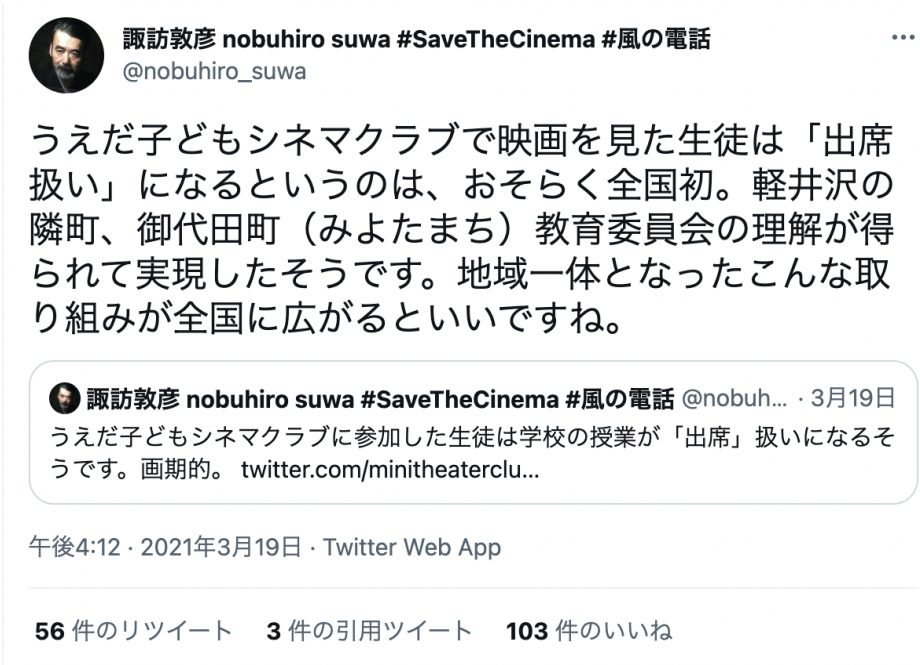
2022年8月18日のTwitterへの投稿
　上記投稿への意見

2021年3月19日のTwitterへの投稿

参考URL：https://twitter.com/uedaeigeki/status/1372858882310082568?s=20

上記の投稿に対する著名人の主な反応

監督：諏訪敦彦さん



参考URL：https://twitter.com/nobuhiro_suwa/status/1372808202128039938?s=20

俳優：井浦新さん

井浦 新 ｜ ARATA iura
@el_arata_nest

映画館が文化施設であることを最大限に活かしてる。映画館て本来こうゆう居場所でもあるんだよなぁ。上田映劇さん、応援しています！

> **上田映劇** @uedaeigeki · 3月19日
> 上田映劇では、学校に行けない・行きにくい子どもたちの新たな居場所として「うえだ子どもシネマクラブ」を行っています。御代田町の学校に通うお子さんはシネマクラブへの参加も「出席扱い」になるとのこと。地域と共に子どもたちの居場所となれるよう努めてまいります。
>
> uedakodomocinema.localinfo.jp

午後1:32 · 2021年3月20日 · Twitter for iPhone

227 件のリツイート　**3** 件の引用ツイート　**961** 件のいいね

参考URL：https://twitter.com/el_arata_nest/status/1373130414001287170?s=20

俳優：カトウシンスケさん

カトウシンスケ
@shinbotch

言葉にならないくらい魂が震えてる。光り輝いてる。

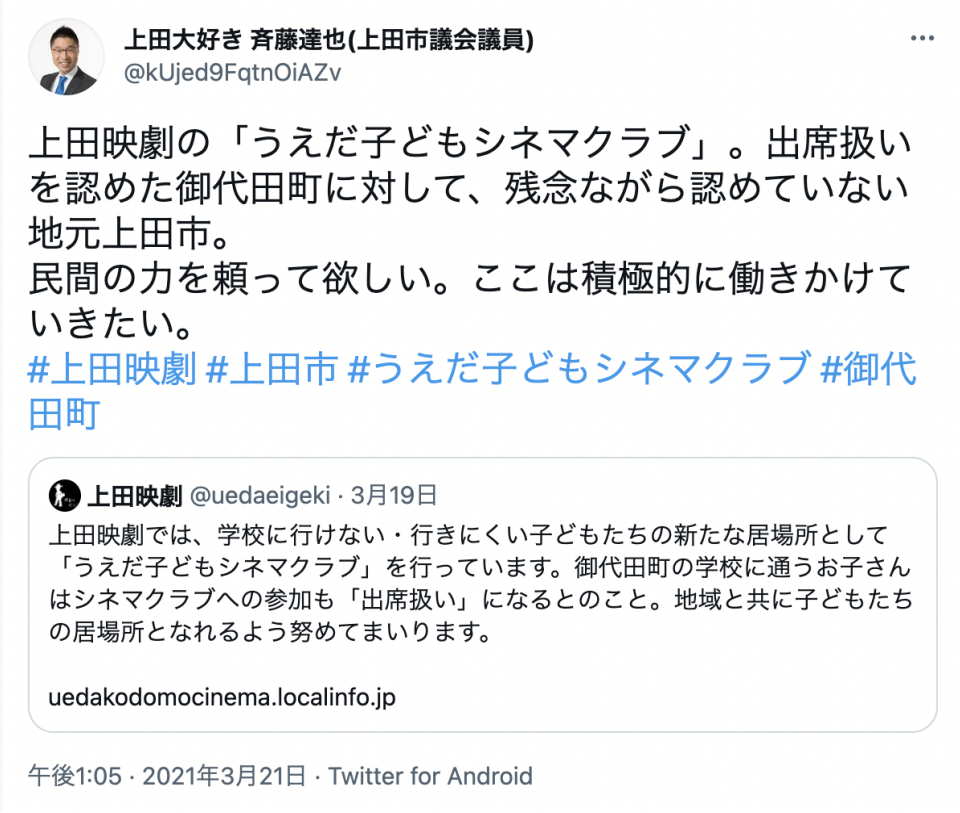
> **上田映劇** @uedaeigeki · 3月19日
> 上田映劇では、学校に行けない・行きにくい子どもたちの新たな居場所として「うえだ子どもシネマクラブ」を行っています。御代田町の学校に通うお子さんはシネマクラブへの参加も「出席扱い」になるとのこと。地域と共に子どもたちの居場所となれるよう努めてまいります。
>
> uedakodomocinema.localinfo.jp

午後8:38 · 2021年3月19日 · Twitter for iPhone

7 件のリツイート　**36** 件のいいね

参考URL：https://twitter.com/shinbotch/status/1372875038144176129?s=20

上田市議会議員　斉藤達也さん



参考URL：https://twitter.com/kUjed9FqtnOiAZv/status/1373485813657268235?s=20

上記投稿に対する主な意見

「良い取り組み。居場所となってほしい。」
https://twitter.com/too_high/status/1377805259179917320?s=21

「家と学校が全てじゃない。いくつも居場所があれば、しんどくなった時に選択肢があるから、道は開ける。」
https://twitter.com/croco_007/status/1373465392455184386?s=21

「実のところ、学校に行かない日は親子で映画館に居るなんて事はもう相当な回数行っている事でした。最近は、学校に寄って「今日は別の場所に居るので学校休みます」と教員に伝えてから出かけたり。何を見たかは、翌日教員に報告します。松本でもやってくれないかなあ。需要ありますよ。」
https://twitter.com/1975to2010/status/1373271929180676103?s=21

「学校に行きずらい日は、映画館へ。とても素敵な試みだと思います。学校だけが世界のすべてではないと、美しくて広い世界があるんだと知るきっかけになったら。きっと道の先がすこし明るくなります。わたしも映画に救われた人間なので、こんな試みがあって嬉しい。」
https://twitter.com/10gatsu_no_neko/status/1373250586049540099?s=21

「学校に行きづらい日は映画館へ。しかも、自治体によっては学校が出席扱いになるらしい。素晴らしい。」
https://twitter.com/ieoksuodh/status/1373239626412875778?s=21

「転勤族のお子様などは出会いと別れが多く時にとても弱くなったりします。(逞しくなる子もいますが…)このような施設の使い方が全国に広がって欲しいと強く願います！」
https://twitter.com/kotohana13/status/1373456882996703235?s=21

「外へ出掛けられる間はまだ間に合うと思う。誰かと繋がったり、好きな事を見つけたり生きていく力はそう言う自分の中だけじゃなく外との繋がりからも得るものだと思うから。この活動が全国に広がると良いですね。」
https://twitter.com/kiyomig1/status/1373132122148401159?s=21

「図書館行っても、公園行っても、誰かいるから　映画を観ているときはひとりになれるから、すごくいいなあ」
https://twitter.com/kotosorach/status/1373067286488084483?s=21

「学校へ行きづらい日は映画館へ。やさしくてステキなお誘い。しかも出席扱いになるなんて！上田映劇さん、そして御代田町の行政、教育関係の方々の懐の深さあってこそ。この取り組みがもっと広がるといいな。」
https://twitter.com/syoboinu/status/1372965920759418886?s=21

「学校に行きたくないって思う日に『映画館に行って、観た映画をちょっと考えてみよう』ってなったら、それで勉強になる！学校で得難いこと！精神的なというと雑な表現だけど、

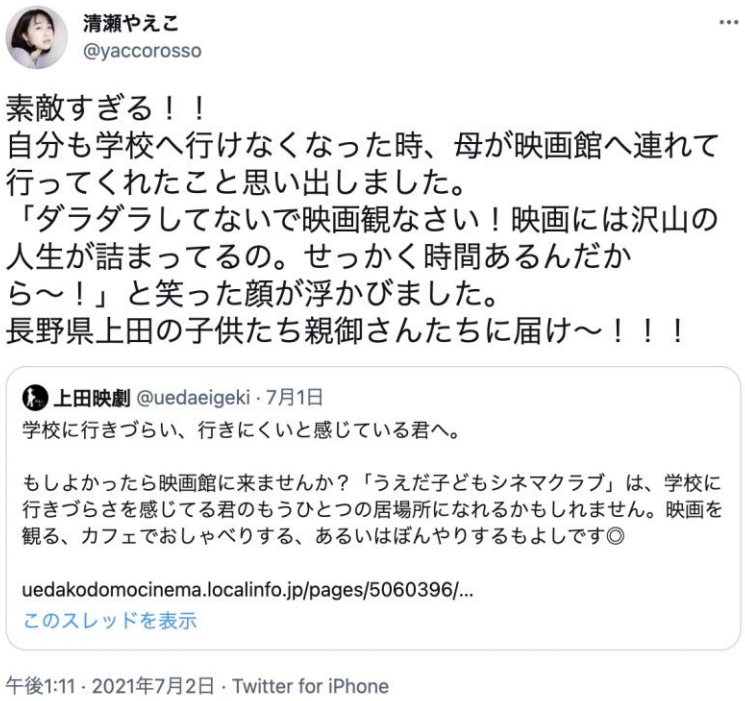
そんな理由で学校に行けない→欠席！となってしまうとどんどん学校に行けなくなってしまう（個意見）から出席扱いはスゴイ」
https://twitter.com/niki_due/status/1372947920656363521?s=21

2021年7月1日のTwitterへの投稿

参考URL：https://twitter.com/uedaeigeki/status/1410582661345644548?s=20

上記の投稿に対する著名人の主な反応

俳優：清瀬やえこさん



参考URL：https://twitter.com/yaccorosso/status/1410813462524174340?s=20

上記投稿に寄せられた主な意見

「素敵な取り組み！いろんなところにこういう場所があればいいなあ。」
https://twitter.com/ichigohabanero/status/1411181599421460481?s=20

「すてきな場所。こういう場所大切だと思うし増えたらいいなとも思う。学校へ行くことが全てじゃない。学ぶ場所はもっと自由であるべきだ。」
https://twitter.com/shiro__to_kuro_/status/1411225920044552199?s=20

「高校の頃、学校をサボってブラリと何処かへ出かけていた。学校が嫌いとか何かに追い詰められてた訳ではなかったが、自然と不快な何かから距離をとってリフレッシュしていたんだと思う。親にバレて怒られた時もあったが、あれは単なる逃げ道でなく、自分が息を吹き返す為の寄り道だったと思っている。」
https://twitter.com/jima01/status/1411131360199122944?s=20

「こんな映画館が色んなところにあればいいのに……！そこで出会ったり、ホッとしたりして、パワーチャージできる空間…。学校以外の可能性、もっと社会に欲しい！！」
https://twitter.com/funkasticteach/status/1410781597893201921?s=20

「息子の登校しぶりが最近たまにある。休ませて不安なのは「一日家でどう過ごす？」ってこと。幸い私は午前は自由に動けるから、映画館、博物館、美術館でも連れてくか！と思いついて気持ちが軽くなったのが水曜日。そんでこんなツイートが流れてきてステキ！！ってなってる」
https://twitter.com/onionoinonion/status/1410724968069881858?s=20

Twitter（2021年11月21日）

参考URL：https://twitter.com/uedaeigeki/status/1462345040110374912?s=21

上記投稿への意見

「辛い時、よく映画館へ逃げ込んだ🎬映画を見ている間は自由で守られているような気がしたから。」
https://twitter.com/mametarov52645/status/1462612868138876930?s=21

2022年2月13日シンポジウム反響（Twitter）

「オンラインで参加させていただきました。舞台に上がりきっと緊張されたでしょうがご自身の言葉で丁寧に応えていただいてありがとうございました。素敵な時間をありがとうございました。」
https://twitter.com/hamihami302/status/1492868056388833280?s=20&t=RttWF_J19dEncsoVTvZ4Cg

「諏訪監督の映写室のお話まさに『ニューシネマパラダイス』でゾクゾクしました。貴重なお話ありがとうございました。」
https://twitter.com/hamihami302/status/1492868668447166464?s=20&t=RttWF_J19dEncsoVTvZ4Cg

「【映画館は未来をつくる学びの場】シンポジウム第3部を観ました
教育と映画・映画館の単なる居場所以上のつながりを学びました
教育は地域社会、すべての人に関わるものだと改めて考えさせられました」
https://twitter.com/haruppeee/status/1492988095947751424?s=20&t=RttWF_J19dEncsoVTvZ4Cg

「昨日は上田映劇 @uedaeigeki で開催されたシンポジウムに参加してきました！
与えられることがほとんどで、自分で選択する場が少ない日本の教育。どこで、誰と、いつ、何を学ぶのかを、もっと自由に子どもが選択できるといい。まずは、スキームを作っている大人から意識のアップデートしていかないと。」
https://twitter.com/gumi_hatakuri/status/1493009959998865408?s=20&t=RttWF_J19dEncsoVTvZ4Cg

「上田映劇さんのシンポジウムでのお話、すごくよかった。学校に行きづらい日は映画館に来てもいいよという取り組みすばらしいな。」
https://twitter.com/kanamt__/status/1492754805915193345?s=20&t=RttWF_J19dEncsoVTvZ4Cg

「この4年間で視察を重ね、教育に携わる方々の声を聴き、一般質問等を通じて提案してきた取り組んできた不登校の子どもたち、引きこもりの若者たちへの支援。市の施策として実現したものはありませんでしたが、改めて社会が子どもたちに合わせて変わる時だと再認識。私も引き続きがんばります！#上田市」https://twitter.com/ueda_daisuki/status/1492823807014633472?s=20&t=RttWF_J19dEncsoVTvZ4Cg

2022年8月18日のTwitterへの投稿

参考URL：https://twitter.com/uedaeigeki/status/1560232390164746240?s=20&t=NaFEA7ORYk4_oQVEqKY-VA

参考URL：https://twitter.com/uedaeigeki/status/1560232392618491904?s=20&t=NaFEA7ORYk4_oQVEqKY-VA

上記投稿への意見

「これ、凄くいい」
https://twitter.com/angus_nico/status/1560750933633486848?s=20&t=NaFEA7ORYk4_oQVEqKY-VA

「素敵。、。。」
https://twitter.com/caminoayumi1/status/1560720682753097728?s=20&t=NaFEA7ORYk4_oQVEqKY-VA

「そういば長野って農繁期休みがあったな。田植えと稲刈りの時期？それぞれ一週間ぐらいあったから、その皺寄せで夏休みが短かった。」
https://twitter.com/cibo_haken/status/1560674112321699840?s=20&t=NaFEA7ORYk4_oQVEqKY-VA

「なんて素敵な…！しかも無料。最高。物語にたくさん触れることは、違う世界を知ることだから、絶対にプラスになると思う。」
https://twitter.com/umisui/status/1560637674544713728?s=20&t=NaFEA7ORYk4_oQVEqKY-VA

「素敵です😊映画監督や小説家が、過去に映画館でサボっていたと話すのを、勇気があるなぁと思いながら見聞きしていました。映画館がこう言ってくれるのがとても嬉しいです✨地元の、チェーンの映画館でもこういうことお願いできるかな。。」
https://twitter.com/seri0114/status/1560636216714080258?s=20&t=NaFEA7ORYk4_oQVEqKY-VA

「素晴しい取り組み！“映画のウソがもたらす真実”のチカラは、心を元気にしてくれるはず。」
https://twitter.com/_Tapas/status/1560627051307999232?s=20&t=NaFEA7ORYk4_oQVEqKY-VA

「素敵すぎて引リツしてしまった
映画って自分の価値観変わることあるから侮れないですよ
そして約2時間その作品の世界に入れるのもいいですよ
だからみんな映画館に行こう」
https://twitter.com/Z924921203/status/1560625540872040448?s=20&t=NaFEA7ORYk4_oQVEqKY-VA

「高校生の頃まさにそんなことしたなぁ😶サボっても他に行くところがあるのは良いことです」
https://twitter.com/cm_n900/status/1560622769154322433?s=20&t=NaFEA7ORYk4_oQVEqKY-VA

「「おいで」と言ってくれていた訳ではないが学校に行きづらい日は図書館に籠っていた。職員さんの誰も何も声を掛けないでいてくれたのが有難かった…。」
https://twitter.com/me_sento/status/1560622066650726401?s=20&t=NaFEA7ORYk4_oQVEqKY-VA

「なるほど、そういう使い方があったか💡」
https://twitter.com/nozu_taku/status/1560619889928605696?s=20&t=NaFEA7ORYk4_oQVEqKY-VA

「aceさんから知った上田映劇、なんか上映作品もやってることも素敵なんだな。」
https://twitter.com/yukobariko/status/1560608006953639936?s=20&t=NaFEA7ORYk4_oQVEqKY-VA

「高校生以下は500円なのね！高校の頃、自習サボっていったなぁ笑映画観たらちゃんと学校に戻ったよ」
https://twitter.com/ispice4/status/1560576518447054848?s=20&t=NaFEA7ORYk4_oQVEqKY-VA

「素敵。子どもの頃にこんな映画館があったら良かったという大人がきっといっぱいいる。」
https://twitter.com/jinchi_sen/status/1560569429338906624?s=20&t=NaFEA7ORYk4_oQVEqKY-VA

「「学校に行きづらい日は、映画館においで」
長野・上田映劇が続けている試み「うえだ子どもシネマクラブ」に『ゆめパのじかん』も参加します。お気軽に是非！」
https://twitter.com/yumepa_no_jikan/status/1560558780437663745?s=20&t=NaFEA7ORYk4_oQVEqKY-VA

「素敵な取り組み👏」

https://twitter.com/nature_1022/status/1560544843264593921?s=20&t=NaFEA7ORYk4_oQVEqKY-VA

「近くにあればいいなぁ。」
https://twitter.com/r6VzBWjieG4dB6g/status/1560538304197840897?s=20&t=NaFEA7ORYk4_oQVEqKY-VA

「ちょうど今日友達と"ゆめパのじかん"について話してたところ」
https://twitter.com/creepppppp731/status/1560534267419295744?s=20&t=NaFEA7ORYk4_oQVEqKY-VA

「「学校に行きづらい日は映画館においで」とうたっているミニシアターがあることに感動している。高校時代、いじめられていたわけでもなく上部の人付き合いはあったけど、部活やめて漠然と居場所がなかった１６の私には放課後に過ごす時間が圧倒的に自由を感じて、映画館は居場所だったから凄く分かる。」
https://twitter.com/malle1b/status/1560532552946880512?s=20&t=NaFEA7ORYk4_oQVEqKY-VA

「図書館はよく聞くけど、映画も良いなぁ　こういう場所がどんどん増えて欲しい　夏休み終わりだけに限らずで。」
https://twitter.com/natsu2016july/status/1560502372618514432?s=20&t=NaFEA7ORYk4_oQVEqKY-VA

「素晴らしい取り組み✨これからのまちキネが目指していくべき姿の一つに「#うえだ子どもシネマクラブ」がある気がしました。また、体制がいろいろとガラッと変わるまちキネにとって、市民から新たに期待されていることの一つでもあるのかと。」
「選択肢の一つに「映画館」が入るだけでも、意味あることなんだと思います。これは、子どもたちだけに限ったことではないですが、映画館は気兼ねなく立ち寄れる場所であるということは守っていきたいと強く思います。」
https://twitter.com/machikine/status/1560502240778993664?s=20&t=NaFEA7ORYk4_oQVEqKY-VA
https://twitter.com/machikine/status/1560502242527940610?s=20&t=NaFEA7ORYk4_oQVEqKY-VA

「子ども達の逃げ場を大人達が減らし過ぎた結果がトー横やグリ下なんじゃないかな。この映画館の様に、学校行きづらい子達が安全に匿われる場所がもっと増えたらいいのに。」
https://twitter.com/miffy_18/status/1560497044275412993?s=20&t=NaFEA7ORYk4_oQVEqKY-VA

「映画館の暗闇は落ち着けて、いろんな世界が覗けます。素敵な取り組みですね」
https://twitter.com/necosabre/status/1560495121052839936?s=20&t=NaFEA7ORYk4_oQVEqKY-VA

「良いと思います。」
https://twitter.com/paradoxlife20/status/1560487208515436544?s=20&t=NaFEA7ORYk4_oQVEqKY-VA

「こういう映画館もっとあるといいね」
https://twitter.com/sissylacoquet/status/1560484148850020352?s=20&t=NaFEA7ORYk4_oQVEqKY-VA

「そんな日も、あるよね　こんな映画館、いいよね」
https://twitter.com/roqu_3/status/1560479785134227456?s=20&t=NaFEA7ORYk4_oQVEqKY-VA

「なんとすてきな取り組み」
https://twitter.com/yellowskins/status/1560479069158133760?s=20&t=NaFEA7ORYk4_oQVEqKY-VA

「大人もそうよ」
https://twitter.com/thegodsludge/status/1560468963204952064?s=20&t=NaFEA7ORYk4_oQVEqKY-VA

「「学校に行きづらい日は映画館においで🎬」どこにも行けない時、受け止めてくれる場所がある。　そこで映画を一緒に観るだけでなく、お話もできたりと…　こんな素敵な取り組みが、広がっていくといいな…✨」
https://twitter.com/chocola80106989/status/1560465692436348928?s=20&t=NaFEA7ORYk4_oQVEqKY-VA

「中高時代の自分にお伝えしたい。」

https://twitter.com/tukitoinu2022/status/1560460724912406528?s=20&t=NaFEA7ORYk4_oQVEqKY-VA

「なにか専門の場所みたいなのがやるよりも、地域の中でそこに普通にいる人たちがこんなふうにされていくほうがいいだろうと思う。」
https://twitter.com/m_t_d_t_k/status/1560459110721933312?s=20&t=NaFEA7ORYk4_oQVEqKY-VA

「そうゆう日もあって良い。安全に逃げ込める場所あってこそ。」
https://twitter.com/printing_boy/status/1560458083435814912?s=20&t=NaFEA7ORYk4_oQVEqKY-VA

「そういう日があってもいいよね、暗闇に身を潜めて。」
https://twitter.com/ondagen/status/1560448946614730752?s=20&t=NaFEA7ORYk4_oQVEqKY-VA

「映画館は（別の視点では）能動的に逃げ込める場所。そして、救いの場所。世界を感じる場所。」
https://twitter.com/izueigasai/status/1560448760253382657?s=20&t=NaFEA7ORYk4_oQVEqKY-VA

「子供時代は図書館と映画館が私の棲み家でした。感謝しかない✨✨」
https://twitter.com/chiijo_/status/1560444120212320256?s=20&t=NaFEA7ORYk4_oQVEqKY-VA

「なんかいいね。やさしい」
https://twitter.com/kiazourim/status/1560437418201071617?s=20&t=NaFEA7ORYk4_oQVEqKY-VA

「冗談でもそんな事　書いてはイケマセン…」
https://twitter.com/uUeYoGkiMrRbJHf/status/1560435433926172673?s=20&t=NaFEA7ORYk4_oQVEqKY-VA

「学校も仕事も行きたくない日ってあるし　無理して行く必要ないし　楽しく生きたいなぁ♪」
https://twitter.com/kinoaraineco/status/1560431266465730560?s=20&t=NaFEA7ORYk4_oQVEqKY-VA

「素敵な映画館ですね💞」
https://twitter.com/oka63186151/status/1560431187000078336?s=20&t=NaFEA7ORYk4_oQVEqKY-VA

「子供の頃親に連れられ一度訪れた遠い記憶がある…フォロワーさんから塚口サンサン劇場の話を聞くたび素敵な映画館で羨ましいと思っていたけど、県内にもこういう映画館があることが嬉しいね　そういえば長野市内にも老舗映画館あったな…つい大きい所に行きがちだけど思い出せて良かった😊」
https://twitter.com/milktea_835_30k/status/1560426386162331648?s=20&t=NaFEA7ORYk4_oQVEqKY-VA

「理由は様々ですが…学校行きづらい時あるよね。私は「行きづらい時代替プラン」を作ってる。①映画館②カラオケ③ドライブ④ボーリング⑤ハイキング⑥自転車⑦まったりとお茶⑧寝る(一緒にお昼寝)…など、本人に選んでもらう。あくまでも楽しい会話とスキンシップが目的。」
https://twitter.com/MichieSun/status/1560425434256650240?s=20&t=NaFEA7ORYk4_oQVEqKY-VA

「こういう話が重要でね、映画館とか図書館へおいで、とかね。
つまり、これ、学校へ行きづらいけれど「宗教に頼らないために」なんだよね。」
https://twitter.com/TakashiMiya/status/1560794109803204609?s=20&t=NaFEA7ORYk4_oQVEqKY-VA

「高校時代、さぼって別の学校の友だちと『時計じかけのオレンジ』と『未知との遭遇特別編』の2本立てを池袋文芸座へ観に行ったのを、いまでも思い出します。」
https://twitter.com/risaku/status/1560407301886210048?s=20&t=NaFEA7ORYk4_oQVEqKY-VA

「映画は沢山のことを教えてくれます。学校もいいけど、学校では学べないことも教えてくれる　そして何より楽しい時間なのです。」
https://twitter.com/shima_ryuichi/status/1560406122703749120?s=20&t=NaFEA7ORYk4_oQVEqKY-VA

「図書館だけじゃなかった👏」
https://twitter.com/ultimate_takan/status/1560404285988667392?s=20&t=NaFEA7ORYk4_oQVEqKY-VA

「ゔゔゔゔゔゔゔゔゔゔゔゔゔゔゔゔあぁぁぁぁぁはぁぁぁ号泣」
https://twitter.com/gen_008xxx/status/1560394202168446976?s=20&t=NaFEA7ORYk4_oQVEqKY-VA

「大好きだった映画館のロビーにはテレビがあって、モギリの人と無言で高校野球一試合分見たりしたなあ…。雑誌や新聞もあって半日読みながら、客たちを観察してたり。映画館が「いつかは」社会につながる。上田映劇すばらしい。」
https://twitter.com/mayamaya_/status/1560392881558650881?s=20&t=NaFEA7ORYk4_oQVEqKY-VA
「高校の頃あんまり行く気にならない時は、朝行くふりして映画館に行ってたなあと思い出した　逃げ場所の選択肢がたくさんあるのは本当に大事、素敵な声がけだと思う」
https://twitter.com/masaki_boyhood/status/1560380997094424576?s=20&t=NaFEA7ORYk4_oQVEqKY-VA

「行きたいな。」
https://twitter.com/kidomi_1998/status/1560313984611282944?s=20&t=NaFEA7ORYk4_oQVEqKY-VA

「僕、学生時代に学校をサボるって概念がマジでなかったなぁ〜
未だに童貞ちっくな人の共通点かもしれない。後悔はしてない」
https://twitter.com/kaiser_tototo/status/1560306184048914433?s=20&t=NaFEA7ORYk4_oQVEqKY-VA

「高校生の頃に出会いたかった」
https://twitter.com/80s_showa_rock/status/1560297503672508419?s=20&t=NaFEA7ORYk4_oQVEqKY-VA

「いいなあ、チョイスも絶妙。」
https://twitter.com/tele1962/status/1560293495688265728?s=20&t=NaFEA7ORYk4_oQVEqKY-VA

「もっとミニシアターを若者に教えるべき」
https://twitter.com/ma_yu_mamax/status/1560290837447249922?s=20&t=NaFEA7ORYk4_oQVEqKY-VA

「日本アカデミー賞主演女優賞をとったときの蒼井優のスピーチ。」
https://twitter.com/Ishigakorogaru/status/1560289714271244289?s=20&t=NaFEA7ORYk4_oQVEqKY-VA

「なんだかすごく素敵だと思う。ほいほい行っちゃう。入り浸っちゃう」
https://twitter.com/torinikugasukii/status/1560285047520903176?s=20&t=NaFEA7ORYk4_oQVEqKY-VA

「「学校に行きづらい日は映画館においで」（上田映劇）」
https://twitter.com/nobuhiro_suwa/status/1560244121021087744?s=20&t=NaFEA7ORYk4_oQVEqKY-VA

「自分が学生時代に「思う存分、堂々と居ていいよ」と迎えてくれる場所が学校や家以外にあったら、と振り返る。私は高校をさぼる時は、山や森に行ってたな、罪悪感があったから、人目につかないように。」
https://twitter.com/tsuru3po/status/1560235365515943936?s=20&t=NaFEA7ORYk4_oQVEqKY-VA

「映画館の多面的活用！#社会包摂 の場としても有効。#鶴岡まちなかキネマ でも取り組みたいものです。」
https://twitter.com/tanaka_hiroshi/status/1560750981604065281?s=20&t=NaFEA7ORYk4_oQVEqKY-VA

「ステキな取り組みしてますね。近くに古い小さな映画館があった子供時代、映画館はこどもたちの社交場だった。」
https://twitter.com/gardeni75580710/status/1560554449999122433?s=20&t=NaFEA7ORYk4_oQVEqKY-VA

「ミニシアターとNPO法人が協力して、学校に居場所を見出せていない子どもたちのために無償のプロジェクトを立ち上げている。スタッフが厳選した良作を展開しているのもいいし、劇場をコミュニティスペースにしたり、悩み相談の窓口設けているっていうのもいい。あと『小さな恋のメロディ』はマジで泣く」
https://twitter.com/malle1b/status/1560533417023791105?s=20&t=NaFEA7ORYk4_oQVEqKY-VA

「東京のトラブル多い『歌舞伎町』や『渋谷』などにも欲しい場所だが、結局本人達次第で『危うい道に流れる』ので、難しいのかな？悪い大人も多過ぎるし。」
https://twitter.com/Naokana0822/status/1560499344012296192?s=20&t=NaFEA7ORYk4_oQVEqKY-VA

「えー、凄い！こんな取り組みをしてる映画館があるんだね✨」
https://twitter.com/LINA01054234/status/1560463837878296576?s=20&t=NaFEA7ORYk4_oQVEqKY-VA

「これも図書館ー野生図書館ーに取り入れたい！」
https://twitter.com/hirotakanamba/status/1560459345959063552?s=20&t=NaFEA7ORYk4_oQVEqKY-VA

「こうゆうのとってもとっても素敵！」
https://twitter.com/3uwc18C85k82fx1/status/1560447583189082112?s=20&t=NaFEA7ORYk4_oQVEqKY-VA

「素晴らしい試み！映画もみれて、みた後に映画館のスタッフと感想を話せるって好循環な気がする。インプットとアウトプットが同時にできる場って大事。 これは良き。。」
https://twitter.com/yor_nagisa/status/1560400162308378624?s=20&t=NaFEA7ORYk4_oQVEqKY-VA

「なんて素敵な😍」
https://twitter.com/ryo_runes/status/1560366469229072384?s=20&t=NaFEA7ORYk4_oQVEqKY-VA

「素敵な取り組みだと思います。全国に知れ渡ってほしい。」
https://twitter.com/caSTawJs8rGi9jq/status/1560300105621979136?s=20&t=NaFEA7ORYk4_oQVEqKY-VA

「実際にうちは代々、映画館が学校みたいなものでした。こちらの劇場は長野県上田市だそうです。」
https://twitter.com/ykutsunakubota/status/1560290765271887873?s=20&t=NaFEA7ORYk4_oQVEqKY-VA

「破戒を観に行った上田映劇さん　子ども向け試みの内容を知って、益々素敵だなと思います。うちの娘、バリバリの不登校だったんでww　こんな場所が有ったら良かったな。邦・洋画を沢山観て、間宮さんのように映画好きに🎥？実際は親子でV系バンド追っかけて、お姉さん達に可愛がって貰ったけどね💀」
https://twitter.com/sana0324/status/1560249654939267072?s=20&t=NaFEA7ORYk4_oQVEqKY-VA

「映画館でこんな取り組みが…感動。」
https://twitter.com/sunmallcinema/status/1560234627138461697?s=20&t=NaFEA7ORYk4_oQVEqKY-VA

８．資料等

メディア掲載（TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB 等）

【新聞】

●「学校行きづらい子、映画館においでよ」2020 年 8 月 6 日__信濃毎日新聞社
●「コミュニティカフェプレオープン：子ども・若者の新しい居場所整備」2020 年 8 月 17 日__東信ジャーナル社
●「侍学園が『子どもの居場所作り』事業：上田映劇＆アイダオと連携して取り組む」 2020 年 8 月 1 日__信州民報社
●「悩める映画の主人公 私と同じ」2020 年 10 月 29 日__信濃毎日新聞社
●「映画館を最初の一歩に」2020 年 11 月 6 日__毎日新聞社
●「不登校児らに安らぎの場　復活した上田映劇」2021 年 7 月 2 日__中日新聞
●「『映画館を居場所に』可能性広げるには」2022 年 2 月 11 日__信濃毎日新聞
●「うえだ子どもシネマクラブ」に参加の中３　中学校出席扱いに　校長判断で　自立支える狙い 2022 年 5 月 5 日__信濃毎日新聞
●「学校が苦手なら映画館へ来てみない？　ふらっと雑談だけでも大丈夫」2022 年 8 月 20 日__朝日新聞、朝日デジタル、英語版も
●「子どもの居場所づくり 意義考える」2022 年 10 月 28 日_信濃毎日新聞社
●「映画 自分たちで作ったよ」2022 年 11 月 5 日_信濃毎日新聞社
●「家と学校　全てじゃない ／居場所づくりを進める上田のシネマクラブがシンポ」2022 年 11 月 11 日_信濃毎日新聞社
●「不登校生徒 映画で学ぶ」2022 年 12 月 20 日__読売新聞 社会保障面
●「年の瀬は映画を観て おなかも満たそう」2022 年 12 月 25 日__信濃毎日新聞

悩める映画の主人公 私と同じ

「子どもの居場所」取り組み好評

上田映劇

上映後、パソコンを通じてトゥーミー監督と話す時間も設けた「うえだこどもシネマクラブ」

上田市の映画館「上田映劇」で、学校に行きづらいと感じている子どもたちが映画に触れる取り組み「うえだこどもシネマクラブ」が今夏から始まり、好評だ。友人や家族となじめなかったり、困難に直面したりしている主人公を題材にした作品などを8月から月1回上映。10月26日はアニメ映画「ブレッドウィナー」を取り上げ、約30人が観賞した。

タリバン政権下のアフガニスタンが舞台で、11歳の少女がタリバンに逮捕された父親を救おうとする物語。上映後、会場とアイルランド在住のノラ・トゥーミー監督をオンラインでつないだ。監督は、自身も高校になじめず中退したこと、恥ずかしがりな性格で人と話すのが苦手だったことなどを英語で紹介。会場のスタッフが通訳した。

シネマクラブは、上田映劇やともに市内のNPO法人アイダオ、認定NPO法人侍学園スクオーラ・今人が連携して企画。上田映劇の原悟さんは、子どもたちが多様な価値観に触れる場になることを期待している。「映画に登場する人物に共感し、励まされることがある。『世界は面白い』と感じてもらえたら」

上映会の開催日には、侍学園の生徒やスタッフたちが館内で「カフェ」を開き、訪れた人の相談に応じている。26日に観賞に訪れた侍学園の生徒、長田悠都さん(21)＝上田市＝は中間教室に通った経験があるといい「不登校になっても立ち直れる場所はある。無理に話さなくてもいい。自由な場所なので気軽に来てほしい」と話している。

次回は11月26日。「ニューシネマ・パラダイス」を上映する。

市民主体のまちづくりに光

佐久市が6団体7事業表彰

佐久市まちづくり活動支援金優良事業の初の表彰式で賞状を手に笑顔を見せる受賞団体の関係者ら

佐久市は、市の「まちづくり活動支援金」を活用した市民団体の活動に光を当てようと、初の表彰式を市内で開い

東信

上田支社 〒386-0018 上田市常田2-35-10
電話 0268-23-1200　FAX 0268-23-1202

東御支局 〒389-0516 東御市田中178-17
電話 0268-62-4181　FAX 0268-62-4189

佐久支社 〒385-0035 佐久市瀬戸1203-1
電話 0267-62-2141　FAX 0267-62-2533

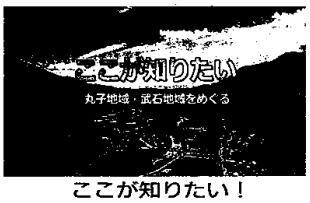
小諸支局 〒384-0023 小諸市東雲1-1-11
電話 0267-22-0480　FAX 0267-26-1286

軽井沢支局 〒389-0102 北佐久郡軽井沢町軽井沢471-5
電話 0267-42-2536　FAX 0267-42-9120

予約制 北山補聴器
本店 長野市中御所町4丁目2番地 第2中御所町ビル1階 ☎(026)224-6822
市役所前店 長野市緑町1600-10 ☎(026)232-6856
しなのき耳鼻咽喉科内 長野市北長池1602-1 ふくおか耳鼻咽喉科めまいクリニック隣 ☎(026)266-0332
松本店 松本市大手2丁目10-5 ☎(0263)31-0690
上田店 上田市秋和307-1 ☎(0268)71-7530

ケーブルテレビ コミュニティーFM これがおすすめ!

ここが知りたい！地域の不思議をひもときます
（丸子テレビ　29日
前9・00、後1・00、7・00、10・00）
丸子地域や武石地域をめぐり、不思議をひもときます。今月は、製糸工場依田社のルーツが武石にあったとのこと・・地元の方々にお話を聞きます。



ここが知りたい！

令和2年度長野県戦没者追悼式　生中継
（佐久ケーブルテレビ　12ch　31日前9・50）
戦後75年。戦争の風化が進む中、長野県の戦没者に対して県を挙げて追悼の誠をささげ、平和への思いを新たにするために開催されます。今回の会場は、佐

長野 NAGANO

nagano@mainichi.co.jp

長野支局
〒380-0835 長野市新田町1508の2 明治安田生命長野ビル2階
026・234・2175 FAX026・238・0230

松本支局
〒390-0873 松本市丸の内5の3
0263・32・4141 FAX0263・37・0886

購読は 毎日0120・468・012

長野 261・1500　長野中央 292・0271
松代 278・2257　坂城 82・2062
須坂 245・0290　上田 24・7200
更埴 273・4781　小諸 22・0639
中込 62・0516　軽井沢 44・3088
白田 82・2063　戸倉 272・0713
丸子 42・2223　松本 36・1111
上田諏訪 275・1750　高台 78・7870
塩尻諏訪 52・0722　上高地 52・1073
下諏訪 27・8552　伊那 72・7455
茅野 72・4148　飯田 23・6289
野沢温泉 82・3503　白馬 72・2024
穂高 83・7878　大町安曇野 22・1450

広告は 長野 026・228・2311　松本 0263・32・1212

映画館を最初の一歩に

「個」保ちつつ「場」共有

上田・3団体 不登校児の孤立解消へ

そうだ、今日は映画館に行こう！。学校に行けなくなったりしたお子どもたちの新たな居場所として、映画館を活用しようと、上田市内のNPO法人3団体が上田映劇（上田市）に子どもを招いて映画を楽しんでもらう取り組みを今夏から始めた。引きこもっていた子どもが勇気を出して足を運んだり、併設されているカフェで保護者が心情を吐露したり、映画館が新たな孤立解消の一役を担っている。【坂井真理】

市民活動を支援する中間支援組織「アイダオ」（上田映劇）年齢無制限で生徒を受け入れる「俳優養成スクール・今人」―の3団体が組んで「うえだ子どもシネクラブ」をスタート。月に1回の上映会を企画する。上映会の日にはコミュニティーカフェもオープンし、映画の感動や子育ての悩みなどを語り合える。

10月始めには第1回の上映会が開催された。アフガニスタンで力強く生きる少女を描き、米アカデミー賞長編アニメーション賞にノミネートされたアニメ映画「ブレッドウィナー」（2017年、カノラ・トゥーミー監督）が無料で上映された。

上映会は「コミュニティーカフェ」を併設、スタッフや俳優養成生徒がカウンターに立ち、訪れた人たちとのカフェタイムを楽しんでいた＝上田市中央3の上田映劇で

上映会の運営やカフェ運営にはNPOの会員や俳優養成生徒が参加。8月に開催された1回目の上映会に足を運んで「用心棒の良さに」を感じたという10代の女子生徒は「学校にはない時間を過ごしてもらうことへの感謝」と喜びを語った。

加えて、映画のオンデマンド配信などで「映画館離れ」が起きている映画業界にとっても、子どもの居場所としての新たな活用策の強い意味がある。

アイダオの原井恵さん（49）は「俳優養成生徒たちと接する中で、10代が不登校をきっかけに引きこもりになったという話を聞くことがすごく多かった。長野はそもそも自殺率も全国トップクラス。地域の中に学校以外の居場所を作る必要があると思った」と話す。

「映画館が子どもの居場所」のコラボを実現させようと、軽井沢さんが学校などに足を運んだところ、現場の教員からは「民間の力を借りられるのはありがたい」と好反応。学校で「アニメ制作を通して自分を表現する場を選んだ」という高校生の話を聞いたりもしてもらったり、スクールソーシャルワーカーが不登校の子どもに「映画を通して正解も不正解もない多様な価値観を学べる。教科書とは異なる学びを映画で」と説明してもらうなど、学校関係者にも活用を呼びかけている。

この動きの背景には、俳優養成生徒の生徒も参加し、8月に開催された1回目の上映会に足を運んで「用心棒の良さに」を感じたという10代の女子生徒は「学校にはない時間を過ごしてもらうことへの感謝」と喜びを語った。

加えて、映画のオンデマンド配信などで「映画館離れ」が起きている映画業界にとっても、子どもの居場所としての新たな活用策の強い意味がある。

アイダオの原井恵さん（49）は「俳優養成生徒たちと接する中で、10代が不登校をきっかけに引きこもりになったという話を聞くことがすごく多かった。長野はそもそも自殺率も全国トップクラス。地域の中に学校以外の居場所を作る必要があると思った」と話す。

加えて、映画のオンデマンド配信などで「映画館離れ」が起きている映画業界にとっても、子どもの居場所としての新たな活用策の強い意味がある。

「映画館が子どもの居場所」のコラボを実現させようと、軽井沢さんが学校などに足を運んだところ、現場の教員からは「民間の力を借りられるのはありがたい」と好反応。学校で「アニメ制作を通して自分を表現する場を選んだ」という高校生の話を聞いたりもしてもらったり、スクールソーシャルワーカーが不登校の子どもに「映画を通して正解も不正解もない多様な価値観を学べる。教科書とは異なる学びを映画で」と説明してもらうなど、学校関係者にも活用を呼びかけている。

この動きの背景には、俳優養成生徒の生徒も参加し、8月に開催された1回目の上映会に足を運んで「用心棒の良さに」を感じたという10代の女子生徒は「学校にはない時間を過ごしてもらうことへの感謝」と喜びを語った。

加えて、映画のオンデマンド配信などで「映画館離れ」が起きている映画業界にとっても、子どもの居場所としての新たな活用策の強い意味がある。

アイダオの原井恵さん（49）は「俳優養成生徒たちと接する中で、10代が不登校をきっかけに引きこもりになったという話を聞くことがすごく多かった。長野はそもそも自殺率も全国トップクラス。地域の中に学校以外の居場所を作る必要があると思った」と話す。

加えて、映画のオンデマンド配信などで「映画館離れ」が起きている映画業界にとっても、子どもの居場所としての新たな活用策の強い意味がある。

アイダオの原井恵さん（49）は「俳優養成生徒たちと接する中で、10代が不登校をきっかけに引きこもりになったという話を聞くことがすごく多かった。長野はそもそも自殺率も全国トップクラス。地域の中に学校以外の居場所を作る必要があると思った」と話す。

上映作監督と交流

自身の中退体験語る

10月3日に上田映劇で上映された「ブレッドウィナー」のノラート・トゥーミー監督（49）＝アイルランド在住＝が、同館の人々とオンラインで交流した。作品はタリバン政権下のアフガニスタンが舞台。過酷な日常を生きぬこうとする少女と家族の姿を描いた。ノラ監督は「戦争を含めて8年かかった。子どもの視点を通してストーリーを語ることを大事にした」と語った。

ノラ監督は学校に通えず、15歳で高校を中退した。工場で3年間働いた後、学校になじめず、15歳で高校を中退した。工場で3年間働いた後、「アニメ制作を通して自分を表現する場を選んだ」という。

「自分自身の世界を理解できて、伝えられるようになってから、学校に戻ってアニメを勉強して、友人もできました。それが今の私につながっています」

最後に見る夏井さん。「映画を通して正解も不正解もない多様な価値観を学べる。教科書とは異なる学びを映画で」次回は9日、「ニューシネマ・パラダイス」（1989年）を上映する。要事前予約。予約や問い合わせは上田映劇（0268・22・0269）。

ウチの場合は

森下裕美

（5239）

「ロケットストーブ」一緒に作

長野でワークショップ

7日から県立大、信大生ら

燃焼効率が高く環境に優しい暖房として注目される「ロケットストーブ」を作るワークショップを、県立大と信州大の学生有志が7日、塩尻市西長野町のシェアハウス「ヤギハウス」で始める。

ロケットストーブはドラム缶などを使って作り、まきなどの燃料を燃やす過程で出た煙を再度燃焼させる「2次燃焼」まで起こす。燃焼効率を高めるため少ないまきで高効率の暖が取れ、煙も少ない。煮炊きもできる。

県立大3年の青木高[illegible]ページョン。ヤギを飼い、地域住民の交流スペースにすることを目指す。その一環で「美術創造舎マゼコゼ」を主宰する美術家の小出[illegible]久さん（56）を講師に招きワークショップを開く。7、8、15、22日の4回でストーブを完成させ、1回の参加でも楽しめる。

小林さんは「ストーブは木や土で作るので地球と共生する感覚を味わいたい。地域の皆さんと一緒にご飯を食べたりする場になれば」と期待している。

問い合わせはフェイ[illegible]

コロナ禍を生きる

特殊な光触媒で暗所の座席抗菌

塩尻・レザンホール

特殊な光触媒コート剤を座席に塗布する作業員＝塩尻市大門七番町のレザンホールで

塩尻市文化振興事業団は新型コロナウイルス対策として、指定管理する市文化会館「レザンホール」（同市大門七番町）で、暗い場所でも抗菌・抗ウイルス効果がある特殊な光触媒コート剤を座席や手すりに塗布した。

信州大工学部の特許技術を使った「暗所抗菌・可視光活性酸化チタン光触媒」のコート剤で、国の補助金を活用して県内の公共ホールで初めて施工した。

共同開発した信州大工学部の[illegible]教授は「暗所でも効果が[illegible]化の効果[illegible]朝井[illegible]による[illegible]と最も[illegible]の弱い[illegible]ルでにおい[illegible]ることと院や[illegible]例があ[illegible]レザ[illegible]の座席[illegible]

天気

新聞（夕刊）
（第3種郵便物認可）

映画館 君たちの居場所

不登校の子ら招き上映会

不登校やひきこもりの子どもたちを支援するため、長野県上田市の映画館「上田映劇」で子どもを上映会に招く活動が行われている。大正時代に芝居小屋として開業した歴史を誇りながら十年前に閉館、市民の手で復活した。学校でも家庭でもない「第三の居場所」として、ひきこもりの問題と向き合ってきたスタッフが子どもたちを温かく迎え、安らぎを与えている。

（我那覇圭）

上 不登校の子どもたちを対象にした上映会を定期的に開いている上田映劇
下 うえだ子どもシネマクラブの活動について語る直井恵さん＝いずれも長野県上田市で

「スタッフと気軽に話せるし、映画も楽しめる。気持ちが落ち着く」。六月二十一日、母親と上田映劇を訪れた県内の通信制高校二年の女子生徒（一七）の表情は明るかった。学校の先生と折り合いが悪く、小学五年から中学三年まで不登校を経験。家庭では長く母親と会話する機会も少なかったが、「今は映画館からの帰り道に映画の内容をよく話すようになった」とほほ笑む。

上田映劇は一九一七（大正六）年開業の芝居小屋が由来。昭和、平成に黄金期を迎えたが、大型映画館の進出に押され、二〇一一年に閉館した。残った建物はイベントスペースとして営業を続けた。

それでも映画館の復活を望む声は後を絶たず、地元の映画ファンらが結成したNPO法人「上田映劇」が運営主体となって一七年、再オープンをかなえた。

子どもたちを上映会に招く「うえだ子どもシネマクラブ」

長野・上田映劇 県内外から参加受け付け

は二〇年八月にスタートした。活動にはNPOの上田映劇のほか、市内でNPO設立を支援する「アイダオ」、不登校やひきこもりだった子どもらが通う民間教育施設運営の「侍学園スクオーラ・今人」の二つのNPOが参加。金融機関で長期間出し入れがない「休眠預金」を生かした助成金制度を活用した。

上映作品は、十四歳の多感な少女の生き方に迫った韓国映画や、東日本大震災で家族を失った少女の再生を描いた邦画など。オンラインで海外在住の映画監督と結んだトークショーを開催したこともある。侍学園の生徒らが館内に開くカフェで来館者をもてなす。上映会は今年四月から月二回に増やし、上映作品を充実させるために午前と午後で作品を入れ替える場合もある。

アイダオの直井恵さん（四二）は「映画には、その場にいながらにして外の世界とつながれる魅力がある。今後も自宅から一歩踏み出すための『処方箋』のような役割が果たせられればうれしい」と話す。

上映会の参加は県内外から受け付けている。事前登録制。上田映劇が発行する「手帳」を持参する必要がある。上映スケジュールは、うえだ子どもシネマクラブのホームページで確認。問い合わせはアイダオ＝電〇八〇（4813）1110＝へ。

#withyou ～きみとともに～

学校苦手な子 映画館おいで

長野・上田 NPOが毎月上映会 居場所に

学校に行きづらい子は映画館においで――。長野県上田市の三つのNPO法人が協働し、毎月2回、築100年を超える映画館で無料上映会を続けている。孤立しがちな若い世代に、さまざまな映画作品と出会う機会と、人と交流する居場所を提供している。

朝10時前、映画館「上田映劇」前に「うえだ子どもシネマクラブ」の看板が置かれると、小中学生が次々とやって来た。8日午前の上映作品は「映画さんねんないきもの事典」。子どもたちはロビーで無料のポップコーンを受け取って客席へ。親やきょうだいと一緒の子も多い。

上映が始まってもロビー脇のカフェスペースで絵を描くのに夢中な子たちがいた。どう過ごすかは自由。カフェではNPO法人のスタッフが遊んでくれる。映画をみるのに疲れたら途中で客席から出ても良い。昼休みや午後の上映後のロビーでは、タブレット端末でゲームをする子どもや、話し込む若者と大人の姿もあった。

76人のシネマクラブ登録者のうち、この日に参加した子どもは21人。保護者や支援者も15人来ていた。

「久しぶり」「初めて？楽しんでね」などと声をかけていた直井恵さん（43）は、NPO法人「アイダオ」の事務局長だ。

シネマクラブは「アイダオ」と、上映や館の保存・活用を担う「上田映劇」、若者の自立を支える「侍学園スクオーラ・今人（いまじん）」の三つのNPO法人が協働。

「孤立を生み出さないための居場所作りの整備～コミュニティシネマの活用～」事業として、2年前から続けてきた。今年度までの活動資金は、休眠預金を活用した助成でまかなう。

上映会は原則月2回の月曜だが、毎週水曜と金曜も、別館として使う近くの映画館の事務所を登録者らの居場所として提供する。最近は中学生や自立を目指す20代の女性ら数人が来ておしゃべりや勉強をするほか、ポスターを貼り替えるなどの作業を手伝う。

「学校が苦手だったり卒業後に悩んだりしている人が、映画でいろんな人生や価値観に触れて、なにか感じてもらえれば。映画館に来れば人と話す機会もあるし、細かい作業をしてくれるのは私たちも大助かりです」と直井さんは言う。

今年2月には「映画館は未来をつくる学びの場」と題したシンポジウムも開いた。中学1年（当時）の女子生徒は、「学校に行っていない人とかいて相談しやすいし、ひきこもっているよりは絶対こういうところに来た方がいいと思います」と利用者としての意見を壇上から語った。

生徒は昨年の夏休み明けから学校に通えなくなったという。「映画はいろんな物語に入り込める。水曜は英語も教えてもらえる。部屋から出たくなくて人と全く話さない時期があったけど、ここでは話せる」と取材に話した。今春から学校で部活に参加するようになったという。

別の中学3年の女子生徒は人と話すのが苦手で、学校には通うが教室の授業には出ていない。「シネマクラブにいる年上の人は優しくて話しやすく、会話の練習にもなる。家みたいにリラックスできるし、通うようになって外へ出やすくなりました」と話した。

地域連携 出席扱いの学校も

「うえだ子どもシネマクラブ」の特徴は、親の相談にも乗りつつ、地域の多くの機関や団体と協力して対応していることだ。

県や周辺市町の教育委員会が後援しており、毎月の上映予定は教委を通じて学校へも届けられる。スクールソーシャルワーカーがシネマクラブを紹介する例が多く、ここへの参加を学校への「出席」扱いとする例も出てきた。

ニートやひきこもり関連の相談を受ける「長野県東信子ども・若者サポートネット」も、学校や社会への復帰を前にした人にシネマクラブを紹介することがある。相談員の宮尾彰さんは「シネマクラブは肩書を感じさせない地域の大人が迎えてくれる場所。心の燃料が不足きみの人たちも安心していられるように感じます」と話す。

近くの小諸市で不登校の子の支援を続ける県動物愛護センター「ハローアニマル」も連携先の一つだ。職員と一緒に動物と触れあって過ごすうちに「何かしたい」という気持ちを抱いた子に、シネマクラブを紹介することがある。顔見知りの職員も上田映劇に足を運ぶので、子どもは安心して一歩を踏み出せるという。

（上野創）

「うえだ子どもシネマクラブ」に登録する中学生（左）と話す直井恵さん（右）＝8日、長野県上田市の上田映劇

夏休み明け SOSに気づくには

教育評論家・武田さち子さん

夏休み明けは、子どもたちの心が不安定になりやすいと言われます。いじめの電話相談に長く関わり、小中高生の自死事案や小学生の不登校事案の第三者委員を務めるなどしてきた教育評論家の武田さち子さん(63)＝一般社団法人「ここから未来」理事＝に、子どもの命を守るために大人ができることについて聞きました。

警察庁の調べでは、2021年に自殺した人のうち、19歳以下は750人。この数字には小学生11人も含まれます。いまは、小さな子どもでも自殺の方法をテレビや漫画、ネットから簡単に知ることができ、「小さいうちは大丈夫」と安心はできません。

特にいじめは、思春期の子どもにとって、「死にたい」という希死念慮に結びつきやすい悩みの一つです。13年9月～21年7月に調査・検証のための委員会が立ち上がった子どもの自殺・同未遂事案計105件を独自に分析したところ、6割以上で事前に何らかのSOSを出していました。ただ、いじめの相談を受けていても、教師が「単なる生徒間トラブル」などと思い、いじめと捉えていなかった事例も多くありました。

話よく聞く ■ 体調不良に注意

子どもは、つらい内容をたいしたことがないように話すことがあります。たとえば、いじめの被害者は「いじめられている」と明確に言うとは限らず、「学校を休みたい」「転校したい」と言うことがあります。特に深刻な被害や悩みについては、なかなか話せません。多くの子どもが最初に話すのは、最も小さな被害や、証拠を示しやすい内容です。それを話したときの相手の反応を見て、さらに話すかどうかを決めることも多い。だから、最初の話だけを聞いて「たいしたことがない」と決めつけると、対応を誤ります。

自殺の可能性がある「要注意サイン」があります。薬が効かないほどの頭痛など、原因不明の体調不良は、亡くなった子どもたちに多く見られました。原因不明の体調不良が2週間続くなら、心療内科を受診するよう勧めています。「大丈夫」などの言葉で判断せず、食欲はあるか、夜は眠れているか、子どもの様子に気を配ってほしい。子どもに兆候が見られた場合は、一人きりにせず、保護者や教員など周囲の大人で情報を共有してください。

それぞれのご家庭では、夏休みに、子どもたちにたくさんの楽しい体験をさせてあげてほしい。そして、夏休み明け、もし子どもが学校に行くのを渋るなら、学校を休ませ、じっくり話を聞いてあげてください。「学校がつらい」と感じる子たちの心は既に傷ついています。これ以上、傷を増やさないよう、安心できる居場所や信頼できる人間関係を少しずつ増やしていくことを目指してほしいと思います。

（塩入彩）

◆感想や、教育に関する情報をお寄せ下さい。edu@asahi.comまたは〒104-8011　朝日新聞東京本社　社会部教育班へ。

介護、医療、子育て、老後に関するご意見・疑問をお寄せ下さい
メールansin@yomiuri.com
ファクス03・3217・9957

今週は　月 福祉用具の開発　火 不登校支援　水 病院の実力

不登校生徒 映画で学ぶ

長野の中学生が 仲間と軽作業・交流

不登校の小中学生が増えるなか、学校外での多様な学びの場や居場所づくりの必要性が高まっている。フリースクールや家庭での学習のほか、映画を活用して不登校の子どもらの学びを育む動きも出てきた。民間団体の取り組みを訪ねた。（田中文香）

「出席」扱いに

「学校に行きづらい日は映画館においで」――。

長野県上田市の映画館「上田映劇」では、平日の日中、不登校の子どもや、生きづらさを抱える若者らの居場所を作る事業「うえだ子どもシネマクラブ」を2020年から実施している。約100人が登録しており、このうち中学生5人は、映画館に通うことが「自立を支える学びになっている」などとして、学校長の裁量で「出席」と認められている。

11月下旬に訪れると、不登校の若者ら3人が協力しながら館内の清掃やポスターの貼り替えなどの軽作業に取り組んでいた。映画館には活動を支援する大学教員や、映画監督らも訪れ、交流している。

昨年夏から、スクールソーシャルワーカーの紹介で映画館に通う男子中学生(14)は「学校と家が全てではないと感じられる」と話す。現在は週3日ほど通い、同館を居場所にする若者らと会話をして過ごす。

作品で興味発見

クラブは、市民活動をつなぐNPO法人「アイダオ」と映画館、フリースクールの運営団体が3者で連携し、休眠預金を活用した助成金で運営する。

運営側が注力しているのは、休館日に月2回無料で上映している名作やドキュメンタリーなどの選定だ。島崎藤村の「破戒」やインドネシアのクジラ漁を映画化した作品などを上映してきた。クラブを運営するアイダオ事務局の直井恵さん(44)は「映画を通じて、多様な価値観や世界のできごとに触れて、自分と向き合うことができる。ここで自分の興味があることを見つけてほしい」と語る。

「作業や交流のある映画館は自分の居場所になっている」と話す男子中学生（左）と、見守る直井さん（11月下旬、長野県上田市の「上田映劇」で）

上映会に合わせて開かれるカフェなどでは、「舞台になった場所に行ってみたい」「映画の世界に共感した」と話す子どもたちもみられる。家に引きこもっていた子が上映会に来て、保健室登校につながったこともあった。

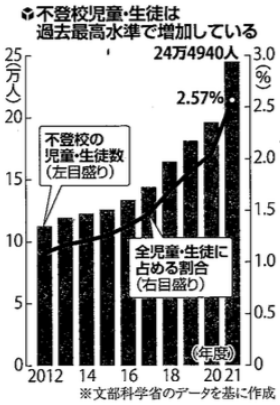
精神的不調で入退院を経て大学に戻った女性(22)は、「クラブで見た映画や人とのつながりの中に回復のきっかけがあった」と語った。

映画人招き教室

映画は制作面でも、生きづらさを抱える子どもらの創造力を引き出す契機として注目されている。一般社団法人「こども映画教室」（東京都）では、諏訪敦彦監督や是枝裕和監督ら、第一線で活躍する映画人を招いて教室を全国で開催している。映画制作の時間では子どもたちが互いに意見を出し、自分たちの力で脚本づくり、撮影、編集を進め、作品を上映する。

正解のない映画づくりに取り組むことで、自分の考えや多様な価値観を尊重できるようになることを期待している。学校に行きづらいと感じている子も参加し、自信をつけていく姿がみられた。

代表理事の土肥悦子さんは「チームごとに異なる作品ができる映画づくりは、一人一人がそこにいるからこそ成り立つもので、子どもを肯定して受け入れることができる」と話す。



※文部科学省のデータを基に作成

昨年度は過去最多更新

2021年度の不登校の小中学生は24万4940人と過去最多を更新し、増加傾向が続いている。前年度から4万8813人増え、全児童・生徒に占める割合も約2.6%に上昇した。

不登校の子どもの増加傾向に対応し、17年に「教育機会確保法」が施行された。国はそれまで法的位置づけのなかった民間のフリースクールなどの重要性を認め、多様な学びの場の確保に、本格的に乗り出した。

文部科学省は、自治体が設置する教育支援センターや民間のフリースクールなど学校外での学びについて、在籍校の学校長の裁量で「出席」扱いとすることを認めており、学校現場にこの仕組みを周知させる考えだ。21年度に学校以外の場で相談したり、指導を受けたりした児童・生徒は8万8322人で、このうち約3割が出席扱いだった。

「出席」扱いにより、子どもは、公認された活動に参加しているという自己肯定感をもつことなどが期待される。NPO法人「フリースクール全国ネットワーク」の江川和弥代表理事(58)は「同じフリースクールでも学校長によって出席扱いの判断が分かれることがある。子どもを中心に考えて連携を深め、適性のある民間施設で広く出席を認めてほしい」と話している。

わたしのビタミン

困難を抱える人々を描く小説家

丸山 正樹 さん 61

に感銘

手話通訳士を通じてろう者の世界を描いたミステリー「デフ・ウ子ども「コーダ（CODA）」です。主人公もそうなのですが、コを伝えたいと思い、小説を書き続けています。

◆――◆

子どもの頃から小説や映画、ドラマが好きで、「将来は物語をつくる人になりたい」と考えていました。大学卒業後、フリーのシナリオライターをしていたのですみると、ろう者として誇りを持つ人たちや日本手話にたどり着き、「ろう文化」の奥深さに感銘を受けました。ミステリーにしたら、多くの人が知らない世界を描けるのではないかと思って書いたのが、「デフ・ヴォイス」です。

物語を一つ書くと、違う分野のマイノリティーに気づきます。幼

私自身、吃音があって、マイノリティーだと感じることがあります。困難を抱えている人たちの現実を知り、まだ書かれていないこめ、自分も含めた大人がしっかりしなければいけないという思いを込めました。

◆――◆

信濃毎日新聞
1873年（明治6年）創刊
発行所 信濃毎日新聞社
長野本社 〒380-8546 長野市南県町657番地
電話（026）
受付236-3000 編集236-3111
販売236-3310 広告236-3333
松本本社 〒390-8585 松本市中央2丁目20番2号
電話（0263）
代表32-1200 報道32-2830
販売32-2850 広告32-2860
©信濃毎日新聞社2022年

発
一面 天龍で茶摘み
な味わいに？ 天竜川を見下
龍村中井侍地区の畑で今年も
が始まった 19面

国内発
少子化 一段と鮮明に
14歳以下の子どもの数は4月時点で1465万人。前年より25万人少なく、41年連続で減った 22面

戦争犯罪 遺体に痕跡
頭部を撃ち抜いた銃弾―。遺体から、ロシア軍による戦争犯罪の証拠が明らかになりつつある 7面

登校に難しさ感じる中3に校長判断
上田のクラブ参加「出席」扱い

学校に行きづらさを感じている子どもたちの居場所として上田市の映画館「上田映劇」で開いている「うえだ子どもシネマクラブ」。ここに上田小県地域の中学3年の男子生徒（14）が訪れた際、在籍する中学校が「出席」として扱っている。教育機会確保法に基づき、校長が判断した。学校への登校にこだわらずに自立を支えようとの狙いだ。

映画館での活動 自立支援狙い

クラブの活動で、映画館前のポスターを張り替える男子生徒＝4月22日、上田市

県教委によると、フリースクールや自宅での学習を出席と扱う事例は増えているが、民間の「居場所」への参加を出席と扱う例は県内公立小中学校で他に把握していないという。

クラブは、いずれも市内のNPO法人上田映劇と、市民活動などを支援するNPO法人アイダオ、若者の自立を支える認定NPO法人侍学園スクオーラ・今人が連携して運営。月2回、映画の上映会を開く他、毎週水、金曜日の日中に映劇の別館で子どもたちに自由に過ごしてもらう。

男子生徒は昨年8月からクラブに参加。翌月から出席扱いとなった。小学校4、5年の頃から学校に行きづらさを感じ、現在は自宅などで勉強しながら、中学の特別支援学級に自分のペースで通う。クラブでは興味のある作品を見たり、上映作品に合わせてポスターを張り替えたり。同世代の参加者や大人たちと交流することで「居心地がいいし、悩みを話せる」と話す。

在籍する中学校の校長は、地元自治体の教育委員会と相談。生徒が「自分の居場所」を見つけることで「学習や進学に目が向くようになり、励みにもなればいい」と出席扱いを決めたという。

学校外での学び 法律で推進
学習機会確保 難しさも

不登校の児童生徒が全国的に増える中、2017年施行の教育機会確保法は、子どもたちにとって「学校以外の場での多様な学び」が重要だと打ち出し、国は民間施設などでも一定の要件を満たせば校長の判断で学校への「出席」として扱えるとした。これを受け、県内でもフリースクールなどに通う事例は増えている。ただ、学習の機会の確保との兼ね合いには難しさもあり、現場では模索が続く。

県教委は19年度から、フリースクールなどの利用者のうち出席扱いになった県内小中学生の人数を調査。19年度は166人が利用し、出席扱いは80人。20年度はそれぞれ255人、122人と5割ほど増えた。タブレット端末などを生かした自宅での学習が出席扱いとなったのは19年度が12人、20年度は53人だった。

出席日数が少なくても進級や卒業などに影響はないが、県教委は「多様な学びの場」を提供、利用する動きが広がっているとみる。

文部科学省は19年10月、各都道府県教委などに対し、不登校の児童生徒への対応では「学校に登校する」ことだけを目標にしない―と通知。学校以外の施設で出席と扱う要件には、実施する相談や指導が児童生徒の「社会的な自立を目指す」ことなどを挙げた。子どもや地域により事情が異なるとして、具体的な基準や事例は示していない。

ただ、フリースクールなど以外の場での出席扱いは広がっていない。県内のある町の教育長は対応を前向きに捉えつつ「興味を持ってきちんと学べる」場を条件に挙げる。東信地方のスクールソーシャルワーカーの女性は「不登校の子ども自身、日中を学校以外の場所で過ごすことに後ろめたさを感じている」とし、出席扱いの枠が広がり、身近に定着することを期待する。

喜多明人・早稲田大名誉教授（子ども支援学）は、その実現には学校や地域に「子どもが求める学びは多様であっていい―という発想」への転換が必要になると指摘する。

一方、NPO法人アイダオの事務局を務める直井恵さん（43）は学習の機会への配慮から、映画観賞後に作品のテーマや歴史を掘り下げる活動も展望する。ただ、クラブは子どもたちに自由に過ごしてもらう場でもあり、双方の取り組みには「重なるところと重ならないところがある」。両立させる難しさを話した。

（浜田 朝子）

命に 上社

7年目に1度の諏訪大社御柱祭上社里曳きは2日目の4日、前宮（茅野市）に建てる4本の御柱の曳行が行われた。3日に出発した本宮（諏訪市）に建てる4本も引き進められ、全8本の御柱が各境内に到着した。5日に里曳きのフィナーレとなる「建て御柱」が

沖縄基地負担「不平等」79％
「自分の地域への多数は反対 9％

のどごし極上
くりざさ®
季節限定 栗水ようかん
品質第一 竹風堂
https://chikufudo.com

天気
最高気温
最低気温
北部 6時 12 18 24 6日 7日 8日
中部 6時 12 18 24 6日 7日 8日
南部 6時 12 18 24 6日 7日 8日
5%以上 5%
18面に詳しい天気情

【WEB】

●長野県文化芸術情報発信サイト CULUTURE.NAGANO 特集記事
https://www.culture.nagano.jp/special/5172/
●mamalog_学校に行きづらい日は映画館へ 《うえだ子どもシネマクラブ》という居場所
https://mama.hanalab.co/12177
●長野県魅力発信ブログ「じょうしょう気流」2021 年 9 月 6 日 「行ってきました、子どもの居場所！その１うえだこどもシネマクラブ！」
https://blog.nagano-ken.jp/josho/info/town/63023.html
●マガジンハウス WEB サイトここここ「不登校の子どもたちの新しい「居場所」を目指したコミュニティシネマとは。映画館を活用する「うえだ子どもシネマクラブ」2022/10/24 https://co-coco.jp/news/uedakodomocinema/
●女子 SPA（前半）2022.10.14「小中高生の自殺が過去最多…。地域の映画館を“子どもの居場所”にする取り組みを取材」
https://joshi-spa.jp/1199551?cx_clicks_art_mdl=3_img&fbclid=IwAR1zovtN5npheINO5wJbVFp9rOv63rt3wBbT42-9HHnPy7o5NXs19JIOxz8
●女子 SPA（後半）2022.10.16「「学校に行きづらい日は映画館へ」登校とみなされるケースも。運営者に聞く」
https://joshi-spa.jp/1199587?cx_clicks_art_mdl=2_title&fbclid=IwAR2dAWcOvkaIKqvyhtyIFcCzrv6VN-C8Go32D9mNeei_kscMzc5pFl-pW9I

【テレビ】

●NHK（長野県域） イブニング信州 2022 年 6 月 8 日(水)18:10‐19:00 のニュース番組内にて、うえだ子どもシネマクラブについて紹介された。
●NHK（関東甲信越）おはよう日本 2022 年 6 月 9 日(木)7:45‐8:00 のニュース番組内にて、うえだ子どもシネマクラブについて紹介された。
●TBS ひるおび 2022 年 9 月 15 日 番組内でシネマクラブが紹介された。

【ラジオ】

● SBC ラジオ 中澤佳子のうっぴいステーション 2022 年 11 月 21 日・28 日
● FM 長野ラジオ MAGIC HOUR パーソナリティ:小林新 / 2023 年 2 月 20 日

【雑誌、冊子】

●『長野の子ども白書 2021』2021 年 5 月 26 日発行
事例報告：子どもと共につくる地域「学校に行きづらい日は映画館においでよ！」

● KAY NEWSLETTER 「うえだ子どもシネマクラブ だれもが安心できる居場所がある。」　2021 年 1 月 15 日発行
● 丸子中央病院広報誌「Marukko」2023 年 3 月発行

★「のきした」の活動の一連で紹介されたもの↓↓↓
○ 雑誌『地域創造』第 47 号 レジデンス再考／well-being（よりよく生きる）2021 年 12 月発行
https://www.jafra.or.jp/library/magazine/backnumber/8082.html
○ ソトコト（2022 年 3 月号）特集 ｜ まちをワクワクさせるローカルプロジェクト
https://sotokoto-online.jp/people/12689

2.広報制作物等

● うえだ子どもシネマクラブ monthly lineup　2021 年 9 月～2023 年 3 月まで。
● うえだ子どもシネマクラブ パンフレット
● うえだ子どもシネマクラブ 関係者 map
● うえだ子どもシネマクラブ 公式サイト　https://uedakodomocinema.localinfo.jp/

3.報告書等

● うえだ子どもシネマクラブ 2020 年度報告書
● うえだ子どもシネマクラブ 最終報告書（発行予定）